

第一項ニ問擬シタリ然レトモ判示行爲ハ左ノ如キ理由ニヨリ脅迫罪ヲ構成セサルモノト思料ス(一)脅迫トハ畏怖心ヲ生セシムル目的ヲ以テ害惡ヲ加フヘキコトヲ通告スルコトヲ謂ヒ之カ爲被脅迫者カ現ニ畏怖シタルコトヲ必要トセサルコト學說判例ノ一致スルコロナリ然レトモ害惡ノ内容タルヤ客觀的ニ人ヲ畏怖セシムルニ足ル内容タラサルヘカラスト信ス仍テ原判決カ脅迫ノ内容トシテ指摘シタル前掲判示所爲ニ付按スルニ言辭ノ上ニ於テ不穩ナルニ非ス即世上一般ノ小作爭議ニ於テ爭議中小作人ハ小作料ヲ滯納スヘク或ハ地主カ小作地返還ヲ要求スルモ訴訟行爲ニヨリ土地明渡ノ判決確定スル迄ハ其ノ取戻ヲ爲シ得サル實狀ニ在リ爭議カ長引ケハ長引ク程小作人ニハ有利ニシテ地主ニハ不利ナル結果ヲ齎ス旨ノ社會現象ヲ敘述シタルニ過キサルナリ若シ斯ノ如キ内容ノモノマテモ脅迫罪ニ該當スルトトセンカ勞働條件ニ關スル勞働者ト資本家トノ交渉ニ於テ勞働者カ資本家ニ對シ「賃銀二割ノ値上ケヲ爲ササルニ於テハ我等ハ同盟罷業ヲ決行スヘク然ル時ハ資本家ハ財産上莫大ノ損失ヲ蒙ルヘシ」ト申向ケルコトハ脅迫トナラン又借家問題ニ於テ借家人カ家主ニ對シ「家賃ヲ値下セサレハ納メキレヌ依テ滯納スルニ至リ家主カ明渡ヲ求ムルモ訴訟ノ終結スル迄ハ相當月日要スヘキニヨリ家主ノ損失ニ歸スヘシ」ト云フモ脅迫ナリトセラルルナラン而已ナラス吾人ノ社會生活ニ於ケル相互間ノ經濟的諸取引ニ於テモ或ハ借金ヲ減額セサレハ支拂ハストカ或ハ代金ヲ増額セサレハ品物ヲ引渡サストカト謂フカ如キ取引上ノ掛引乃至ハ交渉ノ全般ニ互リテ苟クモ相手方ノ損失ニ歸スル事實ヲ告クルハ財産

上ノ損失ヲ告クルコトニシテ脅迫ナリトノ暴論ヲ許ス結果ニ陥ルヘキナリ斯ノ如キハ刑法第二百二十條ノ趣旨ニ非ルナリ(二)我國現行ノ法制上勞働爭議權又ハ同盟罷業權ハ法律ノ上ニ明定セラレヌト雖勞働爭議調停法小作調停法等ニヨリテ默認サレ居ルコトハ爭ナキ處ナリトス而モ治安警察法第七條カ大正十五年法律第五十八號ヲ以テ廢止セラレタルコトハ又反面ヨリ同盟罷業小作爭議ノ合法性ヲ法律ニヨリテ認メタルモノト解セサルヘカラス而モ改正前ノ治安警察法第十七條第二項ニハ「耕作ノ目的ニ出ツル土地賃貸借ノ條件ニ關シ承諾ヲ強ユルカ爲相手方ニ對シ暴行脅迫シ若ハ公然誹毀スルコトヲ得ス」トアリシヲ削除シタル所以ノモノハ小作條件ノ交渉ニ當リ特殊ノ脅迫ヲ法律ニ於テ規定シテ處罰セサルコトヲ明示シタルモノナリ斯ノ如ク小作爭議權カ假令裏カラニシテモ認メラレ來リタル法律進化ノ過程ヲ正當ニ理解スルニ於テハ少クトモ不法手段ヲ明示又ハ暗示スルカ如キ害惡ノ通知ニ非スシテ平和的ナル普通ノ爭議其ノモノノ實例ヲ引用シテ地主ノ反省ヲ促スカ如キハ社會通念上脅迫ニ非スト思料ス(三)原判決ニ引用セラレタル證人ノ豫審訊問調書ヲ閱スルニ被脅迫者タル野澤茂堯(記錄第一八一―第一八四丁)野澤ささ(記錄第二四六―第二四八丁)野澤安夫(記錄第二五六―第二五九丁)ハ何レモ被告人等ノ言動カ荒々シカラス或ハ不穩ニ非リシ旨ノ供述ヲ爲シ居リ殊ニ證人野澤ささハ「大屋等ノ話振リハ普通ノ話振リテ夫ハ時々笑ヒ乍ラ話シテ居リマシタ」(記錄第二四六第ニ四七丁參照)ト述ヘ居ル位ニテ同人等ノ心理ニ影響ヲ與ヘタル點ハ被告人等カ農民組合ニ所屬スル

一點ナリト思料ス即チ被告人等ハ農民組合員ナルカ故ニ亂暴スルニ非サト氣遣ヒタル旨ノ供述記載アルニ過キス抑被告人ノ所屬スル全國農民組合ハ杉山元治郎ヲ組合長トスル合法的團體ニシテソレ自體何等世人ヲ畏怖セシムルカ如キ性質ノモノニ非ス凡ソ現代ノ政治經濟社會ノ諸現象中人ノ結合タル集團ハ威力ニシテ其ノ團結ノ威力コソハ資本財産ヲ有セスシテ勤勞ニヨリ其ノ生計ヲ立ツル無產階級カ其ノ生活條件ヲ維持シ改善スルニ用ヒテ何等社會生活ノ安全ヲ害セサルトコロナリ而シテ此威力タルヤ相手方ヨリ之ヲ見レハ其ノ利慾遂行ノ障害トナルモノニシテ之ニ依ツテ受クル心理的壓迫ハ或ハ畏怖ト云ヒ得ルヤモ知レズ然レトモ其ノ團體ノ威力ソノモノノ合法的發動ハ脅迫ニ非ルヤ明カナリ原判決ハ此團體ソノモノノ有スル威力ヲ脅迫ト即斷シタル誤謬アリト思料ス之ヲ要スルニ原判決ハ暴力行為等處罰ニ關スル法律ヲ誤リテ適用シタル違法アリ破毀ヲ免レスト云フニ在リ

仍テ按スルニ原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人等ハ小作農小山榮太外數名ヨリ其ノ地主野澤辰之助ニ對スル小作料減額要求方ノ交渉ノ依頼ヲ受クルヤ同人方ニ赴キ其ノ長男茂堯ニ對シ先ツ被告人等ノ背後ニ農民組合ナル團體の威力アルコトヲ示シタル上右小山榮太等ニ對スル小作料ノ八割方減額セラレタキ旨ヲ要求シ若シ之ニ應セサルニ於テハ小作料ノ支拂ヲ爲サシメサルハ勿論小作地ノ返還ヲモ拒絕セシメテ害惡ヲ加ヘシムヘキ旨ヲ告ケテ脅迫シタリト云フニ在リテ右事實ハ原判決ノ舉示スル證據ニ依レハ之ヲ認定スルニ足ルヲ以テ其ノ間語辭ニ多少足ラサルモノアリトスルモ右事實ヲ暴力行為等處

罰ニ關スル法律第一條第一項ニ問擬シタルヲ目シテ擬律錯誤ノ違法アリト云フヘカラス若シ夫レ治安警察法第十七條ノ廢止セラレタルノ理由ヲ以テスル所論攻撃ニ至リテハ本件ニ適切ナラス論旨ハ理由ナシ

第二點原判決ハ「被告人大屋政夫カ野澤茂堯方ニ赴キタル際所轄警察署タル宇都宮警察署ノ許可ヲ受ケスシテ拳銃一挺(昭和七年領第六號ノ一)ヲ携帯シタル事實ヲ認定シテ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條ヲ適用シタリ而シテ右拳銃ハ之ヲ携帯外出シタル際實彈ノ裝填セラレサリシコト記録ニ徴シ明瞭ナリ如何ニモ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項ハ「拳銃短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授受運搬又ハ携帯スルコトヲ得ス」ト規定セルニ依リ拳銃ヲ携帯セルコト明瞭ナル本件ハ當然前記ノ制裁ヲ受クヘキカ如シト雖法カ拳銃其ノ他ノ兇器ノ授受運搬又ハ携帯ヲ禁シタルハ銃砲火藥類取締法第十二條ノ明示スルカ如ク「安寧秩序ヲ保持スル爲」ナリトス即兇器トシテノ拳銃ヲ取締ル所以ノモノハカカル拳銃其ノモノカ實彈ノ存在ト相俟テ其ノ兇器タル性質ヲ發揮スルカ故ナリ若シ其ノ構造中ニ實彈ヲ保有セス或ハ實彈ノ併存セサル中身空虛ナル拳銃ナランカ玩具ノソレニモ等シク以テ治安維持上ニ於テ取締ノ對象トナラサルモノト解スルヲ妥當トス果シテ然ラハ被告人ノ所爲ハ未タ以テ銃砲火藥類ノ取締法規ニ抵觸セス從ツテ犯罪ヲ構成セサルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ之ニ前

記法條ヲ適用處斷シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル違法アリト云フニ在レトモ
 銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項ハ拳銃短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲
 ニスル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許可ヲ受タルニ非サレハ之ヲ授受運搬又ハ携帯スルコトヲ得サ
 ル旨ヲ規定セルモノニシテ其ノ拳銃短銃等ニ彈丸カ裝填シアルコトヲ要セサルハ勿論彈丸ヲ所持シ居
 ルコトヲモ要セサルヲ以テ所論大屋政夫ノ携帯シタル拳銃ニ實彈カ裝填シアラサリシトスルモ同條項
 竝同法第四十六條ノ刑責ヲ免レサルモノト謂ハサルヘカラス論旨ハ理由ナシ
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事柴傾文關與

【要旨】

○新聞紙法違反被告事件 (昭和八年(九)第三一五號 棄却)
(同年五月十七日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 西原佐喜市 辯護人 米村正一

【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

新聞紙ニ定期又ハ不定期ニ發行スヘキ表示ノ要否

○判決要旨

新聞紙法第一條ノ條件ノ下ニ發行スル著作物タル以上定期又ハ不
 定期ニ發行スヘキモノタルコトノ表示アルト否トヲ問ハス同法ニ
 所謂新聞紙ニ該當ス

【參照】 新聞紙法第一條 本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ
 又ハ六箇月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メシテ發行スル著作物及定期以外ニ本
 著作物ト同一題號ヲ用キテ臨時發行スル著作物ヲ謂フ
 同一題號ノ新聞紙ヲ他ノ地方ニ於テ發行スルトキハ各別種ノ新聞紙ト看做ス

○事實

原判決ハ左記事實ヲ認メ新聞紙法第四條第三十條刑法第十八條ヲ適用シテ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ
 右罰金不完納ノ場合ニハ一日二圓ノ割合ヲ以テ被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ自ラ發行人ト爲リ四國平民新聞ナル一定ノ題號ヲ用キ毎月二回程不定期ニ發行スル意思ヲ以
 テ先ツ昭和六年十二月二十四日頃愛媛縣松山市ニ於テ水平運動ニ關スル時事ヲ掲載シタル菊倍形四頁

新聞紙ニ定期又ハ不定期ニ發行スヘキ表示ノ要否

ノ同新聞第一號ヲ編輯シ昭和七年一月五日頃今治市神明町今治民報社ニ於テ之カ約一千部ノ印刷ヲ爲シ同月六日頃ヨリ八日頃迄ノ間ニ約五百部ヲ大阪市及愛媛縣内ニ發送頒布シナカラ法定ノ事項ヲ内務大臣ニ届出テサリシモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人米村正一上告趣意書原審判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノナリ原審判決ハ「被告人ハ自ら發行人ト爲リ四國平民新聞ナル一定ノ題號ヲ用ヒ毎月二回程不定期ニ發行スルノ意思ヲ以テ先ツ昭和六年十二月二十四日頃愛媛縣松山市ニ於テ水平運動ニ關スル時事ヲ掲載シタル菊倍形四頁ノ同新聞第一號ヲ編輯シ昭和七年一月五日頃今治市神明町今治民報社ニ於テ之カ約一千部ノ印刷ヲ爲シ同月六日頃ヨリ八日頃迄ノ間ニ約五百部ヲ大阪市及愛媛縣内ニ發送頒布シナカラ法定ノ事項ヲ内務大臣ニ届出テサリシモノナリ」ト事實ヲ摘示シ「法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ新聞紙法第四條第三十條ニ該當スルヲ以テ」ト新聞紙法第四條第三十條ヲ以テ被告人ヲ有罪トセリ抑新聞紙法ニ所謂新聞紙トハ同法第一條ニ定義セルカ如ク一、一定ノ題號ヲ用フルコト二、時期ヲ定メ又ハ六ヶ月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メスシテ發行スルコトノ二要件ヲ具ヘタル著作物ニシテ以上ノ二要件ニ該當スル著作物ハ題號ニ

新聞ノ名ヲ附スルト普通新聞紙ノ體裁ヲ有スルト否トヲ問ハス總テ皆新聞紙ニシテ逆ニ以上ノ二要件ノ一ヲ缺クモ通俗的ニ新聞紙タルノ態様ヲ備フルト否トヲ問ハス新聞紙タラサルハ此處ニ詳論ヲ要セサルヘシ然リ而シテ今本件ノ證據トシテ原審判決ノ舉クル昭和七年押第一二三一號ノ一乃至四ヲ見ルニソノ如何ナル部分ヲ視ルモ之カ定期若クハ六ヶ月以内ノ期間ニ不定期ニ發行スヘキモノタルノ表示アルコトナシ尤モコノ點ニ關シ原審判決ハ被告人ニ對スル檢事ノ聽取書ヲ援用シ「當時出來得ヘクシハ一ヶ月二回位不定期ニ發行シ」トノ被告人ノ供述ヲ證據トシタルモコハ新聞紙法ノ本質ヲ忘レタル判斷ナリト謂ハサルヲ得ス抑新聞紙法違反罪ニ付テハ一般的ニ發行人等ノ犯意ノ有無ヲ問題トセス第三十八條後段ニ於テ僅カニ例外ヲ認ムルニ過キス即チ新聞紙法ニ於テ刑事責任ヲ問フハ之カ發行人等ノ惡性ヲ處罰スルニ在ラスシテ新聞紙ノ社會的ニ廣汎ナル影響力ニ鑑ミニ之カ取締ヲ爲サントスルニアリ果シテ然ラハ一定ノ事實カ新聞紙法ニ違反スルヤ否ヤハソノ發行人等ノ意思若ハ認識ニヨリ決スヘキモノニ非スシテ一ニ發行セラレタル著作物自體ニヨリ決セサルヘカラス著作物ノ内容ヲ問題トセス手續上ノ問題ナル場合ハ殊ニ然リ之ヲ本件ニ見ルニ被告人ノ意思ハ一ヶ月二回位不定期發行ニ在リタルカ如クナレトモソノ四國平民新聞トシテ現ハレタルモノニハ何等カカル意思ノ認ムヘキモノナク僅カニ欄外ニ「第一號」第四面「編輯後記」中「二號からは四面を文藝欄にする」ノ記載等アリ繼續發行ノ意思ノ現ハルルノミニシテ通常ノ新聞雜誌ニ所載ノ「毎月一日發行」「日刊」「月二回」等ノ記

載毫モ有ルコト無シ假リニ被告人ノ意思ヲ證據トスルモ被告人ノ新聞紙法所謂新聞紙ノ發行ニ關スル意思ハ新聞紙トシテ發現スル處ナカリシモノナリ以之觀之本件四國平民新聞ハ通俗的ナル意味ニ於テハ新聞紙タルノ態様ヲ具ヘタルニ似タレトモ法律上ノ性質ハ斷シテ新聞紙ニ非ス單ナル出版法上ノ出版物ナリ之ヲ新聞紙法ノ立法理由ヨリ考察スルモ讀者ヨリ見テ何時「次號」ノ發行ヲ見ルヤモ不明ナル著作物ハ繼續的發行ヲ使命トスル新聞紙トシテ購讀ノ意義ナキ著作物ニシテソノ影響カ謂フニ足ラサルモノナレハ一般的出版物トシテ取締ルモ何等取締ニ不便アルコトナカラシ如上述ヘ來レルカ如ク四國平民新聞ハ單ナル出版法上ノ出版物ニシテ新聞紙法所謂新聞紙ニ非サルニ被告人ヲ新聞紙法ニ問ヒタル原審判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ新聞紙法第一條ニ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ又ハ六ヶ月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メスシテ發行スル著作物及定時期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用キテ臨時發行スル著作物ヲ謂フト規定スルヲ以テ苟モ著作物トシテ此ノ條件ノ下ニ發行セラルルモノナルニ於テハ新聞紙法ニ所謂新聞紙ト稱スヘキハ勿論ニシテ此ノ種ノ著作物タル以上定期若クハ不定期ニ發行スヘキモノタルノ表示アルト否トヲ問ハサルモノトス原判決ノ確定シタル事實ハ論旨所掲ノ如クニシテ被告人ノ編輯發行シタル著作物ハ新聞紙法ニ所謂新聞紙ニ該當シ原判決ノ舉示セル各證據ニ依レハ被告人ニ新聞紙トシテ發行スル意思アリタルコトノ證明モ充分ナリ故ニ原判決ニ於テ被告人ノ所爲ニ對シ新聞紙法第四條第三

【要旨】

十條ヲ適用シテ處斷シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○業務上横領被告事件(昭和八年(九)第四三四號 同年五月十八日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 植 田 新 辯護人 七條 清美

【第一審】 中村區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

保管物ニ關スル占有ノ變改ト横領罪ノ成立

○判決要旨

收入役力其ノ業務上保管スル金錢ヲ不正ニ領得スル意思ヲ以テ役

保管物ニ關スル占有ノ變改ト横領罪ノ成立

場備付ノ金庫中ヨリ取出シ該金錢ニ關スル占有ヲ自己ノ爲ニスル
占有ニ變改シタルトキハ業務上横領罪ヲ構成ス

〔参照〕刑法第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ十年
以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ刑法第二百五十三條ヲ適用シ被告人ヲ懲役七月ニ處シタリ
被告人ハ高知縣幡多郡七郷村收入役トシテ同村ノ公金ノ出納保管ノ職務ヲ執掌中同郡白田川村酒井貞
之助外數名ニ對スル合計金二千五百圓ノ債務ノ辨濟ニ窮シタル結果之カ辨濟ノ資ニ供スル爲昭和七年
十一月十四日午後五時過頃退廳ノ際同役場備付金庫在中ノ自己保管ニ係ル現金三千二百九十五圓ヲ取
リ出シ横領シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人七條清美上告趣意書第一點原判決ハ理由不備ノ違法アリ原判決ノ摘示スル處ニ依レハ「被告人
ハ高知縣幡多郡七郷村收入役トシテ同村ノ公金ノ出納保管ノ職務ヲ執掌中同郡白田川村酒井貞之助外

數名ニ對スル合計金二千五百圓ノ債務ノ辨濟ニ窮シタル結果之カ辨濟ノ資ニ供スル爲昭和七年十一月
十四日午後五時過頃退廳ノ際同役場備付金庫在中ノ自己保管ニ係ル現金三千二百九十五圓ヲ取り出シ
横領シタルモノナリ」ト判示セリ然レトモ被告人ハ判示ノ如ク右七郷村收入役トシテ同役場備付金庫
在中ノ金品ヲ取り出スコトハ其ノ權限ニ屬シ何等違法ニアラス被告人カ債務辨濟ノ資ニ供スルノ犯意
アリタリトスルモ右金員ヲ取出シタル所爲ハ未タ以テ横領罪ヲ構成スルモノニアラス且横領罪ヲ構成
スル爲ニハ自己又ハ第三者ヲ利スルタメ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ處分シ法律上又ハ事實上其
ノ權利ヲ喪失セシムル所爲ヲ爲スニ因テ成立ス尠クトモ被告人カ右金員ヲ不正ニ領得スル意思ヲ以テ
其ノ意思アリト認ムヘキ外部行爲ノ實行アリタル事實ヲ判示セサルヘカラサルニ拘ラス原判決ハ單ニ
金庫中ヨリ取出シタル所爲ヲ以テ犯行ヲ認定シタルハ理由不備ノ違法アリ破毀ヲ免カレサルモノト信
スト云ヒ「第二點原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノト信
ス被告人カ本件金員ヲ金庫中ヨリ取出ス所爲ニ付更ニ考察スルニ七郷村助役池内義寛ニ對スル司法警
察官聽取書記載ニ依レハ同人ハ被害額ヲ陳述シタル末ニ「尤モ植田收入役カ自宅ニテモ置イテアルト
セハ夫レカ除カレル譯テアリマス」云々（記録七九枚裏）トアリ又第一審第二回公判調書中證人秋田
正郎（七郷村村長）ノ供述記載中「村長ノ保管ニ屬スルモノハ村基本金預金通帳ト特別積立金通帳テ
アリマスカ實ハ此ノ事件ノ起ル一箇月前迄自宅ニ置イテアリマシタ處租稅ト帳簿ト對照上必要アリ役

保管物ニ關スル占有ノ變改ト横領罪ノ成立

場へ持ツテ來マシタカ云々」トアリ右供述ニヨルモ被告人カ七郷村收入役トシテ保管ノ金品ハ必スシモ役場備付ノ金庫中ニ藏置スルヲ要セス便宜自宅其ノ他ニ於テ保管スル慣習アリタルコトヲ知ルニ足ルヲ以テ被告人カ本件金品ヲ役場備付ノ金庫中ヨリ取り出シタル事實ヲ以テ直チニ横領罪ヲ認定スルカ如キハ重大ナル事實ノ誤認アリト認ムヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ原判決ハ破毀ヲ免カレサルモノト信スト云フニ在レトモ

他人ノ物ヲ占有スル者カ其ノ占有ヲ不法ニ自己ノ爲ニスル占有ニ變改スル意思ヲ有シ之ヲ現實ニスルニ於テハ横領罪ヲ構成スヘキコト本院判例ノ趣旨トスル所ナリ(大正三年(レ)第三三〇〇號大正四年二月十日判決參照)而シテ原判決ノ認定シタル事實ハ被告人ハ七郷村收入役トシテ業務上保管セル金錢ヲ不法ニ領得スルノ意思ヲ以テ同村役場備付ノ金庫中ヨリ現金三千二百九十五圓ヲ取出シ横領シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人カ收入役トシテ金錢出納ノ權限ヲ有スルトスルモ苟クモ不法領得ノ意思ヲ以テ金庫中ヨリ金錢ヲ取出スニ於テハ從來七郷村ノ爲ニセル占有ヲ自己ノ爲ニスル占有ニ變改スルノ意思ヲ實現シタルモノト謂フヘク其ノ行爲ハ業務上横領罪ヲ構成スルモノトス被告人カ收入役トシテ金庫中ヨリ保管ノ金錢ヲ取出スコトハ其ノ權限ニ屬シ又假ニ所論ノ如ク其ノ保管ノ金錢ハ必スシモ役場備付ノ金庫内ニ藏置スルヲ要セス便宜自宅ニ保管スル慣習アリタリトスルモ此等事項ハ被告人カ右占有ノ性質ヲ變改スル意思ヲ實現シタル事實ヲ認ムルノ妨トナルモノニ非ス然レハ原判決ハ前記

【要旨】

事實ヲ判示シ刑法第二百五十三條ニ問擬シタルハ正當ニシテ所論ノ如ク理由不備又ハ重大ナル事實誤認ヲ爲シタルノ違法アルモノト謂フヘカラス論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事大原昇關與

○殺人被告事件(昭和八年(九)第四三八號
同年五月十八日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 中島喜徳 辯護人 鹿島千太郎

【第一審】 長野地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

心神耗弱ナル法律上ノ用語ヲ使用シタル鑑定ノ效力

○判決要旨

鑑定人カ被告人ハ變質者ニシテ精神ニ障礙アリ其ノ程度輕ク事物ノ理非善惡ヲ辨識スル能力ヲ缺如スル程度ニ達セサルモノト判斷シ其ノ障礙ノ程度ヲ表示スルニ當リ偶心神耗弱ナル法律上ノ用語ヲ使用シタレハトテ該鑑定ヲ不法ト爲スニ足ラス

心神耗弱ナル法律上ノ用語ヲ使用シタル鑑定ノ效力

【参照】 刑事訴訟法第二百二十一條 鑑定ノ經過及結果ハ鑑定人ヲシテ鑑定書ニ依リ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告セシムヘシ
鑑定人數人アルトキハ共同シテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得
鑑定書ヲ差出シタル場合ニ於テ必要アルトキハ口頭ヲ以テ其ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六年ニ處ス押收ノ兵兒帶(昭和七年證第一一九號ノ一、二)ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ心神耗弱者ニシテ肩書地ニ於テ農業ヲ營ミ居リタルトコロ資産少クシテ借財多ク子女六名ト中風ヲ病メル老父善一郎ヲ擁シ家計困難ナルニ加ヘ財界ノ不況ニ因リ鹵價低落シ生計益々困窮スルニ至リタルヨリ四女菊野(當時四年)五女美津代(當時二年)ヲ殺害シテ家族ノ煩累ヲ絶チ生活ノ安易ヲ計リ同時ニ生活難ノ爲子女ヲ殺害シタル慘事ヲ周知セシメ農民ノ苦境ヲ世ニ訴ヘ以テ農村救済ヲ促進セシメント企テ犯意ヲ繼續ノ上昭和七年五月二十五日午前三時頃著用ノ兵兒帶ヲ二本ニ斷チ其ノ一本ヲ以テ肩書居宅茶ノ間十二疊室ニ熟睡中ノ菊野ノ頸部ヲ二重ニ捲キ之ヲ絞扼シテ同人ヲ窒息死ニ至ラシメ次テ他ノ一本ヲ同家奥五疊ノ間ニ熟睡中ノ右美津代ノ頸部ニ二重ニ捲キ之ヲ絞扼シテ同人ヲ窒息死ニ至ラシメ以テ殺害ノ目的ヲ遂ケ直ニ長野縣屋代警察署ニ自首シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第九十九條第五十五條ニ該當スルヲ以テ有期懲役刑ヲ選擇シ被告人ハ判示犯行當時心神耗弱者ナルヲ以テ同法第三十九條第二項第六十八條第三號ニ依リ法定ノ減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六年ニ處シ押收ニ係ル兵兒帶(昭和七年證第一一九號ノ一、二)ハ本件犯行ノ用ニ供シタル物ニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルニヨリ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

本件ニ付鑑定人醫學博士森健二ハ被告人ノ精神状態ヲ實驗シ之ニ基キ(一)被告人ハ生來ノ變質者ナリ(二)被告人カ昭和七年五月二十五日本件犯行ヲ爲シタル當時モ變質者ナリシカ故精神ニ障礙アリタリ其ノ障礙ノ程度ハ法家ノ所謂心神耗弱ノ常況ニアルモノトス(三)現在モ亦變質者ナルカ故ニ精神ニ障礙アリ而モ特ニ強キ刺戟ナキ間ハ其ノ障礙ノ度ハ輕ク指南力記銘力記憶力計算力等ハ良ク感情障礙ヲ主トスルモノナリト鑑定シ原判決ハ右鑑定書ノ判示記載ヲ證據ニ引用シ被告人ヲ心神耗弱者ナリト認定シタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

心神耗弱ナル法律上ノ用語ヲ使用シタル鑑定ノ效力

辯護人鹿島千太郎上告趣意書第一點ハ本件原判決ノ判示事實ノ證據トシテ鑑定人森健二作成ノ鑑定書ヲ援用シ被告人ノ精神状態ヲ單ニ抽象的ニ所謂心神耗弱ノ常況ニアル旨ノ趣旨ヲ採用シ單ニ心神耗弱者ナリト認定セラレタルハ法律上ニ於テ所謂心神耗弱者ナルモノカ醫學上ニ於テ如何ナル具體的事實現象ニ相當スルカノ判斷ノ餘地ナキ鑑定即チ鑑定人カ法律解釋適用ノ範圍ニ迄モ侵入シタル意見ヲ採用セラレタルモノナリト思料ス事實認定ハ原裁判所ノ專權ニ屬スト雖右ノ如キハ其ノ採用セラレタル基礎證據ノ採否ニ違法アリト思料スト云フニ在リ

仍テ按スルニ鑑定ハ特別ノ智識ニ依リ現在ノ事實ヲ實驗シ之ヲ基礎トシテ特定ノ事實ヲ判斷スヘキモノニシテ法律上ノ解釋適用ニ關シ其ノ判斷ヲ爲スヘキモノニ非サルコト洵ニ所論ノ如シト雖本件鑑定書ヲ査閱スルニ鑑定人醫學博士森健二カ其ノ醫學上ノ特別智識ニ依リ被告人ノ精神状態ヲ實驗シ之ヲ基礎トシテ被告人ハ變質者ニシテ精神ニ障礙アリ其ノ程度輕ク事物ノ理非善惡ヲ辨識スル能力ヲ缺如スル程度ニ達セサル者ト判斷シタルコト明瞭ニシテ其ノ障礙ノ程度ヲ表示スルニ當リ偶心神耗弱ナル法律上ノ用語ヲ使用シタレハトテ之ヲ以テ直ニ所論ノ如ク鑑定人カ抽象的ニ被告人ハ所謂心神耗弱者ナリト法律上ノ判斷ヲ爲シタルモノト認ムヘカラサルカ故ニ右鑑定ハ不法ニ非ス從テ原審カ該鑑定ノ結果ヲ證據ニ引用シタルハ毫モ違法ニ非サルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事大原昇關與

○疑義申立事件ノ決定ニ對スル抗告事件 (昭和八年(三)第十號 棄却)
同年五月二十日第三民事部決定

【抗告申立人】 齋藤勝公
【原審】 札幌地方裁判所

○判示事項

裁判ノ解釋ニ付テノ疑義

○決定要旨

刑事訴訟法第五百六十一條ニ裁判ノ解釋ニ付疑アルトキトハ判決主文ノ解釋ニ付疑アル場合ヲ指稱スルモノニシテ判決ノ理由ニ疑アル場合ヲ云フモノニ非ス

裁判ノ解釋ニ付テノ疑義

【参照】 刑事訴訟法第五百六十一條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者裁判ノ解釋ニ付疑アルト
キハ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ疑義ノ申立ヲ爲スコトヲ得

○事實

昭和八年三月十七日札幌地方裁判所カ被告人齋藤勝公ニ係ル郵便法違反被告事件ニ付爲シタル被告人
ヲ罰金二十圓ニ處ストノ判決ニ對シ被告人ハ同裁判所ニ抗告理由記載ノ如キ主張ヲ爲シテ疑義ノ申立
ヲ爲シ同裁判所ハ之ニ付疑義申立却下ノ決定ヲ爲シ抗告人ハ之ニ對シ本院ニ即時抗告ノ申立ヲ爲シタ
リ

○主 文

本件抗告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

本件抗告ノ理由ハ一、判決ノ憑據ト爲リタル證人高橋末太ノ證言ハ判決謄本ニ左ノ如ク記載アル(高
橋末太ノ證言トシテ證第三號乃至第五號ノ書狀ハ何レモ其ノ頃私カ名宛人齋藤勝公カ余市町大字黒川
町二百八番地齋藤茂方ニ同居セルモノト認メタルニヨリ同家ニ配達シ或ハ名ヲ呼ビ郵便ナル旨ヲ告ク
ルニ何等ノ返事ヲモ爲ササル等等正當ノ理由ナキニ之等ノ受領ヲ爲ササリシコト一再ニ止マラサリ
シカ被告人ト同氏名ノ者ハ余市町大川町又ハ黒川町ニ居住セス)以外ニハ無之候哉判然ト辯明決定ヲ

求ム二、齋藤茂ニ非サル齋藤勝公本人カ書留郵便書狀四通ノ配達ヲ受ケ受領證ニ押印方ヲ高橋末太配
達人ヨリ請求セラレタルモ正當ノ理由ナクシテ受取方ヲ拒絶(拒ミ)シタル憑據ハ證人高橋末太ノ如
何ナル供述ニ基キ之ヲ確認シ有罪ト判決セラレタルヤ判然ト辯明ヲ求ム三、證人高橋末太ノ供述ハ勝
公カ齋藤茂方ニ同居シテ居ルモノト認ムト云ヒタル外何回書留郵便ヲ配達ニ行キテモ勝公本人ニ非サ
ル齋藤茂ニ於テ拙者ハ勝公ニハ何等ノ關係ナキニ付キ拙者茂宛ノ郵便ヲ受取ルハ無論ナレ共齋藤勝公
宛ノ書留ヲ代人ト爲リテ受領セヨト要求セラレテモ斷シテ應セス受取方ヲ拒絶スル正當不正當ノ理由
モナシ勝手ニセヨト云ヒタルカ如キ茂ナル人物ノ不親切ヲ供述シタルノミニテ勝公本人カ受取拒絶ノ
事實アリト高橋證人ハ申立(供述)セサリシモノト拙者ハ考ヘテ居リマス當日ノ公判調書ニハ右ノ點
如何様ニ記録セラレテアリマスカ御明示ヲ求ム四、前三項拙者ノ考ヘ誤リナシトスレハ證人ノ供述ハ
何故ニ齋藤茂ニ再三配達ヲ試ミ本人ニ非サル他人ニ交付セント考ヘタルヤ遂ケサリシハ幸ニシテ萬一
強イテ勝公宛ノ書留ヲ肩書ノ相違セル黒川町ノ茂ニ交付完了スルニ於テハ郵便法第五十二條及第五十
三條ノ犯罪トナルニ非サヤト尋問セラレタル時ノ答辯ニハ或ハ適當ナランモ本人タル勝公カ受領拒絶
シタル憑據トナルヘキ理由モ法律モアルヘキ筈ナキニ拘ラス不幸判事殿等ニ於テ其レハ見解ノ相違ナ
リトシテ萬一有罪ト判決セラレタル次第ナレハ言語道斷ノ極テアルト斷言致シマス右ニ對スル確信ヲ
判然ト辯明ヲ求ム五、郵便法第二十三條ハ(受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ

得ス差出人ハ還付郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス)テアリマス刑法第三十八條ハ(罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス)テアリマス刑事訴訟法第三百三十六條ハ(事實ノ認定ハ證據ニ依ル)テアリマス然ルニ宛名ノ正當本人カ配達ヲ受ケタルコトナク且郵便物ノ受取方ヲ正當ノ理由ナク拒絶スル意ナク勿論拒絶シタル事實ナキニ拘ラス證據ヲ發見セスシテ有罪ト判決セラレタルハ甚タ不可思議テアリマス判事殿等カ法律ヲ誤解シタノテアリマスカ職權ヲ濫用シテ故意ニ曲解シタノテアリマスカ何レカニ相違アリマスマイ確信ヲ以テ判然ト辯明ヲ求ム六、第一審ノ判決全部ニ不服ヲ表シ控訴シ且第一審ノ證人石田長作ヲ第二審ノ證人ニ申立テタルニ拘ラス之ヲ許可セスシテ第一審ノ公判調書中ノ證言供述中ノ一部ノ記事ノミヲ引用セシハ刑事訴訟法第四十八條(判決ハ口頭辯論ニ基キテ之ヲ爲スヘシ)ヲ無視シタルモノト思ハレマスカ違ヒマセウカ辯明ヲ求ム七、第一審判決書ノ被告人本籍ハ大川町四百一番地トアリ控訴申立書ニハ大川町四百一番ノ二トアリ第一審判決書ニハ住居黒川町二百八番地齋藤茂方トアリ控訴申立書ニハ假住所西山教盛方トアリマスカ第二審判決書ニハ本籍ノミ控訴申立ト同一ナルモ假住所ヲ記載セス故意ニ虛偽ノ住居齋藤茂方ト虛偽ノ公文書偽造ヲ行ヒタルハ如何ナル理由ナルヤ辯明ヲ求ム八、判決理由ニ書留郵便四通ヲ全部單ニ被告人ニ宛タルトノミ現ハシ肩書ヲ秘密ニシ明記セサルハ如何ナル理由ナルヤ或ハ肩書カ大川町四百一番地ナルカ故四百一番ノ二ナル被告人ヲ惡意ヲ以テ有罪ト判決セントスル場合肩書相違カ判明スレハ假ニ受取方ヲ拒絶シタル事實アリトスルモ宛

所ノ相違セル同姓同名ノ異人物トシテ取扱フカ當然ニシテ濫リニ他人ノ郵便ヲ受取ル事ヲ拒絶シタルハ正當且高等ナル精神ノ所有者タルモノトナリ取扱フ官吏カ却ツテ不都合ナル事由表明スルヲ恐レタ爲テアルタロウト思料セラレマス判然ト辯明ヲ求ム九、元來郵便配達人カ書留郵便ヲ局へ持戻ル場合ハ毎日理由ヲ符箋ニ明記スヘキ規定ナルニ依リ何ヨリモ有力ナル證據テアルニ拘ラス公判廷ニ於テモ被告ニノミ秘密ニシタルノミナラス符箋ノ意義調査ヲ爲ササリシノミナラス判決理由ニモ何等ノ表示ナキハ如何ナル理由ナルヤ判事殿等ニ於テハ單ナル認識不十分ニ過キササルヤ或ハ不正ノ事情アルニハ非スヤト疑ハルルニ依リ判然ト辯明ヲ求ム十、四通ノ書留書狀ノ肩書氏名及引受局名引受番號年月日符箋ノ記事全部ノ明示ヲ求ム十一、四通ノ書留書狀ハ郵便局員ト裁判所員ト共謀シテ受取人へ交付モセス差出人へ還付モセス取扱遅延セシムルニ於テハ郵便法違反罪トナリハシマセヌカ如何十二、四通ノ書留ハ差向如何様ニ取扱フヤ辯明ヲ求ム故ニ抗告人ハ被抗告人高田豊外二名ノ判事ノ名義ノ決定書ハ違法不適當ナルモノト思料シ全部不服ナリ(決定ノ理由トシテ單ニ疑義ニ相當セス徒ニ判決ヲ攻撃スルニ過キササルモノナレハ其ノ理由ナキモノトストアルノミニテ判事自ラ理由ト表題シテ何等ノ理由ヲ記載セス提出者カ疑ヒアルタメ疑義申立ヲ爲シタルニ對シ決定ヲ爲サスシテ判決ノ攻撃ヲ爲シタリト何ニ基キ考フルヤ判事ノ決定シ得ル都合良キモノナク違法横暴ヲ申立テラレ決定辯明ノ方法ヲ知ラサル結果ナラスヤト思料セラル果シテ然ラハ實ニ言語道斷ノ判事モアルモノカト驚クノ外ナシ大審院

長ニ於テ公正ナル決定アラシム事ヲ望ム事甚大ナリト云フニ在リ
 【要旨】 然レトモ刑事訴訟法第五百六十一條ニ裁判ノ解釋ニ付疑アルトキトハ判決主文ノ解釋ニ付疑アル場合
 ニシテ其ノ主文ノ由テ來レル理由ニ疑義アル場合ヲ指稱スルモノニ非サルコトハ夙ニ本院判例ノ示ス
 所ナリ而シテ本件疑義ノ申立ハ判決主文ノ解釋ニ關スル疑義ニ該當セサルコト明白ナレハ原裁判所カ
 該申立ニ付致上ト同旨ノ理由ヲ以テ之ヲ却下シタルハ相當ナリト謂フヘク原決定ニハ何等違法ノ點ナ
 シ依テ本件抗告ハ其ノ理由ナク之ヲ棄却スヘキモノトス
 以上ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第四百六十六條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

○詐欺詐欺未遂私文書偽造行使横領被告事件

(昭和八年(九)第四六〇號 棄却)
 (同年五月二十三日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 水科仁平次 辯護人

山田半藏
 千葉秋雄
 山定雄

【第一審】 東京區裁判所 (第二審) 東京地方裁判所

○判示事項

虚無ノ事項ヲ内容トスル文書ノ作成ト文書偽造罪——辯護人不出頭
 ノ爲其ノ辯論ヲ聽カスシテ爲シタル判決ノ適否

○判決要旨

一文書ニ記載セラレタル内容カ虚無ノ權利義務若ハ虚無ノ事實證
 明ニ關スル事項ナル場合ト雖文書偽造罪ノ成立ヲ妨クルモノニ
 非ス【要旨第一】

二開廷ニ辯護人ヲ要セサル事件ノ審判ニ付テハ不出廷ノ辯護人ノ
 辯論ヲ聽カスシテ辯論ヲ終結スルモ違法ニ非ス【要旨第二】

【参照】 刑法第五百五十九條第一項 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ
 テ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ
 印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造
 シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

虚無ノ事項ヲ内容トスル文書ノ作成ト文書偽造罪 辯護人不出頭ノ爲其ノ辯論ヲ
 聽カスシテ爲シタル判決ノ適否

刑事訴訟法第三百四十九條

證據調終リタル後

檢察官ハ事實及法律ノ適用ニ付意見ヲ

陳述スヘシ

被告人及辯護人ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

○事實

第二審ニ於テ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス押收品中内容證明書一通ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ

第一 昭和四年九月下旬ヨリ同年十月中旬迄ノ間茨城縣稻敷郡龍ヶ崎町吳服商岡野善兵衛ヨリ同人引受ノ爲替手形五通此ノ額面合計金五千九百八十三圓ノ割引周旋方ヲ依頼セラルルヤ崎谷眞治ヲ介シ同年十月及十一月中何レモ東京市荏原區小山町四百七十二番地金融業朴宗鎬ヲシテ其ノ割引ヲ爲サシメ因テ得タル現金四千七百七十八圓三十七錢中金千三百圓ヲ岡野ニ交付シ殘金三千四百七十八圓三十七錢ハ之ヲ同人ノ爲ニ保管中其ノ頃犯意繼續シテ數回ニ東京市内ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消シテ横領シ

第二 昭和四年十月下旬ヨリ同年十二月下旬迄ノ間數回ニ右岡野ニ對シ吳服類約四百五十點ヲ見返擔保トシ合計金三千七百五十圓ヲ貸付ケ後更ニ東京市日本橋區高砂町三番地喬英事中村英二郎引受額

面金千二百五十八圓六十錢ノ爲替手形一通ヲモ右貸金ノ増擔保ニ差入レシメタルカ昭和五年一月十七日頃右擔保商品全部ヲ他ニ賣却シ因テ得タル金三千六百圓ヲ右債務ノ辨濟ニ充テ殘餘モ同年二月二十四日頃前記手形ノ割引處分ニ依リテ得タル金九百三十二圓五錢ノ内ヲ以テ之カ完済ヲ受ケ最早右貸金ニ付テハ何等岡野ニ對シ請求スヘキ筋ナキニ至リタルニ拘ハラヌ右各擔保處分ノ事實ヲ秘シ尙債權ノ存スルカ如ク裝ヒ利息又ハ擔保品値下ニ因ル損害金名義ノ下ニ同人ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ犯意繼續ノ上

(一) 同年三月二十七日東京市四谷區新堀江町一番地ナル被告人當時ノ居宅ニ於テ岡野ニ對シ前記貸金ノ一部金二千四百圓ニ對スル同日以降約六十日間ノ利息トシテ金百十五圓二十錢ノ支拂ヲ求メ因テ岡野ヲシテ尙其ノ債權ノ存スルモノト誤信セシメ即時該金額ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ(二) 同年三月下旬頃前記被告人居宅ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ被告人カ嘗テ右擔保商品ヲ再擔保ニ供シ金借シタル其ノ債權者三宮常平ノ氏名ヲ冒用シ同人ヨリ被告人ニ宛テタル擔保商品ノ値下ヲ生シタルモ入金又ハ増擔保ノ差入無キ爲之ヲ處分シタルニ九百三十四圓五十錢ノ不足ヲ生シタルニ付至急支拂ハレ度キ旨ヲ記載シタル擔保品處分通告並催告書ト題スル書面一通(昭和五年押第一五二〇號ノ一〇)ヲ作成シ三宮名下ニ三宮ト刻セル三文判ヲ押捺シ以テ其ノ偽造ヲ完成シ之ヲ同年四月五日神田郵便局ヨリ前記被告人居宅ニ宛テ内容證明郵便トシテ送付シ置キタル上翌六日

虛無ノ事項ヲ内容トスル文書ノ作成ト文書偽造罪 辯護人不出頭ノ爲其ノ辯論ヲ
職カスシテ爲シタル判決ノ適否

右岡野ヲ自宅ニ呼ヒ寄せ之ヲ同人ニ呈示シテ行使シ且同人ニ對シ曩ニ融通シタル金員ハ之ヲ三宮氏ヨリ借受ケタルモノナルトコロ斯ク擔保品値下ニ因ル損害金ヲ請求シ來レルニ依リ之ヲ自己ニ支拂ハレ度キ旨申詐リ因テ岡野ヲ欺罔シ損害金名義ノ下ニ金九百三十四圓五十錢ヲ騙取セントシタルモ同人カ之ニ應セサリシ爲所期ノ目的ヲ遂クルニ至ラサリシ

モノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中第一ノ横領ノ點ハ刑法第二百五十二條第一項第五十五條ニ第二ノ(一)ノ詐欺既遂ノ點ハ同法第二百四十六條第一項(二)ノ私文書偽造ノ點ハ同法第二百五十九條第一項ニ同行使ノ點ハ同法第六十一條第一項第五百九條第一項ニ詐欺未遂ノ點ハ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ニ各該當スルトコロ右詐欺既遂ト同未遂トハ連續犯ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ニ依リ之ヲ詐欺既遂ノ一罪ト爲スヘク右私文書偽造同行使竝詐欺トノ間ニハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ最モ重キ詐欺罪ノ刑ニ從テ處斷シ之ト横領ノ罪トハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ重キ詐欺罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニテ被告人ヲ懲役十月ニ處シ主文第二項ノ物件ハ本件偽造私文書行使罪ノ組成物件ニシテ何人ノ所有ニモ屬スヘカラサルニ依リ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收シ訴訟費用中主文特記ノ部分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

原審ハ適法ナル手續ニ依リ公判期日ニ召喚ヲ受ケナカラ出廷セサリシ辯護人千田和三同桑原新太郎ノ辯論ヲ聽カスシテ辯論ヲ終結シタルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人山田半藏 千葉秋雄 穂山定登上告趣意書第一點原判決ハ其ノ理由事實認定ノ部ニ於テ「第一昭和四年九月下旬ヨリ同年十月中旬迄ノ間茨城縣稻敷郡龍ヶ崎町吳服商岡野善兵衛ヨリ同人引受ケノ爲替手形五通此額面合計金五千九百八十三圓ノ割引周旋方ヲ依頼セラルルヤ崎谷眞治ヲ介シ同年十月及十一月中何レモ東京市荏原區小山町四百七十二番地金融業朴宗鎬ヲシテ其ノ割引ヲナサシメ因テ得タル現金四千七百七十八圓三十七錢中金千三百圓ヲ岡野ニ交付シ殘金三千四百七十八圓三十七錢ハ之ヲ同人ノ爲ニ保管中其ノ頃犯意繼續シテ數回ニ東京市内ニ於テ擅ニ自己ノ用途ニ費消シテ横領シ」ト説明セリ然レトモ本事實ニ於テ被告人カ岡野善兵衛ヨリ割引ヲ依頼セラレタル同人引受ノ爲替手形五通此ノ額面合計金五千九百八十三圓也ノ手形ハ何レモ振出人ノ欄白紙ノ儘ニシテ被告人ハ自ら振出人トナリ且之ニ裏書シテ被告人ヨリ更ニ朴宗鎬ニ割引ヲ依頼シ同人ヲシテ割引ナサシメタルモノニ係ルコト本件ニ於テ争ヒ無ク記録證據上明白ナル所ナリ而シテ原判決ハ被告人カ岡野ヨリ手形割引ノ周旋方

虛無ノ事項ヲ内容トスル文書ノ作成ト文書偽造罪 辯護人不出頭ノ爲其ノ辯論ヲ聽カスシテ爲シタル判決ノ適否

ヲ依頼セラレ被告人ハ單ニ朴宗鎬ニ之カ周旋ヲナシタルモノノ如ク認定シ從ツテ之ニ依ツテ得タル金四千七百七十八圓三十七錢中一千三百圓ヲ控除シタル殘金三千四百七十八圓三十七錢ハ岡野ノ爲ニ保管中之ヲ横領費消シタリト認定セリト雖抑モ手形割引ノ依頼ト手形割引周旋ノ依頼トハ大イニ異リ所謂手形割引トハ手形所持人カ銀行或ハ金貸業者等ノ金融業者ニ其ノ所持スル手形ヲ讓渡シ之カ對價トシテ金圓ノ交付ヲ受クルモノニ係リ又等シク割引ト稱スルモ他人ノ振出引受ニ係ル手形ニ自己カ裏書シテナス實質上ノ手形賣買ヲナスモノト自己カ振出若クハ引受ケタル手形ヲ相手方ニ交付スル實質上借用證書代リタル可キモノトアリ巷間前者ヲ手形割引ト稱シ後者ヲ手形貸付ト稱ス而シテ何レノ場合ニ於テモ依頼者ハ常ニ手形所持人ニシテ裏書アル場合ニ於テハ最後ノ裏書人ナリ本件ニ於テ被告人ハ岡野ヨリ手形割引ノ周旋ヲ依頼セラレタリト云フモ事實ハ岡野單獨ノ手形ニテハ割引ヲ受クルコト能ハス岡野ノ引受ケアル爲替手形ニ對シ被告人カ自ラ振出人トナリ且ツ之ニ裏書ヲナシ其ノ手形上ノ裏書責任ヲ負フコトニ因リ初メテ朴宗鎬カ割引ヲ承諾シタルモノニ係ル決シテ岡野單獨ノ手形ヲ朴宗鎬ニ依頼シ之ヲ割引セシムルタメ其ノ間ノ單ナル周旋ニ非ス而シテ被告人ハ岡野ヨリ同人ノ引受ケタル爲替手形ヲ受取り之ニ自ラ裏書シ朴宗鎬ニ割引ヲ依頼シタルモノナレハ此ノ割引關係ニ於テ依頼人ハ被告人自身ニシテ岡野ニ非ス從ツテ割引ニヨツテ得タル金圓ハ當然先ツ依頼人タル被告人ニ屬シ岡野ニ屬スヘキモノニ非ス蓋シ被告人ハ岡野ノタメ同人ノ代理人トシテ割引ヲ受ケタルモノニハ非ス又岡

野ノタメ同人ノ手形ヲ割引スルタメノ單ナル周旋ヲナシタルニ非スシテ自ラ手形ノ裏書ヲナシ手形上ノ義務ヲ負ヒ最後ノ手形所持人トシテ之ヲ朴宗鎬ニ交付割引ヲ受ケタルモノナレハナリ而シテ現ニ被告人ハ本件朴宗鎬ヨリ割引ヲ受ケタル手形ニ付引受人タル岡野ハ其ノ手形上ノ義務ヲ履行セス却ツテ被告人カ裏書人トシテ之カ償還ノ義務ヲ負ヒ民事判決確定シ強制執行ヲ受ケツツアルノ状態ナリ尙本件ニ於テ被告人カ自ラ裏書責任ヲ負ヒ手形ノ割引ヲ受ケタルモノナル事實ハ原審ニ於ケル第一、二回準備公判調書及ヒ第一審公判ニ於ケル被告人訊問調書竝ニ記録添付ノ證據書類ニ依リテ明瞭且ツ爭ヒナキ事實ニ屬ス然ルニ原判決カ岡野ト朴宗鎬トノ間ノ手形割引ニ付單ナル周旋ヲナシタル如ク看做シ被告人ニ横領ノ責ヲ負ハシメタルハ審理不盡ニアラスンハ理由不備若クハ罪トナル可キ重大ナル事實ノ誤認ヲ疑フニ足ル顯著ナル事由存スルモノナルト信スト云フニ在レトモ

本件爲替手形カ縱令所論ノ如キ形式ノ手形ニシテ所持人タル被告人カ自ラ裏書責任ヲ負ヒ朴宗鎬ヨリ割引ヲ受ケタルモノナリトスルモ原判決ノ認定判示スル所ハ論旨所掲ノ如クニシテ之ニ依レハ被告人ハ岡野善兵衛ヨリ同人ノ爲右爲替手形ニ依ル割引ノ周旋方ヲ依頼セラレタルモノニシテ從テ該手形ニ依リ割引ヲ受ケタル金員ハ當然委託者タル岡野善兵衛ノ所有ニ歸シ直ニ右金員ヲ同人ニ引渡スヘキ關係ニ在リタルモノナルコト明白ナルヲ以テ被告人カ判示ノ如ク朴宗鎬ヨリ割引交付ヲ受ケタル金員中判示金員ヲ岡野善兵衛ニ引渡サスシテ擅ニ自己ノ用途ニ費消シタル以上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横

虛無ノ事項ヲ内容トスル文書ノ作成ト文書偽造罪 辯護人不出頭ノ爲其ノ辯論ヲ
聽カスシテ爲シタル判決ノ適否

領セルニ外ナラサレハ其ノ所爲固ヨリ横領罪ヲ構成スルモノト云ハサルヘカラス而モ敍上原判示事實ハ其ノ舉示スル證據ニ依リ優ニ之ヲ證明シ得ヘク記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ然レハ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ

同第三點原判決ハ其ノ理由事實認定ノ部第二ニ於テ「第二昭和四年十月下旬ヨリ同年十二月下旬迄ノ間數回ニ右岡野ニ對シ吳服類約四百五十點ヲ見返擔保トシテ合計金三千七百五十圓ヲ貸付ケ後更ニ東京市日本橋區高砂町三番地喬英事村英二郎引受額面金千二百五十八圓六十錢ノ爲替手形一通ヲ右貸金ノ増擔保ニ差入レシメタルカ昭和五年一月十七日頃右擔保商品全部ヲ他ニ賣却シ因テ得タル金三千六百圓ヲ右債務ノ辨濟ニ當テ殘餘モ同年二月二十四日頃前記手形ノ割引處分ニ依リテ得タル金九百三十二圓五錢ノ内ヲ以テ之カ完濟ヲ受ケ最早右貸金ニ就テハ岡野ニ對シ請求スヘキ筋ナキニ至リタルニ拘ハラス右各擔保處分ノ事實ヲ秘シ尙債權ノ存スルカ如ク裝ヒ利息又ハ擔保品値下ニ因ル損害金名義ノ下ニ同人ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ」ト説明シ次テ(一)利息名義ノ下ニ金百十五圓二十錢ノ支拂方ヲ求メ依テ岡野ヲシテ尙其ノ債權存スルモノト誤信セシメ該金額ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ(二)損害金名義ノ下ニ九百三十四圓五十錢ヲ騙取セントシタルモ其ノ目的ヲ遂クルニ至ラサリシモノナル旨認定シタリ然レトモ本事實ニ於テ被告人カ岡野ヨリ増擔保トシテ受取りタル中村英二郎引受

額面金額千二百五十八圓六十錢也ノ爲替手形ノ割引處分ニヨリ九百三十二圓五錢ヲ受取り之ヲ先ノ擔保品處分ニヨリテ得タル三千六百圓ト合シ貸金全部完濟ヲ受ケ最早貸金ニ就テハ何等岡野ニ對シ請求スヘキ筋合ナキニ至リタルモノト認定シタルハ過レリ増擔保トシテ受取りタル中村英二郎引受爲替手形ハ之ヲ受取りタル手形其ノ儘ニテ割引ヲナシ九百圓ヲ得タルモノニ非ラスシテ被告人カ之ニ裏書シ裏書人トシテ手形債務ヲ負擔スルコトニ因ツテ割引スルコトヲ得タルモノニシテ被告人ハ之カ割引金九百圓ヲ得タリト雖一方又裏書人トシテ手形上ノ義務ヲ負擔スルニ至リ單純ニ岡野ノ差入タル増擔保タル手形ヲ處分シテ得タルモノニ非ス即チ該手形ニ付被告人ニ裏書ノ責ヲ負ハシメタルコトナク支拂期日ニ引受人タル中村英二郎ニ於テ手形ノ支拂ヲナシタルトキ始メテ被告人トシテハ該金手形割引金カ純粹ニ自己ノ取得トシテ計算ニ入レル可キ筋合ナリ該割引金ヲ以テ自己ノ岡野ニ對スル貸金ノ辨濟ニ與ヘントスルモ該手形カ果シテ期日ニ完全ニ支拂ハレテ被告人カ裏書ノ責ヲ負フコトナクシテ終ルヤ否ヤハ支拂期日ヲ待ツテ始メテ確定スヘキ理ナルコトヲ首肯シ得ヘシ果シテ然レハ増擔保タル中村英二郎ノ手形ヲ被告カ割引シタルハ債權者タル被告カ擔保物タル自己ノ手中ニアル手形ヲ自己ノ責任ヲ於テ融通ニ置キタリト云フニ過キスシテ果シテ之カ擔保トシテノ實質上ノ價值ヲ有スルヤ否ヤノ確定ハ支拂期日ニ支拂ハルルヤ否ヤニ依ツテ決定セラル可キモノナリ若シ然ラスシテ該手形ノ割引ヲ受ケ之カ取得金ヲ以テ貸金ノ辨濟ニ充タサンカ後ニ至リ該手形カ不渡トナリタルトキハ自己ノ貸金債

虛無ノ事項ヲ内容トスレ文書ノ作成ト文書偽造罪 辯護人不出頭ノ爲其ノ辯論ヲ聽カスシテ爲シタル判決ノ適否

務ハ先ノ充當ニ依ツテ消滅スルニ拘ハラズ尙一方自ラノ手形裏書ノ責任ヲ負ヒ之カ償還義務ヲモ負擔セサル可カラサルニ至ルノ不當ナル結果ヲ生ス果セル哉本件中村英二郎ノ手形ハ支拂期日ニ至リ不渡リトナリ被告ハ割引ヲ受ケタル渡邊袈五郎ニ對シ自ラ裏書人トシテ償還ノ請求ヲ受ケ之レカ義務ヲ負ハサシメラルルニ至リタルモノニシテ如斯場合ニ於テハ手形ノ支拂期日ニ至リ其ノ支拂ノ完了セラレテ割引ニ依リテ得タル金員カ確定的ニ自己ノ純粹ナル取得トシテ計算シ得ルニ至リテ始メテ岡野ニ對シテ貸金債權ノ消滅ノ效果ヲ生ス可キ筋合ナリ而シテ其ノ確定セサル以前ニアリテハ即チ手形カ支拂期日ニ完全ニ支拂ハルルヤ否ヤ未確定ノ間ニ於テハ岡野ニ對シテハ貸金債權ノ消滅スヘキ筈ナク從ツテ猶從前ノ如ク利息ノ請求ヲ爲シ得ヘキコト亦當然ノ筋合ナリ被告ハ岡野ヨリ増擔保トシテ受取リタル本件中村ノ手形ニ付テハ不渡リトナリ被告ニ於テ裏書ノ責ヲ負ヒ償還ノ義務ヲ擔ヒタル結果結局一錢一厘ノ利得ヲ爲シタルモノニ非ス然ルニ原判決ハ此ノ事實ヲ全然無視シ該手形ノ割引處分ニ依リテ得タル金員ハ被告人カ自ラ自己ノ責任ヲ負擔シテ得タルモノナルニ拘ハラズ恰モ當該擔保手形ヲ其ノ儘處分シ得タル取得ノ如ク見做シ之ニ依ツテ貸金債務ハ完済セラレ爾後何等岡野ニ對シテ何等請求スヘキ筋合ナキニ至リタルモノトナシ爾後ノ請求ヲ存在セサル債權ヲ存在スルモノノ如ク裝ヒ岡野ヨリ金員ヲ騙取セント企テタリト爲スハ是亦罪トナル可キ重大ナル誤認ヲ疑フニ足ル可キ顯著ナル事由アリ又ハ審理不盡理由不備ノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ

原判決ノ判示セル事實ハ論旨所掲ノ如クニシテ之ニ依レハ原判決ハ被告人カ判示ノ擔保品竝増擔保トシテ交付ヲ受ケタル判示爲替手形ヲ處分スルコトニ依リテ得タル金員ヲ被告人ノ判示債權ニ對スル辨濟ニ充當シ之カ完済ヲ受ケ右債權消滅ノ事實ヲ認定シタルモノナルコト明ナリ然ラハ被告人カ原判示ノ如ク右擔保處分ノ事實ヲ秘シ尙債權ノ存スルカ如ク裝ヒ債務者ヲ誤信セシメ利息又ハ擔保品値下ニ因ル損害金名義ノ下ニ金員ヲ交付セシメントシタルモ其ノ目的ヲ遂ケサリシ以上詐欺未遂罪ノ成立スルコト固ヨリ論ナク擔保物ナル右爲替手形ノ割引處分ヲ爲スニ當リ債權者タル被告人カ所論ノ如ク裏書人トシテ該手形上ノ義務ヲ負擔スルニ至リタリトスルモ這ハ固ヨリ本件トハ別箇ノ法律關係ニシテ之カ爲本件詐欺罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス而モ記録ニ徵スルモ原判決ノ右事實認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ然レハ原判決ニハ所論ノ如キ違法毫モ存スルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ

同第六點原判決ハ事實認定第二ノ(二)ニ於テ被告人カ三宮常平ノ氏名ヲ冒用シ同人ヨリ被告人宛擔保品處分通知書竝催告書ト題スル書面(昭和五年(押)第一五二〇號ノ一〇)ニ三宮名下ニ三宮ト刻セル三文判ヲ押捺シ偽造ヲ完成シ神田郵便局ヨリ被告人宛内容證明郵便トシテ送付シ翌六日岡野善兵衛ニ呈示シ行使シタル旨認定シ之ニ對シ刑法第五百十九條第一項同法第六十一條第一項同法第五百十九條第一項ヲ適用シタリ然レトモ該事實ニ依レハ三宮常平名義ノ金九百三十四圓五十錢ノ損害金ノ

虛無ノ事項ヲ内容トスル文書ノ作成ト文書偽造罪 辯護人不出頭ノ爲其ノ辯論ヲ聽カスシテ爲シタル判決ノ適否

請求ノ催告書ヲ被告人自ラ自身ニ當テテ内容證明郵便トシテ送付シタリト云フニアリテ其ノ損害金ナルモノカ全然虚無ナルコトハ原判決第二事實ノ冒頭ニ於テ認定スル所ナレハ畢竟該文書ハ虚無ノ權利ヲ催告シタルモノトス而シテ刑法第一百五十九條第一項ニ該當スヘキ文書ハ其ノ内容ニ於テ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ナルコトヲ要スルヤ論ナク本件文書ハ虚無ノ權利ノ催告書ニシテ其ノ内容ニ於テ權利ノ設定義務ノ負擔等ノ創設的效力ヲ有シ得ヘキモノニ非ス又既發生ノ權利ノ喪失消長或ハ義務ノ免脱ヲ生ス可キ關係ノ内容ヲモ有スルモノニ非ス原判決ハ此ノ點ニ於テ罪トナラサル事實ニ對シ法律ヲ適用シタルノ不法アルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨第一】

偽造文書ノ内容ヲ構成スル權利義務若ハ事實證明ニ關スル事項ハ必スシモ現實ニ存在スルモノタルコトヲ要セス縱令文書ニ記載セラレタル内容カ虚無ノ權利義務若ハ虚無ノ事實證明ニ關スル事項ナル場合ト雖苟モ其ノ事項カ外形上權利義務若ハ事實證明ニ關スルモノナル以上ハ法律カ保護セントスル文書ノ真正ヲ詐リ因テ文書ノ公ノ信憑力ヲ害スルニ至ルヲ以テ如上ノ場合ニ於テモ亦文書偽造罪ヲ構成スルモノト云ハサルヘカラス然レハ本件文書ノ内容カ虚無ノ權利義務ニ關スルモノナルカ故ニ文書偽造罪ヲ構成セス從テ原判決ハ罪ト爲ラサル事實ニ對シ法律ヲ適用シタル不法アリトノ本論旨ハ其ノ理由ナシ

同第十點被告人カ原審ニ於テ辯護士千田和三 桑原新太郎ヲ其ノ辯護人ニ選任シタルコトハ記録編綴

ノ六六四丁辯護届ニ依リ定ニ明瞭ナリ然ルニ原審ハ其ノ第五回公判ニ於テ事件ヲ結審スルニ當リ右兩辯護人ノ辯論ヲ被告人ノ意向ヲ確メ之ヲ拋棄セシムルコトナク漫然辯論ヲ終結シ判決ヲ言渡シタルハ訴訟手續上重大ナル瑕疵アルモノト云ハサルヘカラス斯ル訴訟手續ノ下ニ言渡サレタル原判決ハ破毀セラルヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨第二】

適法ナル手續ニ依リ召喚ヲ受ケナカラ公判期日ニ出廷セザリシ辯護人ハ自ラ期日ヲ懈怠シタルモノニ外ナラサレハ本件ノ如ク開廷ニ辯護人ヲ要セサル事件ノ審判ニ付テハ出廷シタル辯護人ニ辯論ヲ爲ス機會ヲ與フレハ足り如上不出廷ノ辯護人ノ辯論ヲ聽カスシテ辯論ヲ終結スルモ違法ニ非ス本件記録ニ依レハ所論辯護人ハ所論公判期日ニ適法ナル手續ニ依リ召喚ヲ受ケナカラ出廷セザリシモノナルコト明ナルヲ以テ原審カ此等辯護人ノ辯論ヲ聽カスシテ辯論ヲ終結シタルハ固ヨリ當然ニシテ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ

同第十四點原審第五回公判調書ヲ閱スルニ「裁判長ハ辯論ヲ終結シ判決ハ來ル十二月二十四日午前十時宣告スル旨ヲ告知シ各訴訟關係人ニ出頭ヲ命シ閉廷シタリ」(記録七七〇丁)トアリ之ニ依レハ判決宣告期日ヲ十二月二十四日午前十時ト指定シタルコト明ナリ然ルニ右判決宣告ノ爲ノ本件第六回公判調書ヲ檢スルニ十二月二十四日判決宣告シタル旨ノ記載アルニ止マリ時間ノ記載ナク同日午前十時即チ指定ノ公判期日到來後ノ時刻ナリシヤ否ヤ知ルニ由ナシ而シテ指定ノ公判期日タル時刻到來前ニ

虚無ノ事項ヲ内容トスル文書ノ作成ト文書偽造罪 辯護人不出頭ノ爲其ノ辯論ヲ聽カスシテ爲シタル判決ノ適否

爲サレタル判決宣告ハ期日前ノ宣告トシテ破毀ヲ免レサルコト御院判例ノ示ス所ニシテ原審判決宣告ハ之ヲ公判調書ニ依リテハ指定ノ期日前ナリシヤ否ヤ不明ニシテ結局右調書ニ依リテハ適法ニ訴訟手續ノ行ハレタリヤ否ヤ不明ナルヲ以テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

所論公判調書ニ所論ノ如ク十二月二十四日判決ヲ宣告シタル旨ノ記載アル以上特ニ反對ノ事實ヲ認ムヘキモノナキ限リ判決ハ同日指定ノ時刻ニ宣告アリタルモノト認ムルヲ相當トス本件記録ヲ查スルニ原審公判調書ハ勿論其ノ他ニ於テモ所論指定ノ時刻前ニ判決ノ宣告アリタル事跡ノ見ルヘキモノアルコトナケレハ原判決ハ指定ノ時刻ニ宣告アリタルモノト云ハサルヘカラス單ニ右時刻ノ記載ナキノ故ヲ以テ所論ノ如ク破毀ノ理由アリト云フヲ得ス論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事古田正武關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和八年(九)第五六六號 棄却)
(同年五月二十九日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 木村 虎太郎 辯護人 坂本 哲夫
外三名 池田 遠吉 赤井 幸夫

【第一審】 松山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

選舉ニ於テ不特定人ニ對スル金錢供與ノ共謀ト共謀者ノ責任——供述者ノ死亡ト刑事訴訟法第三百四十三條ノ適用——刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル證人ト共犯者トノ身分關係調査

○判決要旨

一 選舉ノ際不特定人ニ對シ運動報酬投票買收費ヲ供與スヘキコトヲ謀議シタル場合ニ於テ後ニ之ヲ特定シ金錢ヲ供與シタルトキハ直接供與ノ任ニ當ラサル謀議者モ亦其ノ責ニ任スヘキモノトス【要旨第一】

選舉ニ於テ不特定人ニ對スル金錢供與ノ共謀ト共謀者ノ責任 供述者ノ死亡ト刑事訴訟法第三百四十三條ノ適用 刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル證人ト共犯者トノ身分關係調査

二 法令ニヨリ作成シタル訊問調書アルトキト雖其ノ供述者死亡シタルトキハ裁判所ハ訊問調書ニ非サル供述録取書類ヲ證據ニ供シ得ルモノトス【要旨第二】

三 證人ヲ甲被告人ノ犯罪事實ニ付刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル者トシテ宣誓ヲ爲サシメス訊問シタル場合ニ於テハ共犯者タル乙被告人トノ身分關係ヲ調査セサルモ該訊問調書ヲ乙被告人ノ罪證ニ供シ得ルモノトス【要旨第三】

【參照】府縣制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第一百二十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
- 二 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

五 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ

刑法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

刑事訴訟法第三百四十三條 被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ法令ニ依リ作成シタル訊問調書ニ非サルモノハ左ノ場合ニ限り之ヲ證據ト爲スコトヲ

得

一 供述者死亡シタルトキ

二 疾病其ノ他ノ事由ニ因リ供述者ヲ訊問スルコト能ハサルトキ

三 訴訟關係人異議ナキトキ

區裁判所ノ事件ニ付テハ前項ニ規定スル制限ニ依ルコトヲ要セス

同法第二百一條 證人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問スヘシ

一 十六歳未満ノ者

二 宣誓ノ本旨ヲ解スルコト能ハサル者

三 現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アル者又ハ其ノ嫌疑アル者

選舉ニ於テ不特定人ニ對スル金錢供與ノ共謀ト共謀者ノ責任 供述者ノ死亡ト刑事訴訟法第三百四十三條ノ適用 刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル證人ト共犯者トノ身分關係調査

第六百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニシテ證言ヲ拒マサルモノ
五 第六百八十八條ノ場合ニ於テ證言ヲ拒マサル者
六 被告人ノ雇人又ハ同居人

前項第三號ノ規定ノ適用ニ付テハ犯人藏匿ノ罪、證憑煙滅ノ罪、偽證ノ罪、虛偽ノ鑑定
通譯ノ罪及贓物ニ關スル罪ノ犯人ハ其ノ本犯ト看做ス
第一項ニ掲クル者宣誓ヲ爲シタルトキト雖モ其ノ供述ハ證言タルノ效力ヲ妨ケラ
ルルコトナシ

同法第八十八條 證言ヲ爲スニ因リ自己又ハ自己ト第六百八十六條第一項ニ規定ス
ル關係アル者刑事訴訟ヲ受クル虞アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得

現ニ供述ヲ爲スヘキ事件ノ被告人ト共犯ノ關係アリトシテ起訴セラレ未タ確定判
決ヲ經サルトキ亦前項ニ同シ

同法第九十五條 證人ニ對シテハ先ツ其ノ人違ナキカ否及第六百八十六條第一項ニ
規定スル關係アル者ナリヤ否ヲ取調フヘシ

第六百八十六條第一項ニ規定スル關係アル者ニハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル旨ヲ告クヘ
シ

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認メ府縣制第四十條第三十九條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號第三號刑法
第五十五條等ヲ適用シ被告人木村虎太郎 森亮太郎ヲ各禁錮五月被告人白井春雄 日下百太郎ヲ各禁錮
四月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人木村虎太郎ハ立憲民政黨愛媛縣支部會計監督並同松山部會ノ常任顧問被告人白井春雄
森亮太郎ハ執レモ同部會常任幹事ナルカ昭和六年九月二十五日施行ノ愛媛縣會議員總選舉ニ際シ同
月十三日原審相被告人岡田源之助カ同部會幹部ノ要望ニヨリ松山市選舉區ヨリ民政黨公認候補者ト
シテ立候補スルヤ被告人虎太郎ハ其ノ選舉事務長同春雄 亮太郎ハ其ノ選舉委員ニ各就任シ選舉事
務所ヲ同市花園町一丁目丸西旅館及同市魚町二丁目高知屋旅館ニ設置シ共ニ源之助ノ當選ヲ期シ選
舉運動ヲ爲シ居タルモ同選舉區ニ於テハ定員三名ナルニ他ニ民政黨ヨリ宇和川濱藏カ立候補スルト
共ニ立憲政友會ヨリ二名無產派ヨリ一名立候補シ自然競爭激甚トナリタルヨリ被告人虎太郎 春雄
亮太郎ハ右岡田源之助ニ當選ヲ得シムルニハ選舉ノ投票ヲ買收スルノ外ナシト爲シ同候補者ニ其ノ
買收費支出ノ承認ヲ得ンカ爲同月十五六日頃投票買收費約二千圓潛行運動者ニ供與スヘキ報酬金約
千圓ヲ計上セル選舉運動費豫算案ヲ携帶シ同候補者方ニ至リ之ヲ提示シテ之カ承認ヲ得茲ニ右四名
ハ投票買收費及運動報酬ヲ謀議シタル上其ノ頃被告人虎太郎 春雄 亮太郎ヨリ被告人日下百太郎ヲ
說得シテ右謀議ニ與ラシメ被告人亮太郎 百太郎ニ於テ右買收運動ノ衝ニ當ルコトトナリ次テ同月
二十一日頃被告人虎太郎ハ右源之助ニ對シ投票買收費等千圓ノ増額ヲ求メテ之カ承諾ヲ得同月十九
日ヨリ二十二日迄ノ間ニ數回ニ投票買收費及運動報酬ノ資金トシテ同人ヨリ金三千圓ノ交付ヲ受ケ
之ヲ自己ノ立替ヘタル金員ニ加ヘ總計金四千二百五十圓ヲ被告人亮太郎ニ交付シ以テ右被告人四名

選舉ニ於テ不特定人ニ對スル金錢供與ノ共謀ト共謀者ノ責任 供述者ノ死亡ト刑
事訴訟法第三百四十三條ノ適用 刑事訴訟法第二百一十一條第一項第五號ニ該當スル
證人ト共犯者トノ身分關係調査 六二七 (110)

ハ左記(一)乃至(五)ノ犯行ヲ爲シタリ

(一)乃至(五)ノ事實ハ省略ス(原判決ハ(一)乃至(五)ニ於テ主トシテ被告人亮太郎 百太郎ニ於テ直接選舉人其ノ他ニ選舉運動ノ報酬投票買收費ヲ供與シタル犯罪事實ヲ認定シタリ)

一 第二審判決ハ昭和七年二月八日(豫審終結決定前)死亡シタル寺尾林五郎ニ對シ法令ニヨリ作成シタル豫審訊問調書アリタルニ拘ラス同人ニ對スル檢事ノ聽取書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリ

一 第二審判決ハ豫審ニ於テ證人藤田傳次郎外七名ヲ被告人虎太郎ト共犯關係アル被告人亮太郎 百太郎等ニ對スル犯罪事實ニ付訊問スルニ當リ刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スルモノトシテ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問シ被告人虎太郎トノ關係ニ於テハ身分關係ヲ調査セサル該豫審訊問調書ヲ被告人虎太郎ノ罪證ニ供シタリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人坂本哲夫 池田遠思上告趣意書第三點ハ本件被告人中虎太郎 春雄 亮太郎 百太郎ニ關スル判示事實ニ付テ觀ルニ原判決ハ理由第一冒頭ニ於テ「被告人木村虎太郎ハ立憲民政黨愛媛縣支部會計監督並同松山部會ノ常任顧問被告人白井春雄 森亮太郎ハ孰レモ同部會常任幹事ナルカ昭和六年

九月二十五日施行ノ愛媛縣會議員總選舉ニ際シ同月十三日原審相被告人岡田源之助カ同部會幹部ノ要望ニヨリ松山市選舉區ヨリ民政黨公認候補者トシテ立候補スルヤ被告人虎太郎ハ其ノ選舉事務長同春雄 亮太郎ハ其ノ選舉委員ニ各就任シ選舉事務所ヲ同市花園町一丁目丸西旅館及同市魚町二丁目高知屋旅館ニ設置シ共ニ源之助ノ當選ヲ期シ選舉運動ヲ爲シ居タルモ同選舉區ニ於テハ定員三名ナルニ他ニ民政黨ヨリ宇和川濱藏カ立候補スルト共ニ立憲政友會ヨリ二名無產派ヨリ一名立候補シ自然競争激甚トナリタルヨリ被告人虎太郎 春雄 亮太郎ハ右岡田源之助ニ當選ヲ得シムルニハ選舉人ノ投票ヲ買收スルノ外ナシト爲シ同候補者ニ其ノ買收費支出ノ承認ヲ得ンカ爲同月十六日頃投票買收費約二千圓潛行運動者ニ供與スヘキ報酬金約千圓ヲ計上セル選舉運動費豫算案ヲ携帶シ同候補者方ニ至リ之ヲ提示シテカ承認ヲ得茲ニ右四名ハ投票買收運動報酬ヲ謀議シタル上其ノ頃被告人虎太郎 春雄 亮太郎ヨリ被告人日下百太郎ヲ説得シテ右謀議ニ與ラシメ被告人亮太郎 百太郎ニ於テ右買收運動ノ衝ニ當ルコトトナリ次テ同月二十一日頃被告人虎太郎ハ右源之助ニ對シ投票買收費等千圓ノ増額ヲ求メテ之カ承諾ヲ得同月十九日ヨリ二十二日迄ノ間ニ數回ニ投票買收費及運動報酬ノ資金トシテ同人ヨリ金三千圓ノ交付ヲ受ケ之ニ自己ノ立替ヘタル金員ヲ加ヘ總計金四千二百五十圓ヲ被告人亮太郎ニ交付シ以テ右被告人四名ハ左記(一)乃至(五)ノ犯行ヲ爲シタリト」判示シ(一)乃至(五)ノ事實ニ付テハ右被告人四名カ實行行爲ニ加擔セサル部分ニ對シテモ全部的ニ共犯責任アルヲ認定セラリタリ然

選舉ニ於テ不特定人ニ對スル金錢供與ノ共謀ト共謀者ノ責任 供與者ノ死亡ト刑
事訴訟法第三百四十三條ノ適用 刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル
證人ト共犯者トノ身分關係調査

レトモ元來金錢供與ノ犯罪ハ讀シテ字ノ如ク現實ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與ヲ受クル所爲ヲ犯罪ト認ムルモノニシテ供與シ又ハ供與ヲ受クル特定人ノ存在ヲ前提トスヘク此ノ點ニ於テ不特定人ヲ對照トスルヲ以テ足ル利害關係誘導罪ト區別スヘキモノト信ス茲ニ右判示事實ヲ觀ルニ冒頭ヨリ「被告人虎太郎春雄亮太郎ヨリ被告人日下百太郎ヲ説得シテ右謀議ニ與ラシメ被告人亮太郎百太郎ニ於テ右買收運動ノ衝ニ當ルコトナリ」迄ノ事實ハ固ヨリ本件犯罪ノ原動力ヲ形成スルニ相違ナキモ金錢供與罪トシテ是ヲ觀レハ右事實ハ單ナル過程タルニ止リ右判示後段「次テ同月二十一日頃被告人虎太郎ハ右源之助ニ對シ投票買收費千圓ノ増額ヲ求メ」以下ノ部分ハ供與ノ準備行爲ニ過キサレモノト思料ス要スルニ金錢供與罪ハ金錢供與罪ナリ金錢供與ノ事實ヲ中心トシテ觀察スルヲ要ス此ノ見地ヨリシテ原判決カ右判示事實ヲ以テシテ右被告人四名ニ對シ直ニ具體的ニ(一)乃至(五)ノ犯行ヲ爲シタルモノナリト斷シタルハ失當ニシテ若シ假ニ百歩ヲ讓リ右判示事實後段ノ部分ハ金錢供與罪トシテ關係アリト認ムルヲ相當トスヘシトスルモ右事實ハ特ニ舉示セラレタル被告人百太郎(虎太郎トアルハ百太郎ノ誤記ト認ム)亮太郎ニ關係アルノミニシテ被告人春雄虎太郎(百太郎トアルハ虎太郎ノ誤記ト認ム)兩名ノ關知セサル事項ニ係リ尠クモ右被告人兩名ニ對シ漫然(一)乃至(五)ノ事實中右被告人ニ關係ナキ事實ニ對シテモ犯行ヲ爲シタリト斷シタル原判決ハ失當ノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス加之(一)乃至(五)ノ具體的事實ヲ精査スレハ第一點前段ニ述ヘタル如ク事多クハ被告人亮太郎

百太郎カ共同ニ又ハ單獨ニ他ノ被告人ト共謀シタル事實ヲ認定シアルヲ以テ原判決ハ同一事實ニ付同一人ニ於テ共謀ノ二重奏ヲ行ヒタル結果ヲ認メタルコトナリシカモ此ノ點ニ關シ何等明ニ説明ヲ加フルナシ由是觀之原判決ハ孰レノ點ヨリ觀ルモ重大ナル事實誤認ノ違法ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

原判決舉示ノ證據ニ依リ判示第一ノ(一)乃至(五)ノ犯罪事實ヲ認定シ得ヘク記錄ヲ精査スルモ原判決ノ此ノ點ニ關スル事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ而シテ本件ノ如キ犯罪ニ於テ運動報酬ノ供與投票買收ノ謀議ニ參與シタル以上ハ假令直接其ノ供與買收ノ行爲ヲ爲ササル者ト雖共同正犯トシテ其ノ責ニ任スヘキモノナレハ本件ニ於テ直接投票ノ買收運動報酬ノ供與ヲ爲シタルモノハ被告人亮太郎百太郎ナリトスルモ其ノ謀議ニ參與シタル被告人虎太郎春雄ニ於テモ均シク共犯トシテ其ノ責ニ任セサルヘカラス而シテ本件ノ如キ選舉ニ於ケル謀議ノ際金錢ヲ供與セラルヘキモノハ必シモ特定スルコトヲ要セス不特定人ニ對シ金錢ヲ供與スヘキコトヲ謀議シタル場合ニ於テモ後ニ之ヲ特定シ金錢ヲ供與スレハ謀議者モ亦其ノ責ニ任スヘキコト勿論ナルヲ以テ論旨理由ナシ

【要旨第一】

被告人木村虎太郎辯護人一松定吉赤井幸夫上告趣意書第一點ハ原判決ハ寺尾林五郎ニ對スル聽取書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタリ然レトモ刑事訴訟法第三百四十三條第一號ニ依リ法令ノ規定ニ依ラスシテ作

選舉ニ於テ不特定人ニ對スル金錢供與ノ共謀ト共謀者ノ責任 供與者ノ死亡ト刑
刑事訴訟法第三百四十三條ノ適用 刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル
證人ト共犯者トノ身分關係調査

成セラレタル被告人其ノ他ノ者ノ供述ヲ録取シタル書類ヲ證據ト爲シ得ルハ其ノモノカ死亡シタル爲
法令ニヨリ取調ヲ爲スコトヲ得サリシ場合ニ限り其ノ者ニ對スル法令ニ依リ作成シタル調書ノ存スル
場合ニ於テハ原則ニ基キ該調書ヲ證據ト爲スヘク法令ニ依ラスシテ作成セラレタル書類ハ之ヲ斷罪ノ
資料ニ供スルヲ許ササルモノト解セサル可カラス蓋シ我刑事訴訟法ハ所謂直接審理主義ヲ原則トシ止
ムナキ場合ニ於テ公判外ニテ法令ニ依リ作成セラレタル調書ヲ證據ト爲スコトヲ認メタルモノニシテ
而シテ右三百四十三條第一號ノ場合ハ眞ニ萬止ムヲ得サル場合ノ規定ナルヲ以テナリ然而シテ右寺
尾林五郎ハ豫審終結決定後ニ於テ死亡シタルモノニシテ同人ニ對シテハ法令ニ依リ訊問ヲ爲シ其ノ供
述ヲ録取シタル書類カ記録中ニ存スルヲ以テ之ヲ差シ措キテ前示聽取書ヲ援用シタル原判決ハ違法ニ
シテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ案スルニ刑事訴訟法第三百四十三條ニ依レハ供述者死亡シタル場合ニ於テハ供述者ノ供述ヲ録取
シタル書類ニシテ法令ニヨリ作成シタル訊問調書ニ非サルモノト雖之ヲ證據ト爲スコトヲ得ル旨規定
シ特ニ訊問調書ノアル場合ヲ除外セサルカ故ニ苟モ供述者ニシテ死亡シタル以上ハ假令他ニ法令ニ依
リ作成シタル訊問調書アリタルトキト雖裁判所カ訊問調書ニ非サル供述錄取書類ノ記載ヲ眞實ナリト
認ムルトキハ之ヲ證據ニ供シ得ルモノト解スルヲ相當トス本件ニ於テ記録編綴ノ寺尾林五郎ノ死亡届
(同八一九四丁) 同死亡診斷書(同第八一九五丁)ニ依レハ寺尾林五郎ハ豫審終結決定(昭和七年三

【要旨第二】

月三十一日)前昭和七年二月八日死亡シタルコト明ニシテ同人ニ對シ法令ニヨリ作成シタル豫審訊問
調書アリト雖原裁判所ハ其ノ内容證據トシテ引用スルニ適切ナラストシ同人ニ對スル檢事ノ聽取書ノ
記載ヲ眞實ナリト認メ之ヲ證據ニ供シタルモノト認ムヘク從テ右原判決ノ採證ノ措置ヲ目シテ違法ナ
リト謂フヘカラス論旨理由ナシ

同第二點ハ原判決ハ證人藤田傳次郎 井手一行 同池田源一 同池田繁一 同松原紋治 同馬越傳之丞 同
西内庫藏 同安岡利三郎等ニ對スル豫審訊問調書ヲ援用シタリ仍テ右各豫審調書ヲ閱スルニ執レモ上
告人木村虎太郎トノ間ノ身分關係ヲ問查シタル事迹ノ見ルヘキモノコレアル事無シ然レトモ右證人カ
訊問セラレル當時ニ在リテハ上告人虎太郎ニ對シテモ既ニ豫審ノ請求アリタル次第ナルヲ以テ同人ト
ノ關係ヲモ取調ヘ若シ其ノ關係ニ於テ證人タルニ妨クル所ナカリシモノナランニハ宣誓ヲ命シタル上
訊問ヲ爲ササル可カラサルモノナリトス然ルニ豫審判事カ此ノ手續ヲ履踐スルコトナカリシハ前述ノ
如クナルヲ以テ之等豫審調書ハ少クモ虎太郎ニ對スル關係ニ於テ無効ニシテ從ツテ之ヲ斷罪ノ資料ニ
供シタル原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

仍テ所論各證人ノ豫審訊問調書ヲ査閱スルニ同證人等ハ執レモ本件被告人木村虎太郎ト共犯關係アル
被告人森亮太郎 日下百太郎等ニ對スル犯罪事實ニ付證言ヲ爲スニ因リ自己ノ親族等訴追ヲ受クル虞
アル者即チ刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル者トシテ宣誓ヲ爲サシメス訊問ヲ爲シタル

選舉ニ於テ不特定人ニ對スル金錢供與ノ共謀ト共謀者ノ責任 供述者ノ死亡ト刑
事訴訟法第三百四十三條ノ適用 刑事訴訟法第二百一條第一項第五號ニ該當スル
證人ト共犯者トノ身分關係調査

モノニシテ斯ル場合ニ於テ共犯者タル被告人トノ關係ニ於テ宣誓ヲ爲サシムヘキヤ否ニ付必要ナル身分關係ヲ調査スル要ナキモノトス從テ被告人虎太郎トノ關係ニ於テ身分關係ヲ調査セス宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問シタル右各證人ノ豫審調書ヲ原判決カ被告人虎太郎ニ對スル斷罪ノ資料ニ供シタルモ違法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事大原昇關與

○縣會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和八年(九)第五〇四號
同年五月三十日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 堀田善一郎 辯護人 杉本時三郎

【第一審】 富山地方裁判所高岡支部 外一名 【第二審】 名古屋控訴院

○判示事項

衆議院議員選舉法第一百三條第三號ノ要求罪ト被要求者

○判決要旨

衆議院議員選舉法第一百三條第三號ニ規定スル要求行爲力選舉ノ公正ヲ害スル虞アル以上ハ被要求者ノ何人タルヲ問ハス同條ノ犯罪ヲ構成ス

【参照】 府縣制第四十條 府縣會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法ヲ準用ス

衆議院議員選舉法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲

役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 當選ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ響應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

同法第一百三條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムトスルコトヲ止メシムル目的ヲ以テ議員候補者若ハ議員候補者タラントスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ前條第一號又ハ第二號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

三 前二號ノ供與、響應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、前二號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第一號ノ誘導ニ應シ若ハ之ヲ促シタルトキ

衆議院議員選舉法第一百三條第三號ノ要求罪ト被要求者

○事實

六三六 (四)

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人堀田善一郎ヲ罰金二百圓ニ同越後與一郎ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル日數右被告人等ヲ夫々勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人堀田善一郎ハ昭和六年九月二十五日施行ノ富山縣縣會議員選舉ニ際シ針山清三澤田健二ト共ニ富山縣射水郡ニ於ケル政友會ノ候補者トシテ同會富山支部ノ公認ヲ受ケ同月十六日選舉長ニ對シ立候補ヲ爲ス可キ旨届出タルモノナルトコロ同郡ニ於ケル縣會議員ノ定員四名ナルニ對シ當時既ニ右立候補者ノ外民政黨ニ屬スル堀田勝文外三名ノ立候補ヲ見ルニ至リ其ノ狀態ヲ維持センカ遂ニハ政友會ノ候補者二名カ落選スルノ虞アル形勢トナリタルノミナラス一面同被告人カ社長ヲ爲セル伏木合同運送株式會社ノ得意先タル肥料商等ノ大多數カ右勝文ヲ支持後援シ居リタル爲勝文ト競争スルニ於テハ延ヒテ右會社ノ營業上甚大ノ不利益ヲ齎スヘキコトヲ慮リ茲ニ議員候補者タルコトヲ止メンコトヲ決意シ同月十七日高岡市定塚町料理店木津樓事木谷和作方ニ於テ當時候補者タリシ澤田健二側代表者麻生正藏高田正弘及針山清三側ノ代表者ニシテ且其ノ選舉委員タリシ境久作古野齊一ニ對シ自己カ議員候補者タルコトヲ止ムルコトノ報酬トシテ右清三及健二ヨリ各金七百五十圓宛供與セラレ度キ旨申向ケテ之カ要求ヲ爲シタルモノナリ

第二 被告人越後與一郎ハ前記選舉ニ際シ議員候補者タル右針山清三ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年同月二十三日頃犯意繼續シテ伏木町丸中商行其ノ他ニ於テ同町ニ於ケル選舉人津野武吉四所常二山口昌太郎ニ對シ各金二十圓同田中清吉ニ金五十圓同郷井長太郎ニ對シ金十圓同土倉富次郎角澤勝太郎立野彦藏ニ對シ各金八圓同牧野安太郎ニ金六圓同小杉喜作ニ金五圓同松長成次林佐七ニ各金二圓中村長太郎ニ金一圓同西田佐一ニ金一圓五十錢ヲ夫々同候補者ノ爲ニ投票取纏ノ報酬トシテ供與シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人堀田善一郎ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十三條第三號第一號第百十二條第一號ニ被告人越後與一郎ノ判示所爲ハ府縣制第四十條衆議院議員選舉法第百十二條刑法第五十五條ニ各該當スルヲ以テ所定刑中何レモ罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額内ニ於テ夫々主文ノ刑ヲ量定シ尙刑法第十八條ニ則リ右兩被告人カ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル日數夫々當該被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理由

被告人善一郎辯護人杉本時三郎上告趣意書第一點原判決ハ「被告人堀田善一郎ハ」云々「茲ニ議員候

補者タル事ヲ止メンコトヲ決意シ同月十七日高岡市定塚町料理店木津樓事木谷和作方ニ於テ當時候補者タリシ澤田健二側代表者麻生正藏 高田正弘及針山清三側ノ代表者ニシテ且其ノ選舉委員タリシ境久作 古野齊一ニ對シ自己カ議員候補タル事ヲ止ムルコトノ報酬トシテ右清三及健二ヨリ各金七百五十圓宛供與セラレ度旨申向ケテ之カ要求ヲ爲シタルモノナリ」ト判示シ之ニ對シ府縣制第四十條ニ依リ準用セラレヘキ衆議院議員選舉法第百十三條第三號第二號第百十二條第一號ヲ適用シ被告人ヲ罰金二百圓ニ處シタリト雖元來同法第百十三條第三號中ノ要求罪ハ金錢其ノ他財産上ノ利益等ノ供與ヲ受クルノ意思ヲ以テ相手方ニ對シ之カ請求ヲ爲ス行爲ヲ指稱スルモノニシテ從テ相手方カ若シ該要求ヲ應諾スル時ハ相手方モ亦同時ニ犯罪ヲ構成スル場合ナラサルヘカラス即チ要求罪ノ相手方ハ要求ニ對スル諾否ヲ決定シ得ヘキ權能アルモノナルコトヲ要ス故ニ相手方タル被要求人以外ノ第三者ヲ介シテ要求ヲ爲ス場合ニ於テハ要求ノ意思カ第三者ヲ經テ相手方ニ傳達セラルルニ非スンハ決シテ要求罪ハ成立セサルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ被告人ハ判示ノ如ク右清三及健二ヨリ各金七百五十圓宛供與セラレタキ旨ヲ第三者タル麻生正藏及境久作等ニ申向ケタルノミニテ未タ相手方タル澤田健二及針山清三ニ對シ要求ノ意思カ傳達セラレサルコトハ原判決摘示ノ證人橋林太郎ノ豫審訊問調書ニ金千五百圓ヲ針山澤田兩候補者ヨリ出サセテ貰ヒ度キ旨申シタルニヨリ自分ハ左様ナ話ハ君ヨリ直接話ヲセラレ度シト申シタル旨及高田ハ左様ナ金ハ澤田ハ出サヌト云ヒ境 古野ハ自分等テハ返事ハ出來ヌ

カラ相談シテ見ルト申シ結局堀田ノ要求ハ容レラレザリシ旨ノ供述又證人高田正弘ニ對スル強制處分ニ依ル豫審訊問調書ニ堀田カ針山澤田ノ方ヨリ金ヲ出シ貰ヒタシトノ話ナル旨申聞カサレタルモ私モ麻生同様ニ澤田ニハ出サセル譯ニ行カヌト申シタル旨ノ供述ニ依リ明白ナルヲ以テ原審認定ノ事實ハ未タ要求罪ヲ構成セサルモノナルニ拘ラス同法條ニ問擬シタルハ擬律錯誤ノ違法アルノミナラス更ニ原判決ハ「澤田健二側代表者麻生正藏 高田正弘及針山清三側代表者ニシテ且其ノ選舉委員タリシ境久作 古野齊一ニ對シ」云云ト判示シ恰モ同人等ハ夫々相手方タル健二若クハ清三ヲ代表セルカ故ニ該代表者ニ對スル要求ハ直ニ本人ニ其ノ效力ヲ生スルコト民法上ノ代理關係ニ於ケルカ如キモノナリト誤認セル疑アル外「右清三及健二ヨリ各七百五十圓宛供與セラレ度キ旨申向ケテ之カ要求ヲ爲シタルモノナリ」ト判示シ前段ハ要求行爲ノ周施ヲ託シタルカ如ク後段ハ麻生正藏 境久作等ニ對シ直接ニ要求ヲ爲シタルカ如ク少クトモ理由不備ノ違法アルモノ信スト云ヒ」第二點同法第百十三條第三號第二號ハ同條第一號ト異リ何レモ過去ノ事實ニ對スル場合ニシテ即チ議員候補者タリシ者カ議員候補者タル事ヲ止メタルコト等ノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ供與ノ要求ヲ爲スモノヲ處罰スル規定ナルコトハ法文上一點ノ疑無キ所ナルニ拘ラス原判決ハ前記ノ如ク「被告人堀田善一郎ハ」云々「茲ニ議員候補者タルコトヲ止メンコトヲ決意シ」云々「自己カ議員候補者タルコトヲ止ムルコトノ報酬トシテ」云々ト判示シ被告人カ將來議員候補者タルコトヲ止ムルコトヲ條件トシテ供與ノ要求ヲ爲シタル

事實即チ全然罪トナラサル事實ヲ認定シ之ニ對シ同法條ニ問擬シタルハ失當ノ甚シキモノニシテ到底破毀ヲ免カレサルモノト信ス或ハ言ハン判文「止ムルコト」ハ「止メタルコト」ノ誤記ナルヘシト否決シテ然ラス何トナレハ本案犯罪ノ日時ハ判示ノ如ク昭和六年九月十七日ナルヲ以テ同日以後被告人ハ議員候補者トシテ選舉運動ヲ爲スヘキ理由ナキニ拘ラス同月十八日ニ運動費四千圓ヲ調達シテ橋林太郎ニ送りタルコト同月十九日富山縣伏木町不遠寺ニ於テ土倉代議士等カ被告人ノ應援演說ヲ爲シタルコト同月二十日頃被告人カ立候補ヲ止メタル爲以後其ノ選舉運動ヲ止メタルコト同月二十二日夜初メテ被告人カ候補辭退ヲ公表シタルコト等ノ事實アルコトハ橋林太郎ニ對スル強制處分ニ依ル訊問調書山口昌太郎 田中清吉各豫審訊問調書等ニヨリ明ニシテ被告人カ同月十七日以後ニ於テモ尙議員候補者タルコトヲ止メサリシ事ハ到底之ヲ肯定セサルヘカラサルヲ以テ事實認定上遂ニ以外ナル法律誤解ヲ惹起シタルモノト信スヘキ理由アルヲ以テナリト云フニ在リ

【要旨】

仍テ案スルニ府縣制第四十條ニ依リ府縣會議員ノ選舉ニ付準用セラルル衆議院議員選舉法罰則第一百三條第三號ニ規定セル利益要求罪ハ議員候補者若ハ議員候補者タラムトスル者又ハ當選人カ議員候補者タルコト若ハ議員候補者タラムコトヲ中止シ又ハ當選ヲ辭退スルコトノ對價トシテ金品其ノ他ノ財產上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與又ハ響應接待ヲ請求スルニ因リ成立スルモノトス而シテ同罰則ハ選舉ノ公正ヲ保持スル爲之ヲ侵害シ若ハ侵害スルノ虞アル行爲ヲ處罰スルノ趣旨ニ基キ制定セラレタル

モノナレハ該要求行爲カ選舉ノ公正ヲ害スル虞アル以上ハ被要求者ノ何人タルヲ問ハス前示ノ犯罪ヲ構成スルモノトス原判決ハ第一事實トシテ被告人善一郎カ針山清三澤田健二ト共ニ富山縣射水郡ニ於ケル同縣縣會議員候補者トシテ立候補ノ届出ヲ爲シタルトコロ判示ノ事情ニ基キ議員候補者タルコトヲ中止セムト決意シ澤田健二側代表者麻生正藏外一名針山清三側ノ代表者ニシテ選舉委員タル境久作外一名ニ對シ自己カ議員候補者タルコトヲ止ムルコトノ報酬トシテ健二清三ヨリ各金七百五十圓宛供與セラレタキ旨申向ケ之カ要求ヲ爲シタル旨ヲ說示シタルモノニシテ敍上ノ代表者ニ對シ前示要求ノ傳達ヲ依頼シタル如キ所論ノ事實ヲ判示スルコトナシ而シテ敍上代表者ハ孰レモ事實上當該候補者ニ代ハリテ其ノ選舉ニ關スル事務ヲ處理スルノ任務ヲ有シタル者ナルコトハ原判文ヲ通讀シテ自ラ明ナリ然ラハ被告人善一郎ノ敍上判示行爲ハ選舉ノ公正ヲ害スルノ虞アルコト明瞭ナレハ衆議院議員選舉法第一百三條第三號ニ所謂要求ニ該當シ同條ノ制裁ヲ免レサルモノトス故ニ原判決ニ於テ同法條第三號及同法條第一號同法條第一百十二條第一號ヲ適用シテ同被告人ヲ處罰シタルハ正當ナリ論旨中原判決ニ於テ右判示行爲ニ對シ同法條第一百三條第三號第二號ヲ適用シタルカ如ク解シ同判決ノ不當ヲ云爲スル所アルモ右ハ原判示ニ副ハサル卅難ニシテ論旨ハ總テ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○業務上過失致死傷自動車取締令違反被告事件

(昭和八年(九)第五一六號
同年六月二日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 芳賀昇平

【第一審】 若松區裁判所 第二審 福島地方裁判所

○判示事項

自動車ノ無免許運轉行為及其ノ運轉ニ因ル業務上過失致死傷ト刑法第五十四條第一項後段

○判決要旨

自動車運轉手ノ免許ヲ受ケスシテ自動車運轉ノ業務ニ從事中其ノ

過失ニ因リ他人ヲ死傷ニ致シタル行為ハ自動車取締令違反及業務上過失致死傷ノ二罪ヲ構成シ兩者ノ間ニ手段結果ノ關係存スルトナシ

【參照】 自動車取締令第十五條第一項 運轉手タラントスル者ハ主タル就業地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ免許ヲ與ヘタルトキハ免許證ヲ交付ス
同第二十八條 第八條第十二條第十三條第十五條第一項第二項第二十五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九條第一項第二十六條及第二十七條ニ基ク地方長官ノ處分ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス

刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第五十四條第一項 一個ノ行為ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行為ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス
同法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止々其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トチ併合罪トス

○事實

第二審ニ於テハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮三月及罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決

自動車ノ無免許運轉行為及其ノ運轉ニ因ル業務上過失致死傷ト刑法第五十四條第一項後段

ヲ爲シタリ

被告人ハ福島縣南會津郡伊南村大字古町同郡大宮村大字山口間及右山口田島町間並右山口大鹽間ノ乗合自動車營業者ニシテ傍ラ自動車運轉手ノ免許ナキニ拘ラス自動車運轉ノ業務ニ從事シ居ルモノナルトコロ昭和七年七月三十日福島第一四八七號A型フォード乗合自動車ニ乘客安藤正 佐野庄吉 渡邊金城及運轉手湯田宗吉ヲ同乗セシメ之ヲ運轉シテ同郡入小屋ヨリ同郡田島町ニ向フ途中駒止峠ヲ降ルニ際シ「フットブレーキ」ニ故障アルヲ發見シタルカ凡ソカカル場合ニハ自動車運轉手タル者ハ須ク運轉ヲ中止シ該故障ヲ修繕シ然後運轉ヲ續行シ往々生スルコトアルヘキ災害ヲ防止スヘキ義務アルニ拘ラス不注意ニモ差支ナカルヘシト輕信シ漫然時速約十哩ノ速度ニテ進行ヲ繼續シ約二間半ノ縣道ヲ同日午後一時頃同郡檜澤村七ノ橋手前ニ差蒐ルヤ前方約十間ハ道路左側ニ貨物自動車一臺停車シ居ルヲ認メ其ノ右側ハ狹隘ニシテ到底通過シ得サルヲ思ヒ停車セントシ先「フットブレーキ」ヲ踏ミタルモ故障ノ爲其ノ用ヲ爲サス前記貨物自動車ノ直後ニ達シ「サイドブレーキ」ヲ引キタルモ及ハス該貨物自動車ニ衝突セントスルヤ把手ヲ右ニ切りタル爲其ノ操縦ニ係ル自動車ヲ該道路ノ右側ナル斷崖ニ墜落セシメ因テ湯田宗吉ヲシテ頭蓋骨折腦損傷ノ爲死ニ致ラシメ安藤正ヲシテ左股關節部外一箇所ニ全治迄約十日佐野庄吉ヲシテ左前額部外一箇所ニ全治迄約一箇月ヲ各要スル裂傷及打撲傷ヲ負ハシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中自動車運轉手ノ免許證ナクシテ自動車ヲ運轉シタル點ハ自動車取締令第十五條第一項第二十八條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ業務上過失致死ノ點並各業務過失致傷ノ點ハ刑法第二百一十一條ニ各該當スルトコロ右業務上過失致死並右各業務上過失致傷ハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ依リ犯情最モ重キ業務上過失致死罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘク其ノ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ尙以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第一項ニ依リ自動車取締令違反ノ點ニ付其ノ所定金額内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ業務上過失致死ノ點ニ付其ノ所定期限内ニ於テ被告人ヲ禁錮三月ニ各處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於テハ同法第十八條ニ依リ二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル(所謂擬律ノ錯誤)ノ違法アルモノトス何トナレハ原判決ハ本件犯罪事實ニ付刑法第二百一十一條ト自動車取締令第十五條第二十八條トヲ併セ適用シ被告人カ運轉手ノ免許ヲ受ケケスシテ自動車ヲ運轉シタル罪ニ付テハ右自動車取締令ノ罰則ヲ適

自動車ノ無免許運轉行爲及其ノ運轉ニ因ル業務上過失致死傷ト刑法第五十四條第一項後段

用シテ罰金二十圓ニ處シ他ハ業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪ニ該當スルトシテ刑法第二百一十一條中禁錮刑ヲ選擇適用シ禁錮三月ニ處シタルモノナリ然レトモ運轉手ノ免許ヲ受ケスシテ自動車ヲ運轉シタル行爲ハ結局犯罪ノ手段タル行爲ト看ルカ妥當ニシテ業務上ノ過失ニ因リ人ヲ死傷ニ致シタル罪カ最モ重キ刑罰ニ觸ルル行爲ナレハ刑法第五十四條第一項ノ所謂手段結果ノ關係ニ立チ最モ重キ刑罰ヲ規定セル刑法第二百一十一條ノミヲ適用シテ處斷スヘキモノナルニ拘ラス自動車取締令ノ右罰則ヲモ適用シ禁錮刑ト罰金刑トヲ併科シタルハ要スルニ刑法第八條第五十四條第一項ノ解釋適用ヲ誤リタルノ違法アルモノト謂フヘシト云フニ在レトモ

【要旨】

自動車ノ無免許運轉行爲ハ必スシモ自動車ノ運轉ニ因ル業務上過失致死傷罪ノ成立ニ必要ナル普通ノ手段ニ非ス又自動車ノ運轉ニ因ル業務上過失致死傷ノ行爲ハ自動車ノ無免許運轉行爲ヨリ生スル當然ノ結果ニ非サルヲ以テ被告人カ自動車運轉手ノ免許ヲ受ケスシテ自動車ヲ運轉シタル行爲ハ業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル行爲ト手段又ハ結果タル關係ニ立ツモノニ非サルハ勿論ナリ原判決ハ此ノ趣旨ニ於テ所論原判示ノ如ク法律ヲ適用シ被告人ノ判示行爲ヲ併合罪トシテ處斷シタルモノニシテ毫モ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ

同第二點原判決ハ又左ノ理由ニ因ル法律ノ解釋適用ヲ誤リタルモノト信ス即チ本件犯罪ニ付刑法第二百一十一條ヲ適用シ業務上過失致死傷罪トシテ處斷シタルモ被告人ノ本件行爲ハ業務ト謂フコトヲ得サ

ルモノト信ス何トナレハ業務ト云フカラニハ同一行爲ヲ營利ノ對象トシ又職業ノ對象トシテ反覆繼續セサルヘカラスト信ス被告人ノ本件行爲ノ如ク同乗セル免許運轉手湯田宗吉カ偶病氣ノ爲運轉ヲ爲スコト能ハサリシ爲其ノ依頼ヲ受ケ已ムヲ得スシテ僅カノ間只一回運轉シタルニ過キサ行爲ヲ業務ト看ルコトハ業務ナル觀念ニ反スルモノト謂フヘシ原判決ハ或ハ安藤正カ司法警察官ニ對シ被告人カ他ノ場合ニ於テモ屢運轉シタルコトヲ見タルコトアル旨ノ供述ヲ採ツテ以テ業務トシテ運轉シタルモノト認定シタルナランモ安藤正ハ本件事故ノ爲重傷ヲ負ヒ醫師方ニ運ハレ手當ヲ加ヘラレタル直後ニ於テ司法警察官ノ訊問ヲ受ケタルモノナレハ普通ノ意識常態ニテ眞實ノ供述ヲ爲シタルモノト認ムルコトハ甚タ危険ナリト謂ハサルヘカラスト原審ニ於テ此ノ點ヲ明カニスル爲安藤正ヲ證人ニ申請シタルモ許容セラレサリシ爲明確ニスルコトヲ得サリシモ被告人カ反覆繼續シテ自動車ヲ運轉シタルモノト認ムルコトハ證據極メテ薄弱ナリ只一回ノ運轉ニテモ業務上トシテノ刑事責任ヲ負ハシムルニ不可ナシトスル論者アルカ如シト雖之レ要スルニ發生シタル事故ノ大ナル爲重キ刑罰ヲ以テ處斷セントスル目的ナランモ苟モ業務ト云フカラニハ同一行爲ヲ反覆繼續シタル事實ナカルヘカラスト確信ス依テ本件被告人ノ行爲ニ對シテハ刑法第二百十條ヲ適用スルカ正當ニシテ原判決カ同法第二百一十一條ヲ適用シタルハ要スルニ擬律ノ錯誤アルモノト信スト云フニ在レトモ

刑法第二百一十一條ニ所謂業務タルニハ所論ノ如ク同一ノ行爲ヲ營利又ハ職務ノ對象トシテ反覆繼續セ

サルヘカラサルモノニ非ス苟モ各人カ社會生活上ノ地位ニ基キ繼續シテ一定ノ事務ニ従事スル以上縱令其ノ事務カ自動車ノ運轉ノ如キ法令上一定ノ資格ヲ有スル者ニ非サレハ從事スルコトヲ得サル特殊ノモノナル場合ト雖之ヲ其ノ者ノ業務ト稱シ得ヘキモノトス原判旨ニ依レハ被告人ハ自動車運轉手トシテノ免許證ヲ有セサレトモ繼續シテ判示乗合自動車ノ運轉ニ從事シ居リタル者ナレハ右法條ニ所謂業務ヲ執行スル者ニ外ナラス而シテ右判示事實ハ原判決ニ舉示スル證據ヲ綜合シテ之ヲ認メタルモノニシテ記録ニ徵スルモ其ノ事實ノ確定ニハ何等不法ト認ムヘキ廉アルコトナシ然レハ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事岩松玄十關與

○準強盜傷人被告事件

(昭和八年(九)第五三四號 棄却)
同年六月五日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 幸男
加藤 幸夫 辯護人 金倉 三郎
【第一審】 仙臺地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

竊盜犯人ノ追跡者ニ對スル暴行ト刑法第二百三十八條

○判決要旨

竊盜犯人カ其ノ犯行ヲ目撃シ之ヲ追跡シタル者ノ逮捕ヲ免カラル
爲暴行ヲ爲シタルトキハ刑法第二百三十八條ノ犯罪ヲ構成スルモ
ノトス

【參照】 刑法第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ隠滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役三年六月ニ處ス但原審ニ於ケル未決勾留日數中九十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和七年九月十七日午後十時過頃同居人ナル日野鐵郎ト共謀ノ上宮城縣牡鹿郡蛇田村南久林園所在ノ同村布施友七郎所有ノ葡萄園ヨリ葡萄約三貫六百匁(此ノ價格約一圓四十錢)ヲ竊取シ之ヲ

竊盜犯人ノ追跡者ニ對スル暴行ト刑法第二百三十八條

携へ同園ヨリ約三丁ヲ隔タル同村大田恭之助方附近道路ニ差蒐リタル際右竊盜行爲ヲ目撃シ追跡シ
來リタル同村駒澤佐一ノ爲取押ヘラレントスルヤ之カ逮捕ヲ免ルル爲懷中ヨリ草刈鎌ノ破片ヲ以テ同
人ニ斬付ケ同人ノ左側上肢及左頸部ニ全治約四五日間ヲ要スル切創ヲ負ハシメ逃走シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百三十八條第二百四十條前段ニ該當スルヲ以テ所定刑中有
期懲役刑ヲ選擇シ處斷スヘキモノナル處犯情憫諒スヘキモノアルニ依リ同法第六十六條第七十一條第
六十八條第三號ニ則リ酌量減輕ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役三年六月ニ處シ未決勾留日
數中九十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ全部被告人ヲシ
テ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人金倉三郎上告趣意書原判決ハ本件事案ヲ竊盜竝傷害ノ二罪トシテ處斷スヘキニ拘ラス強盜傷人
トシテ刑法第二百三十八條第二百四十條ヲ適用シタルハ法規ヲ不當ニ適用シタル違法ノ裁判ト思料ス
抑刑法第二百三十八條ヲ規定シタル所以ハ暴行脅迫ヲ財物領得ノ手段トスル單純強盜ニ對比シ暴行脅
迫行爲ノ情況及社會的害毒性ニ於テ何等選フ所ナキニ拘ラス同條所定ノ如キ目的ヲ以テシタル暴行脅

迫カ領得行爲ノ後ナルノ故ヲ以テ尙之ヲ問擬スルニ竊盜ノ規定ニ依ラサルヘカラサランカ刑ノ懸隔甚
シク不合理ナル結果ヲ生スルニヨリスノ如キ場合ニ於テハ寧ろ其ノ罪質カ強盜ニ變スルモノトシテ論
スルニ如カスト爲シタルカ爲ナリ從テ同條ヲ適用センカ爲ニハ竊盜行爲ト暴行又ハ脅迫行爲カ單純強
盜ノ場合ニ於ケルカ如キ關係ニ於テ時間的場所のニ相連續シ居ルコトヲ要スルハ勿論トス然ルニ本件
ニ於テ原判決及證人日野鐵郎同駒澤佐一竝被告人各豫審訊問調書ヲ見ルニ(イ)被告ハ昭和七年九月
十七日午後十時過頃布施友七郎所有ノ葡萄園ニ於テ竊取シタルモ其ノ竊盜行爲ヲ終リ已ニ歸途ニツキ
タルコト(ロ)竊盜行爲ト傷害行爲トハ三丁餘ヲ隔リタル地域ニテ行ハレ而モ農村ニ於ケル夜間ノ出
來事ナルコト(ハ)被告ハ目撃セラレタルコトヲ知ラス從テ傷害行爲ヲナシタル場所ニ達スル迄終始
通常ノ歩行ヲ繼續其ノ途中歩行ヲ止メ盜品ヲ共犯者ト分配シタル等狀況ハ最早常態ニ復シ居リタルコ
ト(ニ)目撃者駒澤佐一ハ一度被告等ヲ完全ニ見失ヒタルコトノ事實明白ニシテ以上ノ諸事實ヨリス
レハ被告ノ竊盜行爲ハ既ニ完了シ刑法第二百三十八條ニ云フ所ノ逃走ノ爲暴行等ノ手段ヲ必要トスル
ノ境域ハ最早完全ニ逸脱シ居ルモノニシテ後ニ行ハレタル暴行傷害トノ間ニ到底連續アリト云フヲ得
ス從テ本件ハ竊盜及傷害ノ二罪トシテ問擬スヘキモノナルニ拘ラス刑法第二百三十八條第二百四十條
ヲ以テ處斷シタル原判決ハ法規ヲ不當ニ適用シタルノ違法アル裁判トシテ破毀ヲ免レサルモノト思料
スト云フニ在レトモ

【要旨】

原判決擧示ノ證據ヲ綜合スレハ判示犯罪事實ヲ認定シ得ヘク記錄ヲ精査スルモ原判決ノ事實ノ認定ニ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ而シテ竊盜犯人カ其ノ犯行ヲ目撃シ之ヲ追跡シタル者ノ逮捕ヲ免カルル爲暴行ヲ爲シタルトキハ刑法第二百三十八條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス本件原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人ハ布施友七郎所有ノ葡萄ヲ竊取シ之ヲ携ヘ現場ヨリ約三丁隔リタル道路ヲ通行中右竊盜行爲ヲ目撃シ追跡シ來リタル駒澤佐一ノ爲取押ヘラレントスルヤ之カ逮捕ヲ免ルル爲草刈鎌ノ破片ヲ以テ右佐一ニ斬付ケ負傷セシメタリト謂フニ在リテ右行爲カ刑法第二百三十八條第二百四十條前段ニ該當スルコト明白ナルカ故ニ原審カ本件被告人ノ行爲ニ對シ同法條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松井和義關與

○名譽毀損被告事件並附帶私訴事件

(昭和八年(九)第五五二號 同年六月六日第四刑事部判決)

棄却

【公私訴上告人】 被告人 辻本友之助

【第一審】 浦和區裁判所 【第二審】 浦和地方裁判所

○判示事項

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行ト辯護士ノ訴訟行爲ニ關スル行動

○判決要旨

辯護士ノ訴訟行爲ニ關スル行動ハ新聞紙法第四十五條ニ所謂私行ナリ

【參照】 刑法第二百三十條第一項 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事
實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙法第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シ
タル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公
益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若
其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ
訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

○事實

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行ト辯護士ノ訴訟行爲ニ關スル行動

第二審ハ公訴ニ付左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人友之助ヲ罰金七十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ埼玉縣北足立郡浦和町ニ於テ發行部數約三千ヲ有シ主トシテ同縣下ニ頒布購讀セラルル週刊新聞關東タイムスノ編輯印刷兼發行人ナルトコロ同縣北足立郡浦和町辯護士青木洵ノ名譽ヲ毀損スルコトアルヲ認識シツツ同人ノ私行ニ關シ昭和七年九月十一日發行ニ係ル同新聞紙第四百二號第一面ニ二百圓取ラレテ此ノ始末青木辯護士宅へ五名ノ依頼者カ摺込ムト題シ浦和町ニ元檢事正上リノ辯護士テ青木洵ト云フ老紳士カ居ル辯護料ハ眼球ノ飛ヒ出ル程高イ夫レテ夫レ程ノ效驗カナイトノ流説カアルカ此處ニ其ノ事實ノ一トシテ同辯護士ニ最モ重大ナル事件ノ依頼者カ痛惜措ク能ハス恨ミト憎サトニテ切齒シナカラ本社ニ事件ノ經緯ニ關スル同辯護士ノ不徳行爲ヲ糺彈シテ訴へ來訪シタル者アリ其ノ云フトコロニ從へハ石井茂行ナル者カ父ノ印章ヲ偽造シテ他ヨリ金三千五百圓ヲ借受ケタルコトヨリ證券偽造罪トシテ告訴セラレ去ル七月三十日之カ辯護ヲ青木辯護士ニ依頼シタルニ其ノ際同辯護士ハ依頼者ニ於テ三十圓ノ著手金ヲ出サントシタルニ對シ百圓ヲ要求シ依頼者ハ已ムナク支拂ヒ高イ辯護料タカ無罪ニ爲レハ安イモノタト思ヒ報酬金百圓ヲ更ニ支出スヘキ約定ヲ爲シ愈事件ニ取掛リシカ僅カ二回ノ公判開廷ニテ八月十八日懲役十月ノ言渡アリ嘗テ有罪ノ時ハ直ニ控訴スルコトノ口約

アリタタルニヨリ依頼者ハ青木辯護士ニ電話ヲ以テ有罪ナリシコトヲ知ラセ且控訴手續ヲ依頼シタルニ同辯護士ハ翌十九日旅行シテ仕舞ヒタルカ依頼者側ニテハ商賣ノコトナレハ同辯護士ニ於テ控訴手續ヲ爲シタルモノト信シ居リタリ然ルニ何ソ知ラン七日ノ控訴期間ハ切レ遂ニ八月二十七日將來有爲ノ青年ハ第一犯ノ前科者トナリテ入獄シタリ親族縁者ハ狂氣ノ如ク爲リテ青木辯護士宅ヲ再三訪問シタルカ不在勝ニテ面會シ得ス漸ク一回會見シテ其ノ願末ノ責任ヲ糺シタルトコロアベコベニ逆捻ヲ喰ヒ已ムナク石井家ノ親族等五名ハ打揃ツテ九月五日夜青木辯護士方ヲ訪問シ大ニ嚴談糺彈シタル處其ノ時同辯護士ハ控訴手續ヲシナカツタ事ハ雙方ノ錯誤タ道德上テハ善クナイカ法律的ニ爭フナラ敢テ差支ヘナイ僕ハ斷然責任ハナイト放言シテ願ミス其ノ無責任ト不道德ノ言ニハ五名カ泣キ泣キ辭去シタル由辯護士ノ手落ニテ相續人タル青年ヲ前科者ニシタ親達ヤ兄弟親族關係者等ハ今更ナカラ痛憤禁シ能ハス悲嘆シテ已マサル状態テアル云々一ナル記事(檢第一號)ヲ掲載シ同日同新聞ノ前掲部數ヲ前記地域内ニ頒布シテ辯護士青木洵カ暴利ヲ貪リ依頼者ニ對シ不親切ニシテ事務ニ怠慢ナルコトヲ摘示シ公然同人ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ

被告人ハ當公廷ニ於テ辯護士ノ業務ハ一私人ノ營業ト異リ少クトモ公務ニ準スヘキ性質ノモノナルヲ以テ本件ノ如キ記事ヲ掲載シタレハトテ名譽毀損罪トナルヘキモノニ非スト辯解スレトモ新聞紙法第四十五條ニ所謂私行トハ人ノ私生活關係ニ於ケル行動ヲ汎稱シ官吏公吏其ノ他ノ公務員又ハ公共團體

其ノ他公ノ施設ニ關スル職員又ハ委員トシテノ行動ノ如キモノニ對比スルモノニシテ判示ノ如ク辯護士カ刑事被告人ノ辯護人トシテ報酬契約ヲ爲シ其ノ任務ヲ遂行スルカ如キ行動ハ私行ナルコト多言ヲ要セサルカ故ニ勿論新聞紙法第四十五條ノ適用ヲ受クヘキ筋合ニ非ス從テ被告人ノ前記辯解ハ採用スルノ限ニ非ス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百三十條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シテ被告人ヲ罰金七十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條第一項第四項ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘキモノトス(原私訴判決事實ハ之ヲ省略ス)

○主 文

本件公私訴ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

私訴上告費用ハ私訴上告人ノ負擔トス

○理 由

被告人上告趣意書百圓取ラレテ此ノ仕末青木辯護士宅へ五名ノ依頼者カ捻込ムト題シタル記事申辯料カ眼球ノ飛ヒ出ル程高イ噂カアル云々ハ事實上浦和區裁判所ニ於テ僅一回ノ辯論出廷テ百圓ヲ受ケタルハ地方辯護士トシテハ頗ル暴利アアルノミナラス事件ヲ依頼シタル當時依頼者カ金三十圓ヲ持參

シタルニ對シ金七十圓ヲ追加シタル事實カ明白ニシテ辯護料ヲ明記シタリトテ決シテ名譽ヲ毀損シタルニ非ス又依頼者側カラ四五名ノ者カ憤慨シテ青木宅ニ捻込ム云々ノ記事ハ事實其ノ儘ニシテ此ノ程度ノ新聞記事ハ當然ノ報道ニシテ毛頭名譽ヲ毀損シタルモノニ非ス新聞紙ノニユーストシテ一般的ノモノナリト信ス青木辯護士ノ手落テ控訴期間ヲ失ツタ云々ノ記事ハ證人其ノ他テ確認サレ依頼者カ憤懣シテ押シカケタコトヲ事實ノ儘報道シタカラトテ被告カ殊更ニ惡意ナク何等其ノ責ナシ且社會一般ノ出來事トシテ已ムヘカラサルコトニテ殊更ニ青木辯護士ノ名譽ヲ毀損セシニ非ス現代社會ノ通念テアルト思料ス辯護士カ刑事辯護ヲ引受ケ法廷ニ於ケル法律行爲ハ公務行爲ニ外ナラス辯護士ノ業務ハ重大ナル人ノ權利義務ヲ取扱ヒ而モ刑事辯護ノ如キハ殊更ニ然リ辯護士カ國家ノ特待ヲ受ケ營業稅ヲ免セラレ印紙貼付ヲ免セラレ辯護士法ハ公法ニシテ檢事正ノ監督下ニ在ル等現代社會上カラ觀察シテ明確ニ公務ノ取扱者テアルト思料ス之ヲ要スルニ本件ハ新聞紙法ヲ適用シ其ノ罪ヲ論スヘキモノニ非ス殊ニ本案記事ハ毛頭名譽毀損ノ意思ナク且毀損シ居ラサル程度ノモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行トハ人ノ私生活關係ニ於ケル行動ヲ汎稱シ官吏公吏其ノ他ノ公務員又ハ公共團體其ノ他公ノ施設ニ關スル職員若ハ委員トシテノ行動ノ如キモノニ對スルモノナルコトハ當院判例ノ示ス所ナリ辯護士法第一條ヲ案スルニ辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フモノトス云々トアルヲ以テ辯護士ハ右判例ニ示ス如キ資

格ヲ有セサルハ勿論何等公職ヲ帶フルモノニアラス又辯護士ト之ニ訴訟委任ヲ爲シタル者トノ關係ハ當事者間ノ契約其ノ他民法上ノ規定ヲ以テ之ヲ律スヘク辯護士カ委任ヲ受ケタル訴訟事件ヲ處理スルニ當リ訴訟法ニ依リ訴訟行爲ヲ爲スコトアリテ其ノ行爲ハ公法上ノ性質ヲ有スルモ此ノ行爲ハ訴訟委任者タル本人ハ勿論訴訟法ニ定ムル條件ヲ具備スル者ハ辯護士ニ非スト雖訴訟委任ヲ受ケ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テ辯護士カ訴訟行爲ヲ爲スノ故ヲ以テ其ノ行動ハ新聞紙法第四十五條ノ適用ニ於テ私行ニ非スト論スルヲ得ス原判示ニ依レハ被告人ハ週刊新聞關東タイムスノ編輯印刷兼發行人ニシテ辯護士青木洵ノ名譽ヲ毀損スルコトアルヲ認識シナカラ判示ノ新聞紙ニ「百圓取ラレテ此ノ始末青木辯護士宅へ五名ノ依頼者カ捻込ム」ト題シ同辯護士カ高價ノ辯護料ヲ取ルモ其ノ效驗ナキ流説アリタルカ茲ニ其ノ事實ヲ告ケタル者アル旨ヲ冒頭ニ掲記シ尋テ同辯護士カ石井茂行ニ係ル判示被告事件ニ付辯護ノ依頼アリ著手金トシテ金百圓ヲ受取り報酬トシテ金百圓ヲ約シタル處審理ノ末同被告人ハ有罪判決ノ言渡ヲ受ケタルヨリ同辯護士ニ對シ控訴手續ヲ採ルヘク依頼シタルニ同人ハ旅行シ控訴ノ申立ヲ爲サス空シク控訴期間ヲ經過セシメタル爲同被告人ハ入獄シタリ其ノ後親族緣故者ハ同辯護士ヲ訪ヒ嚴談ヲ試ミタルニ同人ハ控訴ノ申立ヲ爲ササリシハ雙方ノ錯誤ニシテ道德上ヨリ見レハ善クナケレト法律上ヨリセハ差支ナシ自分ハ責任ナシト放言シテ顧ミス其ノ無責任ト不徳ノ言ニ一同泣キナカラ辭去シタル由ナル旨ノ記事ヲ掲載シテ之ヲ頒布シタルモノナレハ其ノ記事ハ畢竟辯護士青木洵ヲ

私行ニ關シ同人ノ名譽ヲ毀損スルモノナレハ被告人ノ判示行爲ハ名譽毀損罪ヲ構成スヘク隨テ原審ニ於テ新聞紙法第四十五條ニ依リ事實ノ證明ヲ許スコトナク刑法第二百三十條第一項ヲ適用シテ被告人ヲ處分シタルハ正當ニシテ記録ヲ調査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アリト認ムヘキ顯著ナル事由ナシ論旨理由ナシ

被告人私訴上告趣意書被告ハ右名譽毀損罪ニ對シ上告趣意書ヲ提出セル如ク本件附帶私訴ハ其ノ責任ヲ負フ可キモノニ非ス當然原告ノ請求ヲ破棄シ訴訟費用ハ原告ノ負擔トスヘキハ勿論主タル名譽毀損罪ノ構成セサル以上自然本案ハ解消サレルモノト思料ス殊ニ一地方ノ週刊新聞ノ報道ニ對シ日本一ノ東京日日新聞紙上ニ謝罪狀ヲ要求セルカ如キ又判決セルカ如キハ不當ノ必罰主義ニ外ナラス加之七日以內ニ掲載スヘシトノ判決ハ絕對ニ不法不當テアル試ニ見ヨ週刊關東タイムス紙カ發行前日ニ判決言渡シアリタリトスレハ次號發行迄ニハ八日間ヲ要スルナリ凡ソ新聞ノ印刷ハ發行日附ノ前日ニ終了スレハナリト云フニ在リ

仍テ記録ヲ調査スルニ原私訴判決ハ控訴棄却ノ判決ニシテ第一審判決主文ニハ民事被告人ハ判示ノ謝罪廣告ヲ判決確定ノ日ヨリ七日以內ニ關東タイムス及東京日日新聞ニ爲スヘキ旨ノ記載アリ關東タイムスカ週刊新聞ナルコトハ原私訴判決ノ確定スル所ナルヲ以テ所論ノ如ク同新聞紙ノ發行前日ニ本件判決確定シタリトセハ次號發行日迄ニ八日ヲ要スルコトナルモ右ノ如ク七日以內ト定メタルハ同新聞紙

カ週刊ナル點ヲ考慮シ之ニ掲載スヘキ前示謝罪廣告ハ判決確定ノ日ヨリ起算シ之ニ接近セル次回發行日ニ發行スル同新聞紙ニ掲載スヘキ趣旨ナリト解スヘキモノナレハ論旨ハ結局其ノ理由ナシ右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事古田正武關與

○關稅法違反被告事件 (昭和八年(九)第四〇八號 棄却)
同年六月十六日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 山中合名會社 辯護人 守屋孝藏
同 中西繁藏 堀澤總明
【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○判示事項

支那共和國内ニ於テ帝國臣民力關稅ノ逋脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用—受託官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日

ノ通知—稅關長作成ノ告發書ノ方式

○判決要旨

- 一 支那共和國ヨリ朝鮮ヲ經由内地ニ輸入セントスル貨物ニ付同共和國内ニ於テ帝國臣民力關稅ノ逋脫ヲ圖リタルトキハ關稅法第七十五條ノ適用アルモノトス【要旨第一】
- 二 受託官署ノ爲ス證人訊問ニハ訴訟關係人ヲ立會ハシムルノ要ナク從テ又訴訟關係人ニ對シ該訊問期日ノ通知ヲ爲スヲ要セス【要旨第二】
- 三 關稅法違反者ニ對スル稅關長ノ告發書ハ稅關法規ニ從ヒテ作成スヘキモノニシテ刑事訴訟法ニ依ルヲ要セス【要旨第三】

【參照】 關稅法第七十五條 關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ハ沒收ス

同法第九十四條 稅關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通知スヘシ

支那共和國内ニ於テ帝國臣民力關稅ノ逋脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用受託官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ方式

同法第九十五條 犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ履
行スヘシ此ノ期間内ニ履行セザルトキハ税關長ハ直ニ告發スヘシ
關稅法施行規則第八十一條 關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書
ニハ官廳名若ハ官氏名及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ
國境列車直通運輸ニ關スル日清協約(明治四十四年十一月十五日官報)

本月二日日清兩國委員ハ左ノ協約ニ調印セリ
安奉鐵道ト朝鮮鐵道トノ間ニ列車ノ國境直通運輸ヲ行フニ付日清兩國政府ハ各委
員ヲ任命シ左記各項ヲ協約ス

一 日清兩國政府ハ世界交通ノ爲特ニ兩國國境ニ於ケル列車ノ直通聯絡ヲ承諾ス
六 兩國ハ各税關官吏ヲ派シ安東縣停車場荷物検査場ニ於テ共同検査ヲ行ヒ各其
ノ本國ノ税關規則ニ遵ヒ並細則ヲ規定シ辨理スヘシ日本國國境内ヨリ清國ニ輸
入スル貨物ハ先ツ日本國税關官吏ニ於テ検査シタル後清國税關官吏ニ於テ検査
スヘク清國國境内ヨリ日本國ニ輸入スル貨物ハ先ツ清國税關官吏ニ於テ検査シ
タル後日本國税關官吏ニ於テ検査スヘシ

(イ) 安東縣停車場發著ノ旅客携帶手荷物又ハ附隨小荷物ハ安東縣停車場ニ於テ
検査スルコト

(ロ) 安東縣停車場ヲ通過スル旅客ノ携帶手荷物又ハ附隨小荷物ハ停車中車内ニ
於テ検査スルコト

若發車時刻迄ニ検査ヲ了ラザルトキハ税關官吏ハ其ノ便ニ從ヒ運輸中車内ニ
於テ検査ヲ續行シ若ハ携帶手荷物又ハ附隨小荷物検査場ニ卸サシメ之ヲ検査

スルコト

(ハ) 税關官吏前記二項ニ依リ検査中有税品ヲ發見シタルトキハ同物品所持者タ
ル旅客ヨリ直接税金ヲ徵收スルコト

(ニ) 託送手荷物及小荷物ハ検査ノ爲検査場ニ持來ラシムヘキコト

(ホ) 安東縣停車場發著ノ小荷物及貨物ニ關シテハ荷送人又ハ荷受人ニ於テ通關
其ノ他ノ手續ヲ擔任スルコト

(ハ) 安東縣停車場ヲ通過スル小荷物及貨物ハ南滿洲鐵道株式會社員ニ於テ荷送
人又ハ荷受人ノ爲通關手續ヲナシ税關官吏ト立會ノ下ニ其ノ検査ヲ受ケ同會
社ニ於テ有税品ノ關稅ヲ立替フルコト

(ト) 南滿洲鐵道株式會社及朝鮮總督府鐵道局ハ税關官吏ヲシテ車内ニ於テ検査
ヲ執行スルコトヲ得セシムル爲兩鐵道ノ往復長期無賃乘車券ヲ税關官吏ニ給
スルコト

十 安奉鐵道ハ條約ニ依リ十五年ノ後清國政府ニ於テ買收スヘキモノナルニ依リ
本協約ハ該鐵道買收以前ノミニ適用セラレヘキモノニシテ買收後ハ兩國政府ハ
別ニ列車直通ニ關スル章程ヲ協定スヘシ

刑事訴訟法第二百十二條 裁判所外ニ於テ證人ヲ訊問スヘキトキハ部員ヲシテ之ヲ
爲サシメ又ハ證人ノ所在地ノ豫審判事區裁判所判事若ハ法令ニ依リ特別ニ裁判權
ヲ有スル官署ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

受託官署ハ受託ノ權限アル官署ニ轉囑スルコトヲ得
受託官署受託事項ニ付權限ヲ有セザルトキハ受託ノ權限アル官署ニ囑託ヲ移送ス
ルコトヲ得

支那共和國内ニ於テ帝國臣民力關稅ノ滯脱ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ヲ受託
官署ノ證人詢問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ
方式

受命判事又ハ受託判事ハ證人ノ訊問ニ關シ裁判所又ハ裁判長ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但シ第九十條及第二百十條ノ決定ハ裁判所亦之ヲ爲スコトヲ得
同法第七十一條 官吏又ハ公吏ノ作ルヘキ書類ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外年月日ヲ記載シテ署名捺印シ共ノ所屬ノ官署又ハ公署ヲ表示スヘシ
書類ニハ每葉ニ契印スヘシ

○事實

第二審ニ於テハ左ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人山中合名會社ヲ罰金四萬二千二百七十一圓二十錢ニ被告人中西繁藏ヲ罰金百八十六圓六十錢ニ各處ス被告人中西繁藏ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同被告人ヲ九十四日間勞役場ニ留置ス押收ニ係ル翡翠製首飾三連翡翠製耳飾一對瑪瑙製品二箇ビース製品一箇金側懷中時計二箇六神丸三十箇翡翠製品四箇ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ被告人中西繁藏ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人山中合名會社ハ前掲肩書地ニ本店ヲ有シ新古美術品ノ賣買並其ノ輸出入ヲ業トスルモノニシテ山中松治郎ハ其ノ代表者被告人中西繁藏ハ同會社ノ雇人ナルトコロ右兩名ハ昭和五年一月初頃同會社ノ商用ヲ帶ヒ打連レテ支那ニ赴キ同地ニ於テ右會社ノ爲商品ヲ仕入レタル上同月二十一日其ノ仕入商品ノ中翡翠製首飾三連(證第一及第八號)同製下ケ物三箇(證第九號中ノ下ケ物)同製筆洗一箇(證第九號中ノ筆洗)翡翠製耳飾一對(證第二號)瑪瑙製下ケ物一箇(證第十號)當時ノ

市價合計一萬四千九十圓十錢相當ノモノヲ携帶シ支那北京ヲ發シ奉天ヨリ滿鮮直通列車ニ搭乘シ同國安東縣及朝鮮新義州ヲ經由歸國輸入セントスルニ當リ同月二十三日午前七時頃支那共和國安東縣停車場ニ於テ右商品ノ内翡翠製首飾一連(證第八號)同製下ケ物三箇及同製筆洗一箇(證第九號)並瑪瑙製下ケ物一箇(證第十號)ヲ山中松治郎ニ於テ其ノ他ノ商品ヲ被告人中西繁藏ニ於テ夫々自己ノ着衣ニ隱匿シ同停車場派出朝鮮總督府稅關官吏ノ検査ニ提示セス以テ右貨物ニ對スル關稅合計金一萬四千九十圓四十錢ノ連脫ヲ圖リ

第二 被告人中西繁藏ハ前記山中合名會社ノ商用ヲ帶ヒ渡支シタル際同地ニテ買求メタル自己所有ニ屬スル金側懷中時計二箇(證第五號)瑪瑙下ケ物一箇(證第三號)ビース製品一箇(證第四號)以上當時ノ市價合計金五十三圓二十錢相當ノモノ及六神丸三十箇(證第六號)當時ノ市價金三十圓相當ノモノヲ前同様ノ順路ニ依リ携帶輸入セントスルニ當リ前同日同所ニ於テ自己ノ着衣ニ隱匿所持シ朝鮮總督府稅關官吏ノ検査ニ提示セス以テ右貨物ニ對スル關稅合計金六十二圓二十錢ノ連脫ヲ圖リタルモノナリ

法律ニ照スニ山中松治郎及被告人中西繁藏ノ判示第一ノ所爲ハ夫々關稅法第七十五條ニ該當スルトコロ右ハ孰レモ被告人山中合名會社ノ代表者又ハ其ノ雇人トシテ同會社ノ業務ニ關シ租稅ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ該當スルヲ以テ明治三十三年法律第五十二號第一條本文ニ依リ右關稅法第七十五條

支那共和國内ニ於テ帝國國民力關稅ノ連脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ノ受託官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ方式

ノ規定ヲ被告人山中合名會社ニ適用スヘク又被告人繁藏ノ判示第二ノ所爲ハ同法第七十五條ニ該當スルヲ以テ孰レモ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ被告人山中合名會社ヲ罰金四萬二千二百七十一圓二十錢ニ被告人中西繁藏ヲ罰金百八十六圓六十錢ニ各處シ刑法第十八條第一項ニ則リ被告人中西繁藏ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同被告人ヲ九十四日間勞役場ニ留置ス尙押收物件中主文掲記ノ各物件ハ孰レモ本件犯罪ニ係ル貨物ナルヲ以テ關稅法第七十五條ニ從ヒ各之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人中西繁藏ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

尙辯護人ハ假ニ被告人兩名ノ本件所爲カ關稅法所定ノ犯罪ニ該當ストスルモ右ハ帝國外ニ於テ犯サレタルモノニシテ特別ノ法令ノ存セサル限り之ニ對シ關稅法ヲ適用スヘキモノニアラス而シテ明治四十四年十一月二日日清兩國間ニ締結セラレタル國境列車直通運轉ニ關スル日清協約ハ 天皇ノ批准ヲ經サルモノニシテ單ニ稅關官吏ノ事務取扱手續ヲ協定シタルモノニ過キササルヲ以テ帝國臣民ヲ拘束スル效力ナシ仍テ本件ニ付テハ關稅法ヲ適用スルノ餘地ナキ旨主張スレトモ本件發生當時ノ支那共和國安東縣停車場ハ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ニ屬シ帝國臣民ニ對スル刑罰法規ノ適用ニ付テハ所謂帝國外ニ該當セサルノミナラス同所ヲ發シテ陸路日本帝國内ニ輸入セラルル貨物ハ前記國境列車直通運轉ニ關スル日清協約(明治四十四年十一月十五日官報所載)ニ基キ安東縣停車場ニ於テ日本帝國ノ稅關官吏帝國ノ稅關稅則ニ遵ヒ之ヲ檢査スヘキモノナルヲ以テ同所ニ於テ關稅法第七十五條ニ該當スル

所爲ヲ爲シタルモノアルトキハ當然同法條ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノナルコト明白ナルニ因リ辯護人ノ前記主張ハ之ヲ採用セス

第二審判決ニ引用シタル證人中川利彦ニ對スル訊問調書ハ第一審裁判所ノ囑託ニ依リ安東日本帝國領事館副領事ノ作成シタルモノニシテ其ノ證人訊問ヲ爲スニ當リ被告人及辯護人ニ訊問期日ノ通知ヲ爲ササリシモノナリ

本件告發書ニハ新義州稅關長井上主計ノ記名捺印アルニ止マリ同人ノ署名ナカリシモノナリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人守屋孝藏上告趣意書第一點原判決ハ被告人兩名カ昭和五年一月初旬山中合名會社ノ商用ヲ帶ヒ支那ニ赴キ同地ニ於テ商品等ヲ仕入レタル上同月二十一日之ヲ携帶シ支那北京ヲ發シ奉天ヨリ滿鮮直通列車ニ搭乘シ同國安東縣及朝鮮新義州ヲ經由歸國輸入セントスルニ當リ同月二十三日午前七時頃支那共和國安東縣停車場ニ於テ被告人山中合名會社代表者山中松次郎及被告人中西繁藏ニ於テ此等ノ貨物ヲ自己ノ着衣ニ隱匿シ同停車場派出朝鮮總督府稅關官吏ノ檢査ニ提示セス以テ右貨物ニ對スル關稅ノ逋脫ヲ圖リタルモノト認定シ孰レモ關稅法第七十五條ニ該當スルモノトシテ罰金及沒收ヲ

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ逋脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ヲ受託
官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ
方式

言渡シ尙ホ辯護人ノ關稅法適用不可論ニ對シテハ「本件發生當時ノ支那共和國安東縣停車場ハ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ニ屬シ帝國臣民ニ對スル刑罰法規ノ適用ニ付テハ所謂帝國外ニ該當セサルノミナラス同所ヲ發シテ陸路日本帝國内ニ輸入セラルル貨物ハ前記國境列車直通運轉ニ關スル日清協約(明治四十四年十一月十五日官報所載)ニ基キ安東縣停車場ニ於テ日本帝國ノ稅關官吏帝國ノ稅關稅則ニ遵ヒ之ヲ檢査スヘキモノナルヲ以テ同所ニ於テ關稅法第七十五條ニ該當スル所爲ヲ爲シタルモノアルトキハ當然同法條ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノナルコト明白ナリ」ト說示セラレタリ此ノ論旨ヲ要約スレハ支那共和國安東縣停車場ハ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ニ屬スルカ故ニ帝國臣民ニ關スル限リ他ニ何等ノ特別規律無クトモ當然刑罰法規ノ適用アリ從テ關稅法第七十五條ニ該當スル所爲アルトキハ當然同法條ノ適用アリ況ヤ國境列車直通運轉ニ關スル日清協約アルヲヤト云フニ歸スルカ如シ然レトモ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域ハ獨リ安東縣停車場ノミニアラス被告人等カ本件貨物ヲ仕入レタル北京及ヒ北京ヨリ安東縣ニ至ル通路ノ如キ支那各地皆然リ故ニ原判決ノ論鋒ニ從ヘハ北京モ安東縣モ亦其ノ間ノ通路モ帝國臣民ニ對スル刑罰法規ノ適用ニ付テハ所謂帝國内同様ナルヲ以テ皆關稅法ノ適用アリト云フニ至ラン而モ關稅法ハ國外ヨリ貨物ヲ國內ニ輸入スルニ於テ始メテ適用アリ國內ヨリ國內ニ移動スルノミニテハ其ノ適用無キヲ以テ結局北京ヨリ安東縣ヲ經テ新義州ニ移動スルモ關稅法ノ適用ナシトノ結論ニ到達スヘシ斯ノ如キ論理ノ矛盾撞著ヲ來タス所以ハ何ソヤ實ニ一

般刑罰法規ト關稅法トハ適用ノ法域異ナル所以ヲ看過シ且ツ上記日清協約ハ憲法上ノ條約ニアラサルコトヲ認識セサルニ職由スルモノト信ス(一)領事裁判管轄區域内ニ在ル帝國臣民ノ行爲ニ對シテハ帝國刑法第一條ノ制限ニ從ハス帝國ノ刑罰法令ハ凡テ適用アルヲ原則トスレトモ之ニ對シテハ幾多ノ例外アリ其ノ主ナルモノハ該法令適用ノ前提トナス命令及ヒ禁令カ性質上帝國領域内ニノミ其ノ效力ヲ有スル場合ナリ彼ノ阿片法ノ如キ專ラ帝國内ニ於ケル阿片ノ製造賣下買賣授受所有及ヒ所持等ニ關スル取締ヲ目的トスル行政法規ニシテ帝國内ニ於テノミ施行セラルヘキモノナレハ同法中ノ罰則ハ我國領事裁判權ヲ行フコトヲ得ヘキ外國ノ領土ニ於ケル行爲ニ適用セラルヘキモノニアラサルコトハ既ニ御院ノ判示セラレタルトコロナリ(大正七年刑二九三頁)而シテ我關稅法ハ專ラ外貨輸入ニ關スル規定ニシテ輸入トハ陸上ニ在テハ國境線ヲ踰越シ海上ニ在リテハ船舶ヨリ陸揚シテ外國貨物ヲ我國内ニ運入ルル行爲ヲ指稱スルカ故ニ(御院明治四〇年刑一〇〇七頁)專ラ帝國領域内ニ就テノミ適用ヲ受クヘク從テ同法ノ規定ハ處罰ノ前提タル命令及ヒ禁令モ亦處罰規定モ共ニ當然ニハ安東縣ニ於ケル行爲ニハ適用ナシト謂ハサルヘカラス此ノ故ニ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ニ屬スルカ故ニ當然帝國臣民ニ對シテ關稅法適用セラルトナス原判決ノ違法ナルヤ言ヲ俟タス(二)我關稅法ノ規定カ帝國領域外ナル安東縣ニ於テ效力ヲ有シ帝國臣民ニ對シテ其ノ處罰規程ヲ適用シ得ルニハ安東縣ヲ以テ國境ニ接スル帝國領域内ト同一ニ取扱フコトヲ内容トシ對外的ニハ國際法ノ承認シタル手續ニ由

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ進脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ノ受託官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知稅關長作成ノ告發書ノ方式

リ對內的ニハ帝國憲法ノ規定スル手續ニ由ルコトヲ要ス即チ尠クトモ斯ノ如キ内容ヲ有スル憲法上ノ條約アルヲ要ス元來帝國法律ノ施行セラルル當然ノ範圍ハ我領域内ニ限リ當該法律カ特ニ他ニ委任シタル場合以外ニ法律ト同等以上ノ效力アル法規ヲ以テスルニアラサレハ直接ニハ之ヲ伸縮スルヲ得ス然レトモ他方ニ憲法ハ其ノ間接ノ場合トシテ國際法上ノ事由ニヨル法律施行範圍ノ伸縮ヲ認ム其ノ主ナルモノハ條約ニヨル場合ナリ條約ハ其ノ名稱ノ如何ヲ問ハス國ト國トヲ拘束スル力ヲ有スルハ勿論ナレトモ同時ニ對個人的ニ國內法令ノ效力ノ範圍ヲ擴張シ之ニ依テ直接ニ臣民ヲ拘束スルニハ公式令ノ規定ニ依ルヲ要シ樞密顧問ノ諮詢ヲ經 天皇ノ批准ヲ得テ之ヲ公布スルモノナラサルヘカラス是レ多數公法學者ノ認ムル所ニシテ此ノ憲法上ノ條約ノミヲ以テ足レリトセス更ニ法律ニヨラサルヘカラストスルノ學說スラ存スル所ナリ (佐々木惣一氏日本憲法要論第三版第六九六頁以下上杉慎吉氏大日本帝國憲法講義) 蓋シ憲法上ノ條約締結ハ 天皇ノ大權事項ニシテ議會ノ協贊ト 天皇ノ裁可トヲ要スル法律ニ因ラスシテ法律ノ適用範圍ヲ擴張シ又ハ法律ト同等ノ力ヲ以テ臣民ヲ拘束スルコトハ國際事項ト國內事項トノ競合ニシテ事甚重大ナルヲ以テ大權事項ト爲ス所以ナルヘシ若夫レ單純ナル政府間ノ協約ノ如キヲ以テ之レト同一拘束力アラシムルカ又ハ同一拘束力アリト解釋シ之ヲ執行スルカ如キコトアラシ乎上ハ 天皇大權事項ノ干犯トナリ下ハ國民ニ對スル壓迫トナランコトヲ虞ル上記國境列車直通運轉ニ關スル日清協約ハ一方帝國ノ總領事朝鮮總督府鐵道局長官同稅官長南滿洲鐵道株

式會社副總裁同理事カ委員トナリ他方清國ノ奉天交涉司等ト締結シタル事務處理規程ニシテ樞密顧問ノ諮詢ヲ經タルニアラス 天皇ノ批准アリタルニアラス僅ニ官報ニ掲載シタルニ過キサレモノナレハ憲法上ノ條約ニアラス之ニヨリテ國家間ヲ拘束スルハ勿論ナレトモ臣民ニ對シテ何等法律上ノ拘束力ヲ有スルモノニアラス從テ關稅法ノ適用範圍伸張ノ效力ヲ有セス故ニ嚴格ニ之ヲ論スレハ稅關官吏ノ検査ソレ自體既ニ違法ナリ未タ國境ヲ踰越セスシテ關稅ノ遁脫アルヘキ筈ナキナリ惟フニ此ノ協約ノ希圖スル所ハ全ク國境列車ヲ直通運轉スルニ付キ帝國臣民タルト外國人タルトヲ問ハス之ニ伴フ關稅徵收ノ便法ヲ講セントスル事務處理規定ニシテ検査ニヨリテ (實ハ違法ナレトモ) 有稅品ヲ發見シタルトキハ其ノ隱匿シタルモノヲ發見シタルト否トヲ問ハス敢テ違反呼ハリスルコトナクシテ直ニ稅金ヲ徵收スヘク (六ノハ) 關稅法第七十五條ヲ適用スルハ鴨綠江鐵橋ヲ通過シ國境ヲ越ヘ尙且遁脫ヲ圖ルノ行爲アリタル場合ノミトスル趣旨ナルコト疑ヲ容レス若シ然ラスシテ之ニヨリテ關稅法ノ適用ヲ期シタランニハ締結ノ形式ヲ別トスルモ六ノハ) ノ如キ規定ヲ爲スノ要ナカリシナルヘシ人或ハ安東縣停車場ニ於ケル我國出張稅關吏カ從前關稅法施行ノ態度ヲ以テ内外人ニ臨ミタル事實ヲ以テ適法ノ慣行ノ如ク思惟シ恬トシテ其ノ違法態度ヲ怪マサルノミナラス原判決ノ如ク寧ロ進テ其適法性ヲ認メントスルカ如キハ法治國ノ態度トシテ遺憾ヲ禁スル能ハサルヲ覺ユルモノナリ之ヲ要スルニ原判決ハ關稅遁脫ヲ圖リタルモノトシテ關稅法ヲ適用セルハ擬律錯誤ノ違法アリト信スト云ヒ各被

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ遁脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ノ受託官者ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ方式

告人辯護人鵜澤總明上告趣意書第二點本件ノ犯罪地トシテ原判決ノ確定シタル場所ハ支那共和國安東縣停車場ナリトス被告人等ハ昭和五年一月二十三日午前七時頃同停車場ニ於テ同停車場派出朝鮮總督府稅關官吏ノ檢査ニ所持ノ物品ヲ提出セスト云フニ在リ安東縣停車場ハ日本帝國ノ領土ニアラス從テ帝國刑法ニ云フ帝國内ニアラサルコトハ極メテ明白ナリ被告人等ノ原審辯護人ハ明治四十四年十一月二日日清兩國間ニ締結セラレタル國境列車直通運轉ニ關スル日清協約ハ御批准ヲ經サルモノニシテ單ニ稅關官吏ノ事務取扱ヲ協定シタルモノニ過キササルヲ以テ帝國臣民ヲ拘束スル效力ナシ仍テ本件ニ付テハ關稅法ヲ適用スルノ餘地ナキコトヲ主張シタルコトハ原判文ノ特ニ掲記スル所ナリ本協約カ罰則又ハ其手續ヲ規定シタルモノニ非サルコトハ論スル迄モ無シ同協約第六項ノ(ハ)ニ於テ稅關官吏前記二項ニ依リ檢査中有稅品ヲ發見シタルトキハ同物品所持者タル旅客ヨリ直接稅金ヲ徵收スルコトトノ約款アレトモ此約款ハ單ニ協約上稅金ノ直接徵收ヲ定メタルニ過キスシテ有稅品ノ發見ヲ以テ犯則ト見タル趣旨ニ非ス從テ設ヒ斯クノ如キ場合アリタリトスルモ其ノ有稅品所持者ヲ帝國刑法ノ犯罪者ト見ルコト能ハサルモノナリ此協約ト帝國ノ稅法上ノ訴追規定ハ何等關係ナシ然ルニ原判決ハ此點ニ就テ何等ノ理由ヲ示サス又安東縣停車場ハ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ニ屬シ帝國臣民ニ對スル刑罰法規ノ適用ニ付テハ所謂帝國外ニ該當セサルノミナラス云々ト說明シ又安東縣停車場ニ於テ日本帝國ノ稅關官吏帝國ノ稅關稅則ニ遵ヒ之ヲ檢査スヘキモノナルヲ以テ同所ニ於テ關稅法第七十五

條ニ該當スル所爲ヲ爲シタルモノアルトキハ當然同法條ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノナルコト明白ナルニ因リト說明シテ直ニ帝國關稅法第七十五條ヲ適用シ得ヘキモノト判斷シタルニ過キス協約第六項ニハ各其本國ノ稅關稅則ニ遵ヒ竝細則ヲ規定シテ辨理スヘシトアルモ檢査ニ關スル規定ニ過キス犯罪關係ヲ規定シタル約款ニ非サルナリ原判決ハ安東縣停車場ハ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ニ屬シ帝國臣民ニ對スル刑罰法規ノ適用ニ付テハ所謂帝國外ニ該當セサル旨說明スレトモ領事裁判權カ明治三十二年法律第七十號領事官ノ職務ニ關スル件第七條ニ依リ果シテ如何ナル程度ノ職務ヲ行フヘキカニ就テ何等說明スル所ナシ從テ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ト云フカ如キ漠然タル理由ヲ以テ直ニ帝國臣民ニ對スル刑罰法規ノ適用ニ就テ帝國外ニ該當セストスルコト能ハス要スルニ原判決ハ罰スヘカラサル事件ニ於テ被告人等ヲ罰シタル違法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノト思料スト云ヒ同第三點原判決ハ被告人等ノ第一、第二ノ行爲ヲ關稅法違反罪ニ問擬シ同法第七十五條ヲ適用處斷シタリ然レトモ同條ハ關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫スルニ因リテ成立スルモノニシテ關稅トハ國ノ領域ヲ越エ外國ヨリ輸入セラルル物品ヲ客體トスル租稅ニシテ之カ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタリトスルニハ該物品ハ我國ノ領域線ヲ超エテ我領域内ニ入り來リタルコトヲ要ス然ルニ原判決認定ノ事實ニ依レハ被告人等ノ本件行爲ハ支那共和國安東縣停車場ニ於テ行ハレタルモノニシテ未タ我國ノ領域内ニ入り來リタルモノニアラサルヲ以テ特別ノ法令ノ存セサル限り同法ヲ適用スヘキモノニアラサルナ

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ逋脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ヲ受託
官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ
方式

リ原判決ハ明治四十四年十一月二日日清兩國委員ニ於テ調印セラレタル「國境列車直通運轉ニ關スル日清協約(明治四十四年十一月十五日官報所載)ニ基キ關稅法ヲ適用スヘキモノナル旨判示シアルモ同協約ハ明治四十四年十一月二日ヨリ十五年後迄適用セラレヘキモノニシテ其以後ハ其ノ效力ヲ失フモノナルコトハ同協約第十項ニ依リ明カナルヲ以テ同協約ニ依リ直ニ關稅法ヲ適用シ得ヘキモノニアラス況ヤ右協約國ナル清國ハ當時既ニ解消シテ存在セサルモノナルニ於テオヤ從テ被告人ノ本件行爲ニ對シ關稅法ヲ適用スルニハ如何ナル法令上ノ關係ニ基クモノナリヤ該法令竝ニ關係ヲ示ササルヘカラサル筋合ナリトス然ルニ原判決ハ此點ヲ明カニスル所ナク漫然被告人等ヲ關稅法違反罪ニ問擬處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルカ又ハ理由不備ノ違法アルモノニシテ破毀スヘキモノト思料スト云ヒ」

同第四點原判決ハ其ノ理由ニ於テ「尙辯護人ハ假ニ被告人兩名ノ本件行爲カ關稅法所定ノ犯罪ニ該當ストスルモ右ハ帝國外ニ於テ犯サレタルモノニシテ特別ノ法令ノ存セサル限り之ニ對シ關稅法ヲ適用スヘキモノニアラス而シテ明治四十四年十一月二日日清兩國間ニ締結セラレタル國境列車直通運轉ニ關スル日清契約ハ 天皇ノ批准ヲ經サルモノニシテ單ニ稅關官吏ノ事務取扱手續ヲ協定シタルモノニ過キササルヲ以テ帝國臣民ヲ拘束スル效力ナシ仍テ本件ニ付テハ關稅法ヲ適用スル餘地ナキ旨主張スレトモ本件發生當時ノ支那共和國安東縣停車場ハ帝國領事裁判權ノ行ハルル地域内ニ屬シ帝國臣民ニ對スル刑罰法規ノ適用ニ付テハ所謂帝國外ニ該當セサルノミナラス同所ヲ發シテ陸路日本帝國內ニ輸入

セララル貨物ハ前記國境列車直通運轉ニ關スル日清協約(明治四十四年十一月十五日官報所載)ニ基キ安東縣停車場ニ於テ日本帝國ノ稅關官吏帝國ノ稅關稅則ニ遵ヒ之ヲ檢査スヘキモノナルヲ以テ同所ニ於テ關稅法第七十五條ニ該當スル所爲ヲ爲シタルモノアルトキハ當然同法條ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノナルコト明白ナルニ因リ辯護人ノ前記主張ハ之ヲ採用セス」ト判示シタリ然ルニ明治四十四年十一月十五日官報所載日清兩國委員ニ於テ同年同月二日調印セラレタル「國境列車直通運轉ニ關スル日清協約」ヲ閱スルニ其ノ冒頭ニハ「安奉鐵道ト朝鮮鐵道トノ間ニ列車ノ國境直通運轉ヲ行フニ付日清兩國政府ハ各委員ヲ任命シ左記各項ヲ協約ス」ト記載シ其ノ第十項トシテ「十、安奉鐵道ハ條約ニ依リ十五年ノ後清國政府ニ於テ買收スヘキナルモノナルニ依リ本協約ハ該鐵道買收以前ノミニ適用セラルヘキモノニシテ買收後ハ兩國政府ハ別ニ列車直通ニ關スル章程ヲ協定スヘシ」トアリテ同協約ハ右調印ノ日タル明治四十四年十一月二日ヨリ十五年間即チ大正十五年十一月二日迄效力ヲ有スルモ其ノ後ハ適用スルコトヲ得サルモノナルコト右協約條項ニ依リ明白ナリトス然ルニ原判決ハ右日清協約第十項ヲ看過シ其ノ後日支兩國間ニ如何ナル章程ノ協定アリタリヤ又無キモノトスレハ如何ナル條約ニ基キ問題ノ協約カ有效ナリヤヲ審究スル所ナク漫然前示國境列車直通運轉ニ關スル日清協約(明治四十四年十一月十五日官報所載)ニ基キ被告人等ノ行爲ハ關稅法ヲ適用處斷スヘキモノナリト爲シ前記辯護人ノ主張ヲ排斥シタルハ不法ノ裁判ニシテ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在レトモ

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ運稅ヲ關リタレ行爲ト關稅法ノ適用 受託
官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ
方式

支那共和國ハ日清通商航海條約ニ依リ我帝國ノ法律ニ從ヒ領事裁判權ヲ行ヒ得ル地ニシテ帝國臣民ニ對スル關係ニ於テハ我法令ニシテ其ノ性質國內ニ於テノミ適用アルモノヲ除キ其ノ他ノ法令ノ適用上帝國内ト同一視スヘキモノトス然リ而シテ關稅ハ原則トシテ貨物カ一國領土ヲ越ユルニ當リ之ニ賦課スル租稅ヲ云フモノナルヲ以テ關稅法第七十五條ニ所謂關稅ヲ逋脫シタル行爲ハ所論ノ如ク貨物カ國境ヲ越エテ我領域内ニ入りタル場合ニ於テ成立スルモノナルモ同條ニ所謂關稅ノ逋脫ヲ圖ルノ行爲ハ必スシモ貨物カ國境ヲ越エテ我領土内ニ入りタル場合ニ於テ始メテ成立スルニ限ルコトナク國外ニ於テモ亦成立シ得ルコトハ其ノ行爲ノ性質上蓋シ疑ナキ所ニシテ關稅法規中此ノ點ニ關スル部分ハ其ノ性質上國外ニ於テモ亦適用アリ得ヘキモノトス然レハ本件發生當時我領事裁判權ノ行ハレタル支那安東縣停車場ニ於テ犯シタル被告人等ノ本件犯罪ハ帝國内ニ於テ犯シタルモノト同一視スヘキモノナルカ故ニ帝國外ニ於テ爲サレタル行爲ニ對シ關稅法ヲ適用シ得ヘキ規定ナシト雖如上ノ理由ニ依リ同法第七十五條罰則ノ適用上ニ於テハ之ヲ國內犯トシテ處罰シ得ルハ當然ナリ加之安東縣停車場ヲ經由シテ陸路我帝國内ニ輸入セラルル貨物ハ明治四十四年十一月二日日清兩國間ニ締結セラレタル所論協約ニ基キ右安東縣停車場ニ於テ我帝國ノ稅關官吏帝國ノ稅關稅則ニ遵ヒ之ヲ検査スヘキコト爲リ居リ該協約ハ樞密院ノ諮詢ヲ經 天皇ノ批准ヲ得テ公布セラレタル事蹟ノ認ムヘキナシト雖同協約ハ國際慣例上各締結國ヲ拘束スル效力アルコト勿論ニシテ支那共和國ハ同停車場ニ於テ我關稅行政ニ關スル

諸法令ノ適用實施ヲ容認セルヲ以テ我稅關官吏ハ同停車場ニ於テ敍上貨物ノ検査ヲ爲シ得ヘク而シテ縱令普通ノ場合ニ於テハ斯ノ如キ協約ハ國內的ニハ何等臣民ヲ拘束スヘキ效力ナキモノトスルモ敍上ノ如ク右停車場所在地ハ我領事裁判權ノ行ハルル地ニシテ性質上國內ニ於ケル關稅行政ニ關スルモノニ非サル限リ關稅法規ノ適用ニ付テハ我帝國領土内ト同一視サルヘキモノナルヲ以テ若シ帝國臣民ニシテ同所ニ於テ稅關官吏ノ検査ヲ受ケ關稅ノ逋脫ヲ圖ル行爲ヲ爲シタル者アルトキハ當然之ニ對シテ關稅法第七十五條ヲ適用シ之ヲ處罰シ得ヘキハ明白ナリ尤モ領事裁判權ノ行ハルル地ニ於テ行ハレタル犯罪ナルヲ以テ國內犯トシテ處罰シ得ヘシト云フニ止マリ關稅ノ賦課ニ關シテモ亦支那領土カ我帝國領土ト同一視サルニ非サルハ固ヨリナリ若シ夫レ敍上協約ハ明治四十四年十一月二日ヨリ十五年後即チ大正十五年十一月二日迄適用セラルヘキモノニシテ其ノ以後ハ其ノ效力ヲ失フモノナルノミナラス右協約國タル清國ハ當時既ニ解消シテ存在セサルモノナレハ關稅法ヲ適用シ得ヘキ限リニ在ラスト主張スル論旨ニ至テハ何等ノ理由アルコトナシ蓋シ同協約第十項ニハ「安奉鐵道ハ條約ニ依リ十五年ノ後清國政府ニ於テ買收スヘキモノナルニ依リ本協約ハ該鐵道買收以前ノミニ適用セラルヘキモノニシテ買收後ハ兩國政府ハ別ニ列車直通ニ關スル章程ヲ協定スヘシ」ト規定セルヲ以テ其ノ協約ノ趣旨ハ右鐵道ヲ清國ニ於テ買收スルニ至ル迄該協約ハ其ノ效力ヲ有スルモノニシテ右十五年ノ期間ハ右買收ノ豫定期間ヲ示シタルニ止マルモノナルコト明ナリ然ルニ本件犯行當時ニ至ル迄ニ清國政府又ハ

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ逋脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ノ受託官署ノ職人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ方式

支那共和國政府ニ於テ該鐵道ヲ買收シタル事實ナキヲ以テ該協約ハ當時其ノ效力ヲ存シタルモノナリ而シテ該協約國タル清國ノ政府ハ所論ノ如ク本件犯行當時既ニ解消シ新ニ支那共和國政府ノ樹立ヲ見タルモ支那國家ノ人格ハ前後同一ニシテ我國亦新政府ノ承認ヲ爲セルヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ新政府ハ前政府ノ締結セル協約ニ羈束セラルヘキモノナルコト國際法上ノ原則ナレハナリ然レハ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法アルコトナク論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ

各被告辯護人守屋孝藏上告趣意書第二點上記國境列車直通運轉ニ關スル日清協約六ニヨレハ清國國境內ヨリ日本國ニ輸入スル貨物ハ先ツ清國稅關官吏ニ於テ檢査シタル後日本國稅關官吏ニ於テ檢査スヘキコトヲ規定シ原審昭和八年二月七日公判調書中被告人山中合名會社代表者山中松治郎及被告人中西繁藏ノ陳述ニヨレハ本件ニ於テ支那ノ稅關吏モ帝國稅關吏ト同時ニ檢査シ而モ支那ノ稅關吏ハ毫モ被告人等ノ違反行爲ヲ認メス僅カニ六、七百圓ノ課稅ヲ爲シタルニ過キサルコト明ナリ之ニ關スル證據ハ證據第十二號トシテ第一審ニ於テ山中松治郎ヨリ利益ノ證據トシテ提出濟ナルコトモ亦一件記錄中證據物件目錄記載ニヨリテ明カナリ然ルニ原審ニ於テ被告人等ニ對シテ有利ナル此ノ證據ヲ審理中被告人ニ示サス(昭和八年二月七日公判調書)(刑事訴訟法第三百四十一條)斯ノ如キハ刑事訴訟法第四百十條第十三號ノ「法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ」ニ該當スル違法アルノミナラス此ノ證據ノ存在ニヨリ原判決ニ於テ被告人等ニ關稅通脫ヲ圖リタルモノトナシタル

認定ハ同法等第四百十四條ノ所謂重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトヲ證スルモノニシテ孰レモ違法アリト信スト云フニ在レトモ

刑事訴訟法第三百四十二條ノ如キ例外的規定アル場合ヲ除キ事實裁判所ハ自由ニ證據調ノ限度ヲ定ムルコトヲ得ヘク裁判所ハ其ノ不必要ト認メタル證據物件ニ付必スシモ逐一公判廷ニ於テ之ヲ被告人ニ示シテ之カ取調ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス而モ同法第四百十條第十三號ニ「法律ニ依リ公判ニ於テ取調フヘキ證據ノ取調ヲ爲ササリシトキ」トアルハ右第三百四十二條ノ如ク特ニ法律ノ明文ヲ以テ公判廷ニ於テ取調フヘキコトヲ規定シタル場合ニ其ノ取調ヲ爲ササリシトキヲ指稱スルモノナリ本件ニ於テハ原裁判所カ如上例外ノ場合ニ屬セサル所論證據物件ニ付其ノ證據調ヲ不必要ナリト認メ公判廷ニ於テ之カ取調ヲ爲ササリシモノナレハ右第四百十條第十三號ノ場合ニ該當セサルハ勿論ニシテ原裁判所ノ公判手續ニハ所論ノ如キ違法毫モ存スルコトナシ而シテ記錄ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ

同第三點原判決ニ於テ被告人等ニ關稅通脫ヲ圖リタルモノト認定シタル重要證明ノ一トシテ證人中川利彦ノ訊問調書ヲ引用ス然ルニ證人中川利彦ハ第一審ニ於テ職權ニヨリ囑託訊問スルコトニ決定セラレタルモ(昭和六年十一月二十五日第三回公判調書)安東日本副領事カ昭和七年一月二十二日之ヲ訊問スルニ當リ被告人及辯護人ニ對シ公判期日ノ通知ノ送達ヲ爲サス全然其ノ訊問ニ立會セシムルノ機

支那共和國內ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ通脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用ヲ受託官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ方式

會ヲ與ヘスシテ之ヲ了セリ調書ノ京都區裁判所ニ返付セラレテ後始メテ囑託ニ當リ被告人ノ住所及辯護人ノ住所氏名通告ヲ領事館ニ爲ササリシコト及右訊問ノ違法ナルコトヲ認メ遂ニ記録ニ綴リタルママ公判ニ提出セス第一審ニ於テ之ヲ被告人ニ説示セサリシ所以ハ之カ爲ナリ第二審昭和八年二月七日ノ公判調書中證據調ノ中ニ「證人中川利彦ニ對スル在安東日本帝國領事館副領事ノ訊問調書」ノ記載アレトモ事實ハ多クノ裁判所ニ於テ日常行ハルル如ク證據ノ讀聞ケテ省略シタレハ斯ノ如キモノヲ一々指摘シタルコトナシ若シ眞ニ此ノ違法ノ證據調カ引用セラレシナランニハ被告人及辯護人ハ當然異議ヲ申立ツヘカリシナリ然ルニ原判決ハ此ノ違法ノ證人訊問調書ヲ採リテ斷罪ノ重要資料ト爲シタルハ不法ニ採證シタル違法アリト信スト云フニ在レトモ

【要旨第二】

受託官署ノ證人訊問ニ付テハ被告人ノ召喚ヲ必要トスル規定ナク又公判期日ニ於ケル如ク辯護人ノ召喚ヲ必要トスル規定ナキヲ以テ此等被告人及辯護人ニ對シ豫メ期日ヲ通知セスシテ訊問ヲ爲スモ之ヲ以テ違法ナリト爲スヲ得ス然レハ安東日本副領事カ第一審裁判所ノ囑託ニ基キ所論證人ノ訊問ヲ爲スニ當リ被告人及辯護人ニ期日ノ通知ヲ爲ササリシトスルモ該證人訊問ノ違法ヲ來スコトナケレハ原審カ該證人ノ訊問調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタレハトテ所論ノ如キ採證ノ違法アリト云フヲ得ス論旨ハ其ノ理由ナシ

同第四點原判決ハ新義州稅關鑑査官補毛利正ノ作成セル昭和五年六月二十一日附犯則物件調書ニアル

鑑定ヲ採用シ被告人山中合名會社ノ本件輸入貨物ノ到着價格ヲ採用シテ金一萬四千九十圓四十錢ト認定シ辯護人ノ申請ニ係ル課稅價格鑑定申請ヲ却下セリ此ノ到着價格ハ被告人カ北京ニ於テ仕入レタル原價ヲ其ノ儘採リタルモノナルコトハ原審公判調書ニ於ケル同會社代表者山中松治郎ノ陳述ニヨリテ疑ヲ容レス而シテ原判決ハ此ノ到着價格ニヨリテ被告人山中合名會社ニ對スル罰金ノ基礎トナセリ抑モ關稅定率法第二條ニ所謂「輸入ノ際ニ於ケル到着價格」トハ仕入價格ソノモノニアラサルコトハ云フヲ俟タス又貨物ノ所有者占有者若ハ輸入者ト稅關官吏ト各觀ル所必スシモ一致セサルコトモ亦明ナリ今日我國ニ於ケル各稅關ノ取扱ニ於テハ毫モ「エンボイス」ノ提出ヲ求メス隨意ニ認定シ而モ其ノ認定ハ仕入價格ノ幾割又ハ幾分ナルヲ常トスルハ餘リニ顯著ナル事實ナリ被告人等カ原審ニ於テ從前徵收セラレタル實例ヲ陳述セルハ其ノ好適例ナリ然ルニ原判決ハ此ノ顯著ナル事實ヲ度外視シ辯護人ノ證據申請ヲ却下シ敢テ仕入原價其ノ儘ノ鑑定ヲ採用シテ巨額ノ罰金刑ヲ言渡シタルハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ此ノ點ニ於テ法律ニ違背セル不法アリト信スト云フニ在レトモ

所論原判示價額ハ原判決ニ舉示スル證據ニ依リ之ヲ證明シ得ヘク原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷證據調ノ程度ヲ非難スルハ當ラス記録ニ徵スルモ原判決ノ右認定ニ重大ナル誤謬アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナク從テ又原審ノ被告人ニ對スル刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ

支那共和國內ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ通稅ヲ關稅法ノ適用ニ當リ受託官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ方式

顯著ナル事由アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ

各被告人辯護人鶴澤總明上告趣意書第一點原判決ハ被告人山中合名會社ヲ罰金四萬二千二百七十一圓二十錢ニ被告人中西繁藏ヲ罰金百八十六圓六十錢ニ處スル旨ノ判決ヲ言渡サレタリ然ルニ今其ノ罰金額ヲ算定スヘキ法規ノ何レニ準據セラレタリヤヲ案スルニ原判決ニ於テハ法律ニ照スニ山中松治郎及被告人中西繁藏ノ判示第一ノ所爲ハ夫々關稅法第七十五條ニ該當スルトコロ右ハ孰レモ被告人山中合名會社ノ代表者又ハ其ノ雇人トシテ同會社ノ業務ニ關シ租稅ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ該當スルヲ以テ明治三十三年法律第五十二號第一條本文ニ依リ右關稅法第七十五條ノ規定ヲ被告人山中合名會社ニ適用スヘク又被告人繁藏ノ判示第二ノ所爲ハ同法第七十五條ニ該當スルヲ以テ孰レモ所定刑中罰金ヲ選擇シ被告人山中合名會社ヲ罰金四萬二千二百七十一圓二十錢ニ被告人中西繁藏ヲ罰金百八十八圓六十錢ニ各處シ刑法第十八條第一項ニ則リ被告人中西繁藏ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同被告人ヲ九十四日間勞役場ニ留置ス尙押收物件中主文掲記ノ各物件ハ孰レモ本件犯罪ニ係ル貨物ナルヲ以テ關稅法第七十五條ニ從ヒ各之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ依リ被告人中西繁藏ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトストアル而已元來關稅法第七十五條ノ適用スル場合ニ於テハ被告人等ノ行爲カ關稅定率法ノ何レニ該當スル場合ナルカヲ決定シ其ノ課稅品タルコトノ事實ヲ確定シ然後ニ之カ價格ヲ鑑定シテ稅額ヲ定メタル旨ヲ明示シ更ニ又其ノ稅額ノ三倍ニ相

當スル金額ノ何程ナルカヲ確定スヘキモノニシテ關稅定率法ノ何レニ依據シタルカハ裁判上之ヲ明ニセサルヘカラス然ルニ原判決ハ其ノ基ク所ノ法條ヲ明示セス原判決ニ於テハ右貨物ニ對スル關稅額合計カ判示ノ如クナルコトハ新義州稅關朝鮮總督府稅關鑑定官補毛利正作成ノ犯則物件調書中其ノ關係部分ニ付判示ニ照合スル記載アルニ據リ明ナリトシテ單ニ事實ノ説明トシテ鑑定官補毛利正ノ犯則物件調書ヲ引用シタルニ過キス本件ニ於テハ原審公判調書ニ明ナルカ如ク被告人等ハ脫稅ノ意思ヲ否認シ價格ヲ爭ヒ又辯護人ハ課稅標準價格ニ付鑑定ヲ求メタルモノナリ然ルニ原審ニ於テハ鑑定ヲ却下シ課稅標準ノ基本法規ヲ示サシテ本件ノ言渡ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第三百六十條ニ違反シタル裁判ニシテ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ

原判決ハ證據ニ依リ被告人山中合名會社ノ代表者山中松治郎及同會社雇人中西繁藏ノ兩名カ同會社ノ爲支那ニ於テ仕入レタル翡翠製首飾三連外判示商品當時ノ市價合計一萬四千九百四十錢相當ノモノヲ携帶シ支那北京ヲ發シ奉天ヨリ滿鮮直通列車ニ塔乘シテ同國安東縣及朝鮮新義州ヲ經由内地ニ歸國輸入セントスルニ當リ昭和五年一月二十三日午前七時頃支那共和國安東縣停車場ニ於テ右商品ヲ右兩名ニテ夫々自己ノ着衣ニ隱匿シ同停車場派出朝鮮總督府稅關官吏ノ檢査ニ提示セス以テ右貨物ニ對スル關稅合計一萬四千九百四十錢ノ逋脫ヲ圖リ被告人中西繁藏ハ右檢査ノ際曩ニ自ラ支那ニ於テ買求メ來リタル自己所有ノ金側懷中時計二箇瑪瑙製下ケ物一箇ビース製品一箇以上當時ノ市價合計金五十

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ヲ逋脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用 受託
官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ
方式

三圓二十錢相當ノモノ及六神丸三十箇當時ノ市價金三十圓相當ノモノヲ右同様ノ順路ニ依リ携帶輸入セントスルニ當リ右同日同所ニ於テ之レ亦自己ノ着衣ニ隠匿所持シ朝鮮總督府稅關官吏ノ檢査ニ提示セス右貨物ニ對スル關稅合計六十二圓二十錢ノ逋脫ヲ圖リタル旨ヲ判示シ該行爲ニ付被告人山中合名會社ニ對シテハ明治三十三年法律第五十二號第一條本文ニ依リ孰レモ關稅法第七十五條ヲ適用處斷セラル以上原判決ハ刑事訴訟法第三百六十條所定ノ要件ヲ具備シ所論ノ如ク被告人等ノ行爲カ關稅定率法ノ何レニ該當スル場合ナルカ又關稅定率法ノ何レニ依據シタルカヲ一々詳細ニ明示スルコトヲ要セス又稅額ヲ定ムルニ付必スシモ鑑定ヲ要スルモノニ非ス從テ又所論ノ如ク價格ヲ鑑定シテ稅額ヲ定メタル旨ヲ明示シ然ル後其ノ稅額ノ三倍ニ相當スル金額ノ幾何ナルカヲ確定スルコトヲ要スルモノニ非ス然レハ原判決ニハ所論ノ如キ違法アルコトナク原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨證據調ノ限度ヲ非難スルハ當ラス論旨ハ其ノ理由ナシ

同第五點本件ハ關稅法第九十五條ニ依リ稅關長ノ告發ニ基キ處斷スヘキモノナリトス然ルニ記錄一丁以下及三丁以下ノ告發書ヲ閱スルニ(一)告發人トシテ「新義州稅關長井上主計」ノ文字ハ活字ニ依ルモノニシテ同稅關長ノ署名シタルモノニアラス刑事訴訟法第七十一條ニ違背シ無効ナリトス(二)關稅法第九十五條ニハ「犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ履行スヘシ其ノ期間内ニ履行セサルトキハ稅關長ハ直ニ告發スヘシ」ト規定シアリテ犯則者ハ同法第九十四條ノ通告

ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ履行ヲ爲ササルトキ稅關長ニ於テ告發スヘキモノニシテ同條ニ所謂通告ヲ受ケタリト謂フハ該通告カ被告人ニ到達シタルコトヲ謂フモノナルハ勿論ナルヲ以テ稅關長ニ於テ告發ヲ爲スニハ被告人ニ對シ該通告ヲ發シタルノミニ止マラス該通告ハ何日被告人ニ到達シタルモノナリヤヲ明ニスルコトヲ要ス何トナレハ假令稅關長ニ於テ該通告ヲ發シタル事實アリトスルモ何等カノ故障ニ依リ該通告カ被告人ニ到達セザリシトセハ之カ告發ヲ爲シ能ハサルモノナレハナリ然ルニ右告發書ヲ閱スルニ被告人等ニ對シ該通告ヲ爲シタルハ昭和五年七月一日ナル旨記載シアルニ止マリ該通告カ何月何日被告人等ニ到達シタルモノナリヤ知ルニ足ル記載ナク該告發ハ果シテ適法ナリヤ否ヤ知ルニ由ナキモノトス以上述フルカ如ク本件告發書ハ不適法ノモノナルヲ以テ之ニ基キ起訴シタル檢事ノ公判請求モ亦不適法ト謂フヘク原審ニ於テハ須ラク公訴棄却ノ判決アルヘキモノナルニ事茲ニ出テサリシ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト思料スト云フニ在レトモ

被告人等カ關稅法第九十四條ニ依ル通告ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ其ノ通告ニ依ル義務ノ履行ヲ爲ササリシ爲稅關長ニ於テ本件告發ヲ爲シタルモノナルコトハ所論告發書ノ全趣旨ニ徴シ明ナルヲ以テ縱令所論ノ如ク該告發書ニ右通告カ被告人等ニ到達シタル日時ヲ明示セスト雖單ニ此ノ事實ノミヲ以テ本件告發ヲ不適法ナリト云フヲ得ス又所論告發ハ關稅法ノ規定ニ依リ稅關長之ヲ爲スノ職權ヲ有シ且關稅法若ハ關稅法施行規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作成スヘキ書類ノ方式等ニ付テハ特ニ右關稅法施行

【要旨第三】

支那共和國内ニ於テ帝國臣民カ關稅ノ逋脫ヲ圖リタル行爲ト關稅法ノ適用 受託 官署ノ證人訊問ト訴訟關係人ニ對スル右訊問期日ノ通知 稅關長作成ノ告發書ノ 方式

規則中ニ諸種ノ規定ヲ設ケアルヲ以テ右告發書ノ如キモ亦刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作成スルコトヲ要セス而モ右關稅法及同施行規則中ニハ告發書ニ稅關長ノ署名ヲ要スル旨ノ規定アルコトナケレハ縱令所論告發書ニ告發人タル新義州稅關長井上主計ノ記名捺印アルニ止マリ同人ノ署名ナシトスルモ之カ爲同告發書ノ無效ヲ來スコトナキハ勿論ナリ論旨ハ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事古田正武關與

○放火被告事件(昭和八年(九)第四四五號 棄却)

(昭和八年五月二十二日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 宮崎 種吉 辯護人 (高柳 義彰)
【第一審】 靜岡地方裁判所濱松支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

控訴申立書ヲ直ニ控訴裁判所ニ郵送シタル場合ト控訴申立ノ效力

○判決要旨

控訴申立書ヲ郵便ニ依リ控訴裁判所ニ提出シタルトキハ控訴裁判所ヨリ廻送セラレタル該申立書力控訴申立期間内ニ第一審裁判所ニ到着シタル場合ニ限り控訴申立ノ效力ヲ生ス

【参照】 刑事訴訟法第三百九十五條 控訴ノ提起期間ハ七日トス

訴訟申立書ヲ直ニ控訴裁判所ニ郵送シタル場合ト控訴申立ノ效力

○事實

原審ハ控訴ノ適否ニ辯論ヲ制限シ左記ノ理由ヲ附シ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ同人ニ對スル放火被告事件ニ付昭和七年十二月二十八日静岡地方裁判所濱松支部ノ言渡シタル有罪判決ニ對シ控訴ノ申立ヲ爲シタリ然レトモ本件記録ニヨレハ被告人ノ控訴申立書ハ同年十二月二十九日付ヲ以テ書留郵便ニヨリ當控訴院ニ提出セラレ昭和八年一月一日當院宿直ニ於テ之ヲ受領シタル上静岡地方裁判所濱松支部ニ廻送シ同裁判所ニ於テ同年一月七日受付ケタルモノナルコト明瞭ナリ而シテ刑事訴訟法第三百九十六條ニヨレハ控訴ヲ爲スニハ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘキモノナレハ第二審裁判所ニ差出スモ其ノ效ナク第一審裁判所ニ於テ受理セラレテ初メテ其ノ效力ヲ生スルモノト解ス可ク從テ本件ニ於テ前記ノ如ク第二審裁判所タル當控訴院ニ差出サレタル日時カ昭和八年一月一日ニシテ控訴期間内ナルモ第一審裁判所タル静岡地方裁判所濱松支部ニ廻送セラレ同裁判所ニ於テ受付ケタル日時カ昭和八年一月七日ニシテ既ニ控訴期間ヲ經過シ居ル以上本件控訴ハ期間經過後ニ爲サレタルモノト謂ハサルヘカラス然ラハ本件控訴ハ刑事訴訟法第四百條ニ所謂控訴權消滅後ニ爲シタル控訴ナルカ故ニ同條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人高柳彰上告趣意書第一本件被告人ニ對スル第一審ハ静岡地方裁判所濱松支部ニシテ同裁判所ノ判決ハ昭和七年十二月二十八日言渡サレタリ而シテ被告人ハ其ノ控訴申立書ヲ同年十二月二十九日書留郵便ヲ以テ其ノ控訴審タル東京控訴院宛提出シ右控訴審ニ昭和八年一月一日到着シタリ而シテ東京控訴院ニ於テハ右申立書ハ第一審裁判所ニ提出スヘキモノナリトテ静岡地方裁判所濱松支部ニ廻送シタル所右申立書ハ同裁判所ニ同年一月七日ニ到着セリ茲ニ於テ前審ニ於テハ右申立書ハ控訴權消滅後ノ申立トノ理由ヲ以テ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタリ然レトモ控訴ノ裁判ハ控訴裁判所ニ於テ爲スヘキモノナルヲ以テ原則トシテ控訴ノ申立ハ控訴裁判所ニ提出スヘキモノナリ單ニ刑事訴訟法第三百九十六條ニ申立書ヲ第一審裁判所ニ差出スヘシト規定シタルハ被告人ノ便宜ノ爲ヲ思ヒ規定シタルモノニシテ之カ爲本來裁判ヲナスヘキ宛名ノ裁判所ニ控訴ヲ提起スヘキ權利ヲ除外シタルモノニ非ス右ハ民事訴訟法第三百六十七條ニ於テ控訴狀ノ提起ヲ第一審及第二審裁判所ニナスコトヲ得ル旨規定セルニ徵スルモ明ナリ從來御院ニ於テハ控訴申立書ハ第一審裁判所ニ提出スヘキモノニシテ控訴審ニ之ヲナスモ無効ノモノナル旨ノ解釋ナリシモ前掲説明ノ如ク刑事訴訟法第三百九十六條ノ解釋ヲ第一審裁判所ノミト狹義ニ解釋セス近年ノ御院ニ於ケル傾向ノ如ク大體僅カナル手續上ノ瑕瑾ノ如キハ總テ被告人

訴訟申立書ヲ直ニ控訴裁判所ニ郵送シタル場合ト控訴申立ノ效力

ノ有利ニ解釋スヘキモノトノ理由ニヨリ且民事訴訟法規定ノ如ク御院ノ解釋ヲ改メ以テ廣義ニ解釋サ
 レンコトヲ乞フ然ラハ原審カ前述ノ如ク本件控訴ヲ控訴權消滅後ノ申立ト爲シ棄却シタルハ法律ノ解
 釋ヲ誤リタルモノト謂ハサルヘカラス第二第一項ノ理由ナシトスルモ原審判決理由摘示ノ如ク被告人
 ノ控訴申立書ハ昭和八年一月一日東京控訴院ニ到達セリ而シテ右控訴院ヨリ濱松支部ニ對スル廻送ハ
 同月七日ト相成居レリ然レトモ若シ東京控訴院ニ於テ昭和八年一月一日直ニ廻送ニ付スル時ハ少ク
 モ昭和八年一月四日以内ニハ原審タル静岡地方裁判所濱松支部ニ到着スヘキコトハ濱松昭和七年十二
 月二十九日投函昭和八年一月一日東京控訴院著ニ見テ且郵便物集配ノ現状ニ鑑ミテ顯著ナル事實トス
 然ラハ被告人ハ刑事訴訟法第三百九十五條ニ規定セル七日ノ期間内ニ同法第三百九十六條所定ノ裁判
 所ニ控訴ノ申立ヲナシタルモノト解釋サルヘキモノト思料ス蓋シ本件ノ如ク第一審裁判所ト第二審裁
 判所ト遠距離ニアル兩裁判所間ニ於テハ右法條所定ノ裁判所ヲ誤リタル時殊ニ控訴申立書ヲ郵送スル
 場合ニ於テハ即時ニ錯誤ヲ發見シ得サルモノナルヲ以テ出來得ル限り被告人ニ有利ニ之ヲ解スヘキモ
 ノナレハナリ從テ原審カ斯ノ如キ理由ニ依ラス單ニ形式的ニ控訴申立書ヲ原審ニ於テ受附ケタル日附
 ノミニヨリ控訴權消滅後ノ控訴ノ申立ナリトノ理由ニテ棄却シタルハ不當ノモノト謂ハサルヲ得ス仍
 テ原審ハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノトシテ原判決破毀ノ上相當ノ裁判アランコトヲ乞フト云ヒ辯護
 人栗木義次上告趣意書原判決ハ「刑事訴訟法第三百九十六條ニヨレハ控訴ヲナスニハ申立書ヲ第一審

裁判所ニ差出スヘキモノナレハ第二審裁判所ニ差出スモンノ效ナク第一審裁判所ニ受理セラレテ初メ
 テ其ノ效力ヲ生スルモノト解スヘク」トナシ以テ上告人宮崎種吉カソノ放火被告事件ニ付昭和七年十
 二月二十八日静岡地方裁判所濱松支部ニ於テ第一審判決ヲ受ケタルニ際シ第一審裁判所ニ控訴ノ申立
 ヲナス東京控訴院ニ對シ申立書ヲ昭和八年一月一日ニ提出シタルニ因リ同院ハ第一審裁判所タル靜
 岡地方裁判所濱松支部ニ廻送シ同裁判所ニ於テ受ケタル日時カ昭和八年一月七日ナルヲ以テ控訴期間
 經過後ニナシタル控訴ノ申立ニシテ刑事訴訟法第四百條ニ所謂控訴權消滅後ニナシタル控訴ナリトシ
 控訴棄却ノ判決ヲナシタリ然レトモ刑事訴訟法第三百九十六條及第四百條ヲカク解シ申立ノ受理權ヲ
 第一審裁判所ノミニ限定スルハ不合理ナリ第一刑事訴訟法第三百九十六條ハ控訴ノ申立ハ控訴裁判所
 ニ對スル意思表示ニシテ申立書ハ第一審裁判所ヘ差出スヘキコトヲ示シタルハ何等疑ノ餘地ナキトコ
 ロニシテ控訴ニ對シテハ裁判權ト之カ受理權トヲ分離シ受理權ハ第一審裁判所ニ於テノミ之ヲ有スル
 モノトナシ二者全然別箇ノ權限ヲ有スル機關ニ分屬セシメタルモノト云フヘキナリサレト第三百九十
 七條ニヨレハ第一審裁判所控訴ノ申立ヲ受理シタルトキハ其ノ申立適法ナリヤ否ヤヲ審査シ若シ方式
 ニ違ヒ又ハ控訴權喪失後ニナシタルモノナルトキハ不適法トシテ之ヲ棄却スル決定ヲナスモノトシ控
 訴裁判所ニモアラサルニ拘ラス訴訟ノ形式ニ付裁判權ヲ認メタリ之ヲ法理的ニ思考スレハ第一審裁判
 所ハ控訴裁判所ニアラサルニ拘ラス控訴ノ受理權及之カ審査ヲナス權利ヲ認メタル故ニカカル事實ヲ

前提トスルナレハ控訴裁判所ハ實體的裁判ノミヲナスヘキモノニシテ形式的裁判ヲナスヘキモノニアラスト云ハサルヘカラス何トナレハ元來審理裁判ヲナス權利ヲ有スルカ爲ニハ之ヲ受理スル權限ヲモ有セサルヘカラス受理スル權限ナキトコロニ審判スルノ權利ナシ然ルニ刑事訴訟法第四百條ハ如何ニ控訴ノ申立法律上ノ方式ニ違反シ又ハ控訴權消滅後ニナシタルモノナルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘシトナシ以テ形式的裁判ヲナス權利ヲモ併有セシメタリ蓋シ裁判所カ自己ニ繫屬スル事件ニ付形式的及實體的ニ裁判スルノ權利ヲ有スルハ法理ニ照シテ當然ナリ控訴申立書ノ受理權ヲ第一審裁判所カ有スルコトハ明文ヲ以テ定ム而シテ第二審裁判所カコノ權ヲ有スルヤ否ヤニツキテハ刑事訴訟法上明文ヲ缺ク然レトモ第二審裁判所ハ裁判權ト受理權トヲ有スルモノト解スルヲ妥當トスヘキモノト信ス第一審裁判所ニ對シ申立書ヲ差出シタル申立ノ效力カ受理權ヲ有スル第一審裁判所ニ於テ決定セラルルハ固ヨリ當然ナリ而シテ第二審裁判所カ第一審裁判所ト同様直接ニ申立人ニ對シ效力ノ有無ヲ決定シ得ル權限ヲ有スルハ茲ニ第二審裁判所モ又隱レタル受理權ヲ有スルモノト解スルニアラスンハ所謂論理ノ飛躍ヲナスモノト斷セサルヘカラスサレハ刑事訴訟法第四百條カ形式的裁判權ヲ認メタルコトハ控訴裁判所カ控訴ヲ受理スル隱レタル權限ヲ有スルコトヲ認メタルモノト云フヲ正當トス然ラストセハ第一審裁判所ト控訴裁判所トノ關係ハ機關對機關ノ關係ニシテ第一審裁判所カ審理スヘキ訴訟ノ形式ニ付之ヲナス控訴裁判所ニ於テ之ヲナシタルトキハソノ裁判ノ名宛者ハ第一審

裁判所ナル機關タルヘキニシテカカル場合ハ必然ニ其ノ責任ヲ生スヘキナリ然レトモ法文ハ第一審裁判所ニカカル責任ヲ問ヒタルトコロナク第四百條ノ裁判ノ名宛者ハ常ニ控訴申立人ナルヨリ見レハ既述ノ如ク隱レタル控訴受理權ヲ有スルモノト解スルヲ正當トス而シテ受理權ハ絕對的ナルモ現行法ノ解釋ニツキテハ第三百九十六條ノアル關係上控訴裁判所ニ對スル控訴申立ノ效力ハ之カ爲不定ニシテ第三百九十六條所定ノ形式ヲ履踐スルコトニヨリ遡及シテ確定的效力ヲ生スルモノト解スヘキニアラスヤ然リ而シテ被告人カ控訴期間内タル昭和八年一月一日控訴院ニ對シテナシタル原判決不服ノ意思表示ハ當然效力ヲ有スルモ其ノ效力ハ不完全ナルモノニシテ同年一月七日第三百九十六條所定ノ事實アリタルニヨリ追完サレ遡及シテ確定的效力ヲ生シタルモノナレハ正當ナル控訴ノ申立アリタリトナスヘク因テ原審ノ判決ハ法令ニ違反シタルモノトシテ破毀ヲ免レサルモノト信ス第二第一ニ述ヘタル事實ヲ近代刑事訴訟法ニ貫流スル便宜主義ノ精神ニ照合シテ果シテ正當ナリヤ否ヤ我カ刑事訴訟法ハ形式ニ關スル法律ト雖單ナル杓子定規ニ陥ルヲ避ケ公訴ノ提起ニ關スル第二百七十九條ノ如キハ彈力性アル規定ニシテ便宜主義本來ノ精神ヲ發揮シ近代刑事理想ニ合致シタルモノト云ハサルヘカラスコノ理想ハアヘテ公訴ノ提起ノミニ限ラルルモノニアラスシテ手續ノ全般ニ對シ貫流スルモノト云ハサルヘカラス刑事訴訟法第三百九十六條ハ第一審ノ刑事被告人カ其ノ管轄區域ニ在住スルヲ原則トスルカ故ニコレヨリシテ便宜上控訴申立ヲナスニハ原審裁判所ヘ差出スヘキモノトナシタルハ本法制定ニ

於ケル政府委員ノ説明ニ徴スルモ明ナリ又控訴制度ヲ認メタ刑事訴訟法ノ本來ノ精神ヨリスレハ第三百九十六條ハ其ノ申立受理權ヲ第一審裁判所ニ專屬セシメ第二審裁判所ニハ絶對ニ許ササルモノトナスカ如キハコノ理想ヲ蹂躪シタルモノニシテ不合理極マルモノト云ハサルヘカラスサレハ民事訴訟法第三百六十七條カ控訴ノ申立ニ付第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ受理權ヲ認メタルハ當然ニシテ法理ニ照シ又ハ控訴制度ヲ認メタル本來ノ精神ヨリスルモ正當ナルモノト謂ハサルヘカラス敢テ民事手續ナルカ故ニアラス第一審判決不服ノ意思表示ニ關シテハ兩者相異ルトコロナケレハナリ以上ヨリスルモ控訴院ノナシタル解釋ハ不合理ニシテ法令ニ違反シタルモノトシテ判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

按スルニ控訴ハ上級裁判所ニ對シテ事件ノ覆審ヲ求ムル不服申立ノ方法ニ外ナラサルカ故ニ控訴申立書ニ其ノ宛名ヲ表示セントセハ須ラク控訴ノ管轄裁判所ヲ記載スルヲ正當ナリトス此ノ意味ニ於テ控訴ハ控訴裁判所ニ對シテ爲サルヘキモノナルコト洵ニ所論ノ如シト雖凡ソ適法ニ控訴ヲ提起スルニハ法定ノ期間内ニ控訴申立書ヲ判決ヲ受ケタル第一審裁判所ニ差出スヘキモノナルコト刑事訴訟法第三百九十五條第三百九十六條ノ規定ニ照シ疑ヲ容レサル所ナルカ故ニ控訴權ヲ有スル者控訴ヲ提起スルニ當リ控訴申立書ヲ直ニ控訴裁判所ニ提出スルモ適法ナル控訴ノ效ナキモノト云フヘク只郵便等ニ依リテ控訴裁判所ニ送致シタル場合ニ於テ控訴裁判所之ヲ受取り更ニ第一審裁判所ニ廻送シタルトキノ

【要旨】

如キハ控訴期間内ニ第一審裁判所之ヲ受理シタル場合ニ限り控訴ノ效ヲ生スルモノト解スルヲ正當ナリトス本件ハ被告人ニ對スル放火被告事件ニ付昭和七年十二月二十八日静岡地方裁判所濱松支部ニ於テ言渡シタル有罪判決ニ對シ被告人ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シタルモノナルトコロ該控訴申立書ハ書留郵便ヲ以テ東京控訴院ニ郵送セラレ昭和八年一月一日同院宿直ニ於テ一旦之ヲ受領シタルモ同年一月六日付附箋ノ上静岡地方裁判所濱松支部ニ廻送セラレ同裁判所ハ同月七日受理シタルモノナルコト記録上明瞭ナリ然レハ該被告人ノ控訴ノ申立ハ其ノ申立書ヲ差出スヘキ裁判所ヲ誤マリ然モ控訴期間内ニ第一審タル濱松支部ニ受理セラレタルモノニ非サルコト明ナルカ故ニ冒頭説明ノ理由ニ照シ本件控訴ハ控訴權消滅後ニ爲サレタル控訴タルニ歸シ不適法タルヲ免レサルモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事大原昇關與

○收賄被告事件(昭和八年(九)第三二八號 棄却)

(同年五月二十六日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 今庭雄太郎 辯護人

外二名

草平 劉松山 市房 菊市 藤城 登治 伊藤 外三名

【第一審】 仙臺地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

連續罪ノ公訴時効——土木技師ノ收賄——道路技師ノ收賄

○判決要旨

- 一 連續罪ノ公訴時効ハ其ノ罪ヲ構成スル各行爲中最後ノ行爲ノ終リタル時ヨリ進行スルモノトス【要旨第一】
- 二 土木技師力土木工事請負人ノ詮衡ニ關シ賄賂ヲ收受スルニ於テハ收賄罪ヲ構成ス【要旨第二】
- 三 道路技師力道路工事請負人ノ詮衡ニ關シ賄賂ヲ收受スルニ於テハ收賄罪ヲ構成ス【要旨第三】

【參照】 刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸レルトキハ一

罪トシテ之ヲ處斷ス

刑事訴訟法第二百八十四條第一項 時効ハ犯罪行爲ノ終リタル時ヨリ進行ス
 同法第九十七條第一項 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要
 求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當
 ノ行爲ヲ爲ササレトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
 大正九年勅令第二四五號道路管理職員制第一條 道路管理ノ爲道廳又ハ府縣ニ通シ
 テ左ノ職員ヲ置クコトヲ得

事務職員

道路主事 專任六十人以内 委任官待遇

道路書記 專任千人以内 判任官待遇

技術職員

道路技師 專任百六十人以内 委任官待遇

道路技手 專任三千四百人以内 判任官待遇

前項職員ノ道廳及各府縣内ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム
 地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給
 ナ受クル第一項ノ職員ニシテ他ノ官廳ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又
 ハ技術ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス
 同制第二條 道路主事及道路書記ハ道路ニ關スル事務ニ從事ス
 道路技師及道路技手ハ道路ニ關スル技術ニ從事ス
 同年勅令第二四六號地方土木職員制第一條 地方土木ニ關スル事務又ハ技術ニ從事
 連續罪ノ公訴時効 土木技師ノ收賄 道路技師ノ收賄

六九八 (三三)
セシムル爲北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ各道廳又ハ府縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置
クコトヲ得

事務職員

土木主事 專任三十九人以內 奏任官待遇

土木書記 專任五百七十人以內 判任官待遇

技術職員

土木技師 專任百六十人以內 奏任官待遇

土木技手 專任二千四百人以內 判任官待遇

前項職員ノ道廳及各府縣內ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

地方待遇職員令第九條但書ノ規定ニ依リ俸給ヲ受ケス又ハ最低金額ヨリ低キ俸給

ヲ受ケル第一項ノ職員ニシテ他ノ官廳ニ在ル者ノ員數ハ主トシテ從事スル事務又

ハ技術ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ職員ノ定員ノ外トス

同制第二條 土木主事及土木書記ハ土木ニ關スル事務ニ從事ス

土木技師及土木技手ハ土木ニ關スル技術ニ從事ス

○事實

第二審ニ於テハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人今庭雄太郎ヲ懲役八月被告人丸山
齡治ヲ懲役五月ニ處シ雄太郎ヨリ金二千三百八十圓齡治ヨリ金千八十圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シ
タリ

甲、被告人千代治 寅吉 松之助 清治郎 伸太郎ハ孰レモ土木建築請負業者ナル處

第一 被告人千代治ハ

(一) 宮城縣内務部土木課勤務ノ道路技師ニシテ縣土木工事ノ請負入札ニ付指名入札者ノ詮衡ニ參
與シ工區申達ノ設計書圖面ノ調査工區監督工事指導及検査等ノ事務ヲ分掌シ居リタル被告人今庭
雄太郎ニ對シ將來縣工事ノ請負等ニ關シ利便ヲ得度キ趣旨ノ下ニ仙臺市北五番丁ナル同居宅ニ
於テ賄賂トシテ昭和三年六月頃金百圓昭和四年五月頃金二百圓計金三百圓ヲ交付シ

(中略)

第二 被告人寅吉ハ

(一) 前掲第一ノ(一)記載ノ如キ職務ヲ有スル被告人今庭雄太郎ニ對シ
(イ) 將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ニテ昭和三年九月頃ヨリ昭和五年三月頃迄ノ間五
回ニ互リ仙臺市立町通待合要ニ於テ賄賂トシテ計金四百五十圓ヲ
(ロ) 刈田郡小原村上戸澤道路改修縣工事ノ起工促進方ヲ請託シ其ノ報酬ノ趣旨ノ下ニ昭和四年
三月頃右待合要ニ於テ金百圓同年五月頃前記雄太郎居宅ニ於テ金百圓計金二百圓ヲ
夫々交付シ

(二) 昭和三年十月頃被告人雄太郎カ被告人寅吉 金作ニ對シ同人ニ於テ豫テ情交關係ヲ結ヘル玉

造郡岩出山町料理店柳月ノ抱酌婦小笠原はなニ手切金ヲ交付シテ同人トノ關係ヲ絶ツ爲其ノ交渉方ヲ依頼スルヤ被告人寅吉ハ被告人金作ト相謀リ將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得ヘキコトヲ豫期シ該依頼ニ應シテ其ノ頃右柳月ニ赴キ雄太郎ノ爲同人ノはなニ對シテ支拂フヘキ手切金四百圓ヲ右兩名ノ計算ニ於テ右はなニ支拂ヒ

(三) 宮城縣内務部土木課勤務土木技師ニシテ土木工事ノ一般計畫道路改良工事計畫測量設計並用地ノ調査等ノ事務ヲ分掌シ工事請負人ノ詮衡ニ參與シ居リタル被告人丸山齡治ニ對シ

(イ) 昭和四年八月頃前示待合要ニ於テ將來計畫セラルヘキ同人所管ノ縣道路工事ノ請負等ニ付利便ヲ得ヘキコトヲ豫期シ賄賂トシテ金三十圓ノ商品券一通ヲ

(ロ) 同年十二月頃原審相被告人加茂庄太郎ト謀リ將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ノ下ニ仙臺市元鍛冶町待合琴富貴ニ於テ金百圓ヲ

夫々交付シ

第三 被告人松之助ハ

(一) 前掲第一ノ(一)ノ記載ノ如キ職務ヲ有スル被告人今庭雄太郎ニ對シ

(イ) 本吉郡十三濱村戸倉村間ノ道路改修工事ニ付利便ヲ與ヘラレタル謝禮ノ趣旨ニテ前示同人居宅ニ於テ昭和三年十二月頃金五十圓ノ商品券一通ヲ

(ロ) 昭和四年十二月頃將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ノ下ニ右同居居宅ニ於テ金五十圓ノ商品券一通ヲ

(二) 前掲第二ノ(三)記載ノ如キ職務ヲ有スル被告人丸山齡治ニ對シ將來起工ノ縣土木工事ヲ請負フニ付便宜ヲ得度キ趣旨ニテ昭和三年十二月頃仙臺市同心町ナル當時ノ同居居宅ニ於テ金百圓ノ商品券一通ヲ昭和四年三月頃前示待合琴富貴ニ於テ金二百圓ヲ同年十二月頃右同居居宅ニ於テ金百圓ノ商品券一通ヲ夫々交付シ

(中略)

第四、第五事實省略

第六 被告人金作ハ前掲第二ノ(二)記載ノ如ク昭和三年十月頃被告人雄太郎ヨリ同人カ豫テ情交關係ヲ結ヘル岩出山町料理店柳月ノ抱酌婦小笠原はなニ手切金ヲ交付シテ同人トノ關係ヲ絶ツ爲之カ交渉方依頼ヲ受クルヤ被告人寅吉ト相謀リ將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得ヘキコトヲ豫期シ該依頼ニ應シテ其ノ頃右柳月ニ赴キ雄太郎ノ爲同人ノはなニ對シテ支拂フヘキ手切金四百圓ヲ右兩名ノ計算ニ於テ右はなニ支拂ヒ

以テ何レモ贈賄シ

乙第一 被告人今庭雄太郎ハ宮城縣技手ニシテ大河原土木工區主任トシテ同工區管内ニ於ケル縣土木

工事ノ監督検査等ノ事務ヲ管掌シ昭和三年頃ヨリハ同縣内務部土木課勤務ノ道路技師トシテ前掲甲第一ノ(一)記載ノ如キ事務ヲ分掌中

(一) 被告人千代治カ右甲第一ノ(一)記載ノ如キ趣旨ニテ提供スルノ情ヲ了知シナカラ同人ヨリ其ノ記載ノ如ク二回ニ計金三百圓被告人寅吉カ甲第二ノ(一)ノ(イ)(ロ)記載ノ如キ各趣旨ニテ提供スルノ情ヲ了知シナカラ同人ヨリ其ノ記載ノ如ク五回ニ計金四百五十圓ト二回ニ計金二百圓ト夫々受取リ被告人寅吉 金作カ甲第二ノ(二)及甲第六記載ノ如ク將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得ヘキコトヲ豫期シテ其ノ記載ノ如キ雄太郎ノ依頼ニ應シタルノ情ヲ了知シナカラ昭和三年十月頃岩出山町料理店柳月ニ於テ右兩名ヲシテ雄太郎ノはなニ對シテ支拂フヘキ手切金ヲ右兩名ノ計算ニ於テ右はなニ支拂ハシメ以テ該手切金四百圓相當ノ利益ヲ收受シ被告人松之助カ甲第三ノ(一)ノ(イ)(ロ)記載ノ如キ各趣旨ニテ提供スルノ情ヲ了知シナカラ其ノ記載ノ如ク同人ヨリ二回ニ金五十圓ノ商品券二通ヲ受取リ

(二) 土木建築請負業者タル原審相被告人秋山源之進カ被告人雄太郎ノ所管縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ノ下ニ提供スルノ情ヲ了知シナカラ同人ヨリ昭和三年六月頃前示被告人居宅ニ於テ金五十圓ヲ同年十一月頃伊具郡角田町ナル右源之進居宅ニ於テ金百圓ヲ昭和四年二月頃右被告人雄太郎居宅ニ於テ金百圓ヲ夫々受取リ

(三) 土木建築請負業者タル原審相被告人加茂庄太郎ヨリ

(イ) 昭和二年八月頃ヨリ同年十二月頃迄ノ間柴田郡大河原町ニ於テ二回ニ計金百圓ヲ

(ロ) 昭和三年八月頃ヨリ昭和五年三月頃迄ノ間前示被告人雄太郎居宅ニ於テ四回ニ互リ計金二百圓ヲ何レモ庄太郎カ縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ノ下ニ提供スルノ情ヲ了知シナカラ夫々之ヲ受取リ

(四) 土木請負業者タル原審相被告人峯村熊治ヨリ同人カ縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ノ下ニ提供シタルヲ自己ノ職務ニ關シ爲サレタルモノナリトノ事情ヲ了知シナカラ昭和三年六月頃前示被告人雄太郎居宅ニ於テ金三十圓ヲ受取リ

(五) 土木建築請負業者タル名取郡玉浦村櫻井久作ヨリ同人カ大河原土木工區管内ノ縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ニテ提供シタルヲ自己ノ職務ニ關シ爲サレタルモノナリトノ事情ヲ了知シナカラ大正十五年十月下旬頃前示待合要ニ於テ金百五十圓ヲ受取リ

(六) 土木建築請負業者タル宮城郡六郷村亡丹野雄三郎ヨリ同人カ將來縣ノ土木工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ニテ提供スルノ情ヲ了知シナカラ昭和三年五月頃前示被告人雄太郎居宅ニ於テ金五十圓ヲ

(七) 右雄三郎ノ子ニシテ土木建築請負業者タル亡丹野雄吉ヨリ

(イ) 昭和四年五月頃同人カ將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ニテ提供スルノ情ヲ知リナカラ右被告人雄太郎居宅ニ於テ金五十圓ヲ

(ロ) 昭和五年四月頃雄吉カ其ノ請負ヒタル宮城郡七郷村道路改修縣營工事ノ竣功検査ニ付便宜ヲ與ヘラレタル謝禮ノ趣旨ニテ提供セルノ情ヲ了知シナカラ仙臺驛ニ於テ金百圓ヲ夫々受取リ

第二 被告人丸山齡治ハ宮城縣內務部土木課勤務ノ土木技師ニシテ前掲甲第二ノ(三)記載ノ如キ職務ヲ分掌中

(一) 被告人寅吉カ右甲第二ノ(三)ノ(イ)記載ノ如キ趣旨ニテ提供スルノ情ヲ了知シナカラ其ノ記載ノ如ク金三十圓ノ商品券一通ヲ被告人寅吉及原審相被告人加茂庄太郎ノ兩名カ甲第二ノ(三)ノ(ロ)記載ノ如キ趣旨ニテ提供スルノ情ヲ了知シナカラ同人等ヨリ其ノ記載ノ如ク金百圓ヲ被告人松之助カ甲第三ノ(二)記載ノ如キ趣旨ノ下ニ提供スルノ情ヲ了知シナカラ同人ヨリ其ノ記載ノ如ク金二百圓及金百圓ノ商品券二通ヲ夫々受取リ

(二) 土木建築請負業者タル原審相被告人秋山源之進ヨリ同人カ縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ニテ提供スルノ情ヲ了知シナカラ昭和二年十月頃仙臺市同心町ナル當時ノ被告人齡治居宅ニ於テ金二百圓ヲ昭和四年十月頃伊具郡角田町ナル源之進居宅ニ於テ金二百圓ヲ夫々受取リ

(三) 土木建築請負業タル原審相被告人加茂庄太郎ヨリ

(イ) 同人カ柴田郡船岡村及伊具郡角田町間ノ道路改修工事請負ニ付利便ヲ與ヘラレタル謝禮ノ趣旨ニテ提供スルノ情ヲ察知シナカラ昭和四年一月頃前示被告人齡治ノ居宅ニ於テ金百圓ヲ

(ロ) 右庄太郎カ縣土木工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ニテ提供シタルヲ自己ノ職務ニ關シテ爲シタルモノナリトノ事情ヲ察知シナカラ昭和四年八月頃右被告人齡治ノ居宅ニ於テ金五十圓ヲ夫々受取リ

第三事實以下省略

以テ孰レモ其ノ職務ニ關シテ收賄シタルモノニシテ被告人等ノ行爲ハ夫々繼續犯意ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人雄太郎 齡治ノ判示收賄ノ所爲ハ夫々刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期刑範圍内ニ於テ被告人雄太郎ヲ懲役八月ニ被告人齡治ヲ懲役五月ニ處スヘク被告人雄太郎 齡治ノ收受シタル金員商品券及利益ハ孰レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ同法第九十七條第二項後段ヲ適用シテ被告人兩名ヨリ其ノ價額ヲ追徵スヘキモノトス

○主 文

連續罪ノ公訴時效 土ノ技師ノ收賄 道路技師ノ收賄

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

七〇六 (三〇)

○理 由

被告人今庭雄太郎辯護人草刈勝衛平松市藏 大山菊治 万城登上告趣意書第一點原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リ公訴權ナキ事實ニ對シ罪ヲ認定シタル違法アリ原判決判示事實乙第一ノ(五)ニ依レハ被告人ハ「土木建築請負業者タル名取郡玉浦村櫻井久作ヨリ同人カ大河原土木工區管内ノ縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ニテ提供シタルヲ自己ノ職務ニ關シ爲サレタルモノナリトノ事情ヲ了知シナカラ大正十五年十月下旬頃前示待合要ニ於テ金百五十圓ヲ受取リ」收賄シタル旨ヲ認定シ之カ證據トシテ被告人ノ第二審公判及豫審第三回調書ノ各供述ト昭和五年(乙)第二四號事件被告人櫻井久作ニ對スル第二回豫審調書謄本ニ於ケル記載供述トヲ援用説明シ而シテ法律適用ノ部ニ於テ右被告人ノ收賄行爲ハ刑法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルモノト爲シテ被告人ヲ懲役八月ニ處シ又右收受利益ハ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ刑法第九十七條第二項後段ヲ適用シ被告人ヨリ其ノ價格ヲ追徴スヘキモノトシ主文ニ於テ金二千三百八十圓ヲ追徴スル裁判ヲ爲シタリ然レトモ右判示適用法條ニ依レハ當該被告人ノ收賄罪ハ三年以下ノ懲役ニ處セラルヘキモノトシテ右ハ刑事訴訟法第二百八十一條第五號ニヨリ三年ノ期間經過ニヨリテ公訴ノ時効完成スルモノトス而シテ本犯行ハ大正十五年十月下旬ナルコト判示ノ如クナル以上此ノ時ヨリ三年ノ期間ヲ經過シタル昭和四年十月下旬ニ於テ公訴

ノ時効ハ完成シタルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第三百六十三條ノ四ニヨリ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス現ニ此ノ事實ニ關スル櫻井久作ニ對スル贈賄被告事件ニ付昭和六年三月三十一日付仙臺地方裁判所豫審判事島津兼三郎ノ豫審終結決定書ニ依レハ已ニ右ハ時効完成セルモノトシテ免訴決定ヲ爲サレタル事實アルモノナルヲ以テ本件ハ右關係ヨリスルモ單獨ノ事件トシテ時効ノ進行ヲ爲スヘク他ノ事實ト連續關係アリト爲スヘカラサルモノ也又假リニ他ノ事實ト連續關係アルモノトスルモ尙右ハ他ノ事實ト何等ノ關係ナキ別個ノ行爲ナルヲ以テ時効完成ヲ妨クヘキモノニ非ラス故ニ原判決力之ニ對シテ罪ヲ認定シ及刑ノ適用ヲ爲シ及ヒ其ノ金額ヲ追徴シタルハ違法ニシテ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノ也ト云フニ在レトモ

原判決カ證據ニ憑リ認定シタル事實ニ依レハ被告人ノ所論行爲ハ判示乙第一(一)乃至(四)(六)

【要旨第一】

(七)ノ各行爲ト共ニ連續犯タル一箇ノ收賄罪ヲ構成スルモノナリ抑モ連續罪ノ公訴時効ハ其ノ罪ヲ構成スル各行爲中最後ノ行爲ノ終リタル時ヨリ進行スルモノトス而シテ被告人ノ行爲ノ最終ニ行ハレタルハ判示乙第一(七)ノロニシテ昭和五年四月頃ナルヲ以テ被告人ノ收賄罪ノ公訴時効ハ其ノ時ヨリ進行シ同年五月二十三日日本件公訴ノ提起ニ至ル迄三年ヲ經過セス然レハ所論判示事實ニ付公訴時効完成シタリト爲スヘキニ非ス尙右判示ニ於ケル贈賄者櫻井久作ニ對シ所論ノ如キ豫審終結決定ヲ見タリトスルモ前掲時効期間ノ起算點ニ異動アルヘキ謂ナシ然レハ原審カ所論事實ニ付審判シタルハ當然

ニシテ原判決ハ毫モ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ其ノ理由ナシ

第二點原判決ハ證據調ノ法則ニ違背シタル證據ヲ以テ事實ノ認定ヲ爲シタル違法アリ原判決ハ判示乙第一(五)ノ被告人今庭雄太郎カ櫻井久作ヨリ金百五十圓也受取リタル認定事實ニ付證據説明ニ於テ昭和五年(よ)第二四號事件ノ被告人櫻井久作ニ對スル第二回豫審調書謄本ニ於ケル同人ノ供述記載等ヲ以テ認メタル旨説明シタリ然レトモ原審第四回公判調書ノ證據調ノ記載ニ依レハ右昭和五年(よ)第二四號事件ノ被告人櫻井久作ニ對スル第二回豫審調書謄本ヲ證據書類トシテ示サレタルコトノ記載ナク又裁判長ヨリ朗讀セラレ若クハ要旨ヲ告ケ若クハ裁判所書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメタル事蹟更ニ之ナシ只同第三回公判調書ノ記載ニ裁判長ノ問トシテ「同櫻井ハ斯様ニ申シ居ルカ如何此ノ時同人ニ對スル豫審訊問調書(第二回)謄本第八 九問答ノ要旨ヲ告ケタリ」トアルニ過キス然レトモ該調書謄本ナルモノハ果シテ判示昭和五年(よ)第二四號事件ノ被告人櫻井久作ニ對スル第二回豫審調書謄本ナルヤ右記載ノミニヨリテハ不明ナリ故ニ右ノ如キ記載ニヨリテハ原判決援用ノ前記調書謄本ノ要旨ヲ告ケタルコトトナラサルノミナラス假リニ同一調書謄本ナリトスルモ右ハ公判ニ於テ事實ノ真相ヲ究ムル爲メ訊問ノ方法トシテ其ノ要旨ヲ告ケラレタルニ過キスシテ證據書類トシテ判示援用ノ内容ヲ告ケ其ノ意見ノ有無ヲ問ハレタルモノニアラス故ニ原判決ハ此ノ點ニ關シ結局證據調ニ關スル刑事訴訟法第三百四十條及第三百四十七條ニ違背スル證據ヲ以テ事實ノ認定ヲ爲シタル違法アルモノ也ト云

フニ在レトモ

一件記録中昭和五年(よ)第二四號事件被告人櫻井久作及其ノ他ニ對スル各豫審訊問調書謄本編綴シアリ而カモ之ヲ措テ他ニ櫻井久作ノ豫審訊問調書謄本ノ存在スル事跡アルヲ見ス而シテ原審第四回公判調書ニ被告人櫻井久作等ニ對スル各豫審訊問調書謄本ニ付證據ノ取調アリタル旨記載アルヲ以テ右編綴セラレタル櫻井久作ニ對スル豫審訊問調書謄本ハ證據調ノ手續ヲ經タルモノナルコト一點ノ疑ナク原判決ノ援用シタル所論ノ證據ハ即此ノ謄本ナルカ故ニ原判決ハ所論ノ如キ違法アルモノニ非ス論旨ハ其ノ理由ナシ

第三點原判決ハ公訴ノ範圍ニ屬セサル事實ニ對シ審理裁判ヲ爲シ被告人ノ罪ヲ斷シタル違法アリ判示乙第一ノ(三)ニ依レハ被告人ハ加茂庄太郎ヨリ(イ)昭和二年八月ヨリ同年十二月頃迄ノ間柴田郡大河原町ニ於テ二回ニ金百圓(ロ)同三年八月頃ヨリ同五年三月頃迄ノ間前示被告人雄太郎居室ニ於テ四回ニ互リ計金二百圓ヲ執レモ庄太郎カ縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キ趣旨ノ下ニ提供スルノ情ヲ知了シナカラ夫々之ヲ受取リ「收賄シタル旨ノ事實ヲ認定シタリ然ルニ之ヲ昭和五年七月十一日付被告人ニ對スル檢事安部輔ノ連續犯通知書ニ依レハ其ノ第四ニ於テ被告人ハ「加茂庄太郎ヨリ昭和三年一月、十二月、同四年十月ノ三回ニ互リ將來請負工事ニ付其ノ所管事務ノ執行ニ關シ便宜ヲ與ヘラレ度キ旨請託ヲ受ケ報酬トシテ合計金百五十圓」ヲ收賄シタル旨ノ記載アリ則チ原判決カ何等ノ理由ヲ

付スルコトヲ爲サスシテ恣ニ右公訴事實ヲ超越シ其ノ時ニ於テ昭和二年ヨリ同五年ニ渉ルモノトシタルノミナラス又其ノ回數ヲ合計六回金額ヲ合計三百圓トスル事實ヲ認定シタルハ違法也ト云フニ在レトモ

所論判示事實ハ豫審終結決定ニ依リ公判ニ付セラレタル事實ノ一部ニシテ豫審判事ハ檢事ノ豫審請求書所掲ノ事實ト連續罪タル關係ニ在ルモノト認メ終結決定ヲ爲シタルモノナレハ所論連續犯通知書記載事實ニ比シ所論ノ如ク超越スルトコロアリトスルモ原審ニ於テ所論事實ニ付審判ヲ爲シタルハ當然ナリ從テ論旨ハ其ノ理由ナシ

被告人丸山齡治辯護人伊藤三秋上告趣意書第一點原判決ハ罪トナラサル事實ニ刑ヲ科シタル不法アリト信ス蓋シ被告人ハ宮城縣技師ニシテ公務員ナルコトハ爭ナキトコロナルモ原審認定ノ如キ職務ヲ有スルヤ否ヤハ單純明白ナル問題ニ非ス而シテ原判決ハ被告人ハ「宮城縣內務部土木課勤務土木技師ニシテ土木工事ノ一般計畫道路改良工事計畫測量設計並用地ノ調査等ノ事務ヲ分掌シ工事請負人ノ詮衡ニ參與スル權限ヲ有ス」ト認定シ(イ)請負人タル原審相被告人石坂寅吉ヨリハ「縣道路工事ノ請負及將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得ル爲(ロ)又請負人佐々木松之助及秋山源之進ヨリハ「將來起工ノ縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得度キタメ」(ハ)請負人加茂庄太郎ヨリハ「船岡角田間ノ道路改修工事請負ニ付利便ヲ得タル謝禮ノ趣旨」ニテ現金又ハ商品切手ノ交付ヲ受ケテ之ヲ收賄シタリト認定シタル

モノニシテ換言スレハ原裁判所ハ被告人ニ請負人詮衡ニ參與スル權限アリト前提シ此ノ職務ニ關シ利益ヲ收受シタリト認定シタルコト極メテ明白ナリ果シテ然ラハ被告人カ請負人詮衡ニ參與スル權限アリヤ否ヤヲ検討セサルヘカラス惟フニ道路管理職員制(大正九年勅令第二四五號)第二條ニハ「道路主事及道路書記ハ道路ニ關スル事務ニ從事ス道路技師及道路技師ハ道路ニ關スル技術ニ從事ス」トアリ又地方土木職員制(大正九年勅令第二四六號)第二條ニハ土木書記ハ土木ニ關スル事務ニ從事ス土木技師及土木技師ハ土木ニ關スル技術ニ從事ス」ト規定シアリテ被告人カ土木技師トシテ請負人ノ詮衡ニ參與スルノ權限ヲ有スルコトハ何等法令上ノ根據アルコトナク又宮城縣ノ各種ノ規定ニ依ルモ斯カル權限ノ認ムヘキモノナク從テ被告人又ハ其ノ上司ニ於テ假リニ請負人ノ詮衡ニ參與シ又ハ參與セシメタル若干ノ事實アリトスルモ右ハ便宜ニ出テタル事實上ノ關係ニ過キスト認ム可ク之ヲ以テ被告人ニ法令上此ノ如キ權限アリト認ムル能ハサルヤ多言ヲ俟タサル可シ然ラハ則チ原審カ前叙ノ行爲ヲ目シテ收賄罪ナリト斷定シタルハ則チ罪トナラサル所爲ニ對シ刑ヲ科シタル違法アリト爲ス可ク當然破毀セラレヘキモノト信スト云フニ在リ

【要旨第二】

按スルニ道路其ノ他ノ土木工事ノ請負人ヲ詮衡スルニ當リテハ信用資産技能經驗等ヲ調査シ適當ナル者ヲ選定スルヲ要シ之ヲ妄リニスルトキハ事業ノ目的ヲ達成スルニ難シ而シテ信用資産ノ調査ハ他人アルヘシト雖技能ニ關スル鑑識ハ調査スル者ノ技術ニ待ツノ要アリ然ラハ請負人ノ技能ニ關シ調査

鑑識スルコトモ亦技術ニ關スル事務ノ範圍ニ屬スルモノト謂フヘク縣ノ土木工事ニ關シテモ亦右ト異ナルトコロアルヘキニ非ス所論地方土木職員制第二條ニハ土木技師及土木技手ハ土木ニ關スル技術ニ從事スト規定シアリ被告人ハ宮城縣內務部土木課勤務ノ土木技師ナレハ右法令ニ依リ其ノ職務トシテ土木工事請負人ノ詮衡ニ參與スルコトアルヘキハ明瞭ナリ然レハ原判決ニ所論ノ如キ違法ナク論旨ハ其ノ理由ナシ

被告人今庭雄太郎辯護人鈴木喜三郎上告趣意書第一點凡ソ一定官吏カ如何ナル職務ヲ有スルヤ否ヤノ問題ハ法令又ハ内規等ニヨリテ定マルヘキモノニシテ當該官吏ノ認否ニヨリテ判定セラルヘキ事項ニ非サルナリ即チ例ヘハ司法官ニアラサル官吏カ自分ニ於テ國家ノ裁判權ヲ行フ職務ヲ有スト陳述シタリトテ決シテ之ヲ標準トシテ其ノ職務ヲ判定スヘキモノニアラサルカ如シ本件ニ於テ被告人今庭雄太郎カ道路技師トシテ指名入札者ノ詮衡ニ參與スルノ職務ヲ有シタリシヤ否ヤハ本件犯罪成立ニ關スル重要ナル事實ナリ此點ニ付被告人ハ公判廷ニ於テ極力之ヲ否認シタルコトハ原判決援用ニ係ル證據自體ニヨリテ明白ナル所ナリ然ルニ原裁判所ハ被告人ノ職務ヲ判定スルニ當リ曰ク「一、同被告人カ當公廷ニ於テ自分ハ道路技師トシテ指名入札者ノ詮衡ニ參與スルノ權限ヲ有セサリシ旨辯疏スル外判示同旨ノ供述ヲ爲セルト一、同被告人ニ對スル第二回豫審調書ニ同人ノ供述トシテ私ノ所管工事ニ付テハ指名入札者ノ指定ニ付意見ヲ述ヘ得ルノミナラス隨意契約ニテ工事ヲ請負ハセル場合ニハ隨意請

負契約者ヲ推薦シ得ルナリ尙指名入札者ノ指定ニ付意見ヲ述ヘタリ隨意請負契約者ヲ推薦スルノハ慣例ニ因ルモノナリシカ私ノ意見カ採用セララル場合モアリ或ハ採用セラレサル場合モアルナリ工費二千圓迄ノ工事ニ付テハ內務部長夫レ以上ノ工事ハ知事ニ於テ其ノ施行方法ヲ決定スル事ニナリ居レルモ事實上ハ土木課長ノ意見カ採用セラレ私モ施行方法ニ付意見ヲ述ヘ得ルナリ然シ私ノ意見カ採用セラレサリシ事モアリシカ大體採用セラレタル旨ノ記載アルトニ依リテ之ヲ認メ云々」ト說示シ被告人今庭雄太郎ニ對スル職務ヲ同人ノ豫審ニ於ケル誤マレル陳述ヲ唯一無二ノ證據トシテ判定シ法令內規等ヲ毫モ顧ミサリシハ甚タ違法ニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨第三】

原判決ノ認定ニ依レハ被告人ハ宮城縣內務部土木課勤務ノ道路技師ナリ而シテ道路管理職員制(大正九年勅令第二四五號)第二條ニハ道路技師ハ道路ニ關スル技術ニ從事ストノ規定アレハ被告人丸山齡治辯護人伊藤三秋上告論旨第一點ニ對スル前掲說明ノ趣旨ニ依リ被告人ハ法令上所論ノ如キ職務權限ヲ有スルモノナルコト明確ナリ然而シテ原判決ハ前記職員制ヲ舉示セスト雖斯ル法令ハ特ニ判決ニ舉示スルノ要ナク又原判決カ所論證據ヲ舉示シタレハトテ之カ爲何等違法ヲ齎スコトナク記錄ニ徵スルニ原判決ハ所論ノ如キ事實誤認ノ疑アルモノニ非ス論旨ハ其ノ理由ナシ

第三點原判決ハ法則ヲ誤解シタル違法アリ即チ被告人雄太郎ノ行爲ノ一ニツキ右第二點ニ掲ケタルカ

如キ理由ヲ附セラレタリト雖斯ル事柄詳言スレハ私通關係ヲ絶止スルコトヲ内容目的トシテ一定金額ヲ支拂フコトヲ約スル所謂手切金契約ハ法律上果シテ有效ナリヤ否ヤ若シ夫レ法律上有效ナリトセハ或ハ原裁判所認定ノ如キ判定ヲ爲シ得サルニアラサルヘシサレト若シ法律上無効ナリトセハ被告人今庭雄太郎カ小笠原はなナル者ニ對シ支拂フヘキ金額ナルモノアルコトナキヲ以テ原判決ハ此ノ點ニ於テ違法アリト言ハサルヘカラス爰ニ於テカ所謂手切金ハ法律上有效ナリヤ否ヤヲ檢討セサルヘカラス此ノ問題ニ付大審院民事部判例(大正十三年三月五日法律新聞大正十二年(オ)第六〇〇號大正十二年十二月十二日第三民事部言渡判例)ハ之ヲ無効トナセリ果シテ然ラハ手切金ハ法律上當然有效ナルモノノ如クナシ被告人今庭ニカ支拂責任アルコトヲ前提トシテ爲サレタル原判決ハ此ノ點ニ於テ違法アリテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

手切金ハ必スシモ私通關係ヲ絶止スルコトノ對價ナリト解セサルヘカラスルモノニ非ス所論判示事實ニ付判示甲第二(二)及甲第六ノ事實及原判決ノ證據説明ヲ對照シ其ノ趣旨ヲ檢討スルニ豫テ被告人ト私通關係アリシ小笠原はなハ懷妊シタルヨリ被告人ニ對シ金錢或ハ其ノ他ノ要求ニ出テントスル狀況ニ在リタルヲ以テ被告人ハ同女ト示談シ圓滿ナル解決ヲ得ンコトヲ欲シ石坂寅吉 菅野金作ニ對シ示談ニ付所要ノ出金ヲ爲シはなト解決交渉方ヲ依頼シタルモノニシテ判示手切金トハ即チ示談ノ爲はなニ交付スル金員ナルコトヲ意味ス而シテ右寅吉及金作ハ判示ノ如キ將來縣工事ノ請負ニ付利便ヲ得

ヘキ豫期ヲ以テ被告人ノ依頼ニ應シ被告人亦其ノ意ヲ諒シ寅吉金作ヲシテ同人等所有ノ金員ヲ以テ手切金四百圓ヲはなニ交付セシメ所期ノ目的ヲ遂ケタルモノトス然レハ被告人ハ自ら出金スルニ代ヘ前示兩名ヲシテ出金セシメ該金員ニ相當スル利益ヲ得タルモノナレハ前掲示談契約ノ有效ナルト否ニ拘ラス被告人ノ行爲カ收賄罪ヲ構成スルコト論ヲ俟タス論旨ハ畢竟手切金ヲ私通絶止ノ對價ナリト前提シ原判示ニ副ハサル攻撃ニシテ固ヨリ其ノ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事岩松玄十關與

○警察犯處罰令違反被告事件 (昭和八年(レ)第四一號 棄却)

(昭和八年(レ)第四一號 棄却)

【上告人】 被告人 前田ヒサエ 辯護人 玉井安美 外一名

【第一審】 大洲區裁判所 【第二審】 松山地方裁判所

密買淫媒合容止被告事件ニ付容止ノ事實ノミヲ認定シタル場合ト媒合ニ付テノ判斷違警罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後司法警察官作成ノ聽取書ノ證據力

○判示事項

密賣淫媒合容止被告事件ニ付容止ノ事實ノミヲ認定シタル場合ト
媒合ニ付テノ判斷——違警罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後司法
警察官作成ノ聴取書ノ證據力

○判決要旨

一密賣淫ノ媒合容止ヲ爲シタリトノ公訴事實ニ付審理ノ結果密賣
淫容止ノ事實ヲ認定シタル場合ニ於テハ媒合ノ點ニ付必スシモ
特ニ判斷ヲ示スコトヲ要セサルモノトス【要旨第一】

二司法警察官ノ聴取書ハ違警罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後
ニ作成セラレタルモノト雖證據力ヲ有スルモノトス【要旨第二】

【參照】警察犯處罰令第一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス
二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合者ハ容止ヲ爲シタル者
刑事訴訟法第三百六十條 有罪ノ言渡ヲ爲スニハ罪ト爲ルヘキ事實及證據ニ依リ之
ヲ認メタル理由ヲ説明シ法令ノ適用ヲ示スヘシ
法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原由又ハ刑ノ加重減免ノ原由タル事實上ノ主張ア
リタルトキハ之ニ對スル判斷ヲ示スヘシ

同法第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

二十 判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ

同法第二百四十八條 左ニ掲クル者ハ檢事ノ輔佐トシテ其ノ指揮ヲ受ケ司法警察官

トシテ犯罪ヲ捜査スヘシ

一 廳府縣ノ警察官

二 憲兵ノ將校、准士官及下士

○事 事

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ拘留五日ニ處ス訴訟費用ハ全部被告
人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書居部大洲村大字中村ニ於テ夫前田久太郎ノ經營スル料亭梅鉢ノ營業一切ヲ擔任シ居ルモ
ノナルトコロ昭和七年六月七日夜右料亭離室ニ於テ藝妓君奴コト砂田クマヨカ遊興客木下鶴男ニ密賣
淫ヲ爲シタル際其ノ情ヲ知リテ房室ヲ提供シ以テ密賣淫ノ容止ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ警察犯處罰令第一條第二號ニ該當スルヲ以テ其ノ刑期ノ範圍内ニ於テ被
告人ヲ拘留五日ニ處スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ之ヲ
負擔セシムヘキモノトス

本件公訴事實ノ要旨ハ被告人ハ昭和七年六月七日午後十一時自宅ニ於テ遊興客ナル木下鶴男ノ求メニ
應シ藝妓君奴事砂田クマヨニ對シ線香代十四本ニテ木下ト密賣淫ヲ爲スヘク媒合容止ヲ爲シタルモノ

密賣淫媒合容止被告事件ニ付容止ノ事實ノミヲ認定シタル場合ト媒合ニ付テノ判
斷違警罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後司法警察官作成ノ聴取書ノ證據力

ナリト謂フニ在リ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人玉井安美上告趣意書第一點第二審公判ハ檢事ノ爲ス被告事件ノ陳述ヲ聽カスシテ審判ヲ爲シタル違法アリ(一)昭和八年一月十六日松山地方裁判所法廷ニ於テ第一回ノ公判開廷アリ同年二月十日第二回ノ公判ヲ開廷シ其ノ間十五日以上ヲ經過シタル爲審理ヲ更新セラレタリ然ルニ第二回公判ニ於テハ檢事カ被告事件ノ要旨ヲ陳述セス即チ此事ニ關シ證據ヲ閱スルニ第二回公判調書ノ中「裁判長ハ前回ノ公判開廷後十五日以上ヲ經過セルニヨリ審理ヲ更新スル旨ヲ告ケ被告人ニ對スル氏名年齢職業住居本籍出生地ノ訊問被告人ノ之ニ對スル陳述檢事ノ公訴事實ノ陳述ハ總テ前回公判調書ノ記載ト同一ニシテ裁判長ノ被告人ニ對スル公訴事實ノ訊問被告人ノ之ニ對スル陳述裁判長ノ證據調並其ノ結果ニ付被告人ノ意見辯解ノ陳述ハ總テ前回公判調書記載ト同一ナリ」第一回公判調書中ニ(二)「檢事ハ原審判決書記載同旨ノ被告事件ノ要領ヲ陳述シタリ」第二回ノ公判調書中ニ(三)「裁判長ハ事實並證據ノ取調ヘテ終リタル旨ヲ告ケ合議ノ上公開禁止ヲ解ク旨宣シタリ」トアリテ關與檢事ハ本件ノ内容ニ付テハ何等陳述スル處ナク只前記(二)ノ通り陳述シ居ルモノナルヲ以テ公訴事實ノ陳述トシテハ

何等犯罪行爲ヲ摘示スルコトナキニ拘ラス(三)ノ如ク審理ヲ進行シテ終了セラレタリ之明ニ刑事訴訟法第三百四十五條第一項後段檢事ハ被告事件ノ要旨ヲ陳述スヘシトノ法規ニ違反シ裁判所モ亦同條第二項ノ前項ノ陳述ヲ終リタルトキハ被告人訊問及證據調ヲ爲スヘシトノ法條ニ背キ即チ刑事訴訟法第四百十條十二ニ該當シ正當ノ上告タルヘキモノトスト云フニ在リ

仍テ記錄ヲ調査スルニ原審第二回公判調書ニ依レハ檢事ノ公訴事實ノ陳述ハ前回公判調書ノ記載ト同一ナル旨記載シアリ同第一回公判調書ニハ檢事ハ原審(第一審ヲ指ス)判決書記載同旨ノ被告事件ノ要領ヲ陳述シタル旨記載シアルコト洵ニ所論ノ如シ然レトモ記錄ニ依レハ右第一審判決書ニハ本件犯罪行爲タル具體的事實ヲ判示シアルヲ以テ結局原審第二回公判ニ於テ檢事ハ右第一審判決書記載ノ犯罪事實ノ要領ヲ陳述シタルモノト謂フヘク原審ハ其ノ陳述ヲ聽キタル上審判ヲ爲シタルコト頗ル明白ナリ然ラハ原判決ニハ毫モ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ

第二點本件ノ公訴事實ハ密賣淫ヲ爲スヘク媒合容止シタリト云フニ在リ罪トナルヘキモノニ非サルニ拘ラス(イ)此不法ナル公訴ヲ受理シ(ロ)且密賣淫ヲ媒合若ハ容止シタリトノ公訴提起ナキニ不拘公訴事實ノ範圍ヲ超越シテ密賣淫ヲ認メ尙之カ媒合容止ヲ審理シ容止ト判決シタル不法アリ(一)昭和七年六月八日大洲警察署ニ於テ内務省令警察犯處罰令違反ノ罪名ニヨリ拘留五日ニ處セラレ同月十日正式裁判ノ申立ヲ爲シ同月二十二日大洲區裁判所ニ於テ檢事榊原芳夫關與公判開廷ノ上審理ヲ受ケ

密賣淫媒合容止被告事件ニ付容止ノ事實ノミヲ認定シタル場合ト媒合ニ付テノ判
斷 違警罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後司法警察官作成ノ聽取書ノ證據力

タルカ其ノ即決言渡ニナリタル罪名竝公訴事實ヲ證據(一)即決言渡概要ト題シ罪名内務省令警察犯處罰令違反犯罪要旨被告ハ昭和七年六月七日午後十一時自宅ニ於テ遊興客ナル喜多郡大洲村大字中村木下鶴男ノ求メニ應シ藝妓君奴事砂田クマヨニ對シ線香代十四本ニテ木下ト密賣淫ヲ爲スヘク媒合容止ヲ爲シタルモノナリ」第一審公判廷ニ於ケル檢事ノ公訴事件ノ要旨陳述ハ第一審公判調書中二、三、被告ハ喜多郡大洲村大字中村ノ支店梅鉢ニ於テ料理屋營業ヲ爲スモノナル處昭和七年六月七日午後十一時支店ニ於テ同郡大洲村大字常盤町木下鶴男ノ求メニ應シ同郡大洲村大字大洲藝妓君奴事砂田クマヨニ對シ線香代十四本ニテ右鶴男ト密賣淫ヲ爲スヘク媒合容止ヲ爲シタルモノナリト公訴事實ヲ陳述シタリ」トアリテ以上ニヨリテ公訴事實ヲ密賣淫ヲ爲スヘク媒合容止ヲ爲シタル犯罪ナリト認メ起訴シタルモノニシテ目的ニヨル犯罪トナシ取扱ヒタルコト明ナリ然レトモ内務省令警察犯處罰令第一條第一項左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス「二」密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者ト規定アリテ密賣淫ノ媒合容止ヲ爲シタル者ヲ處罰シタルコト明ニシテ隨テ密賣淫ヲ爲スヘク未タ右行爲ナキモノヲ媒合容止シタル者ハ罪トナラサルコト論ヲ俟タス此ノ容易ナル解釋ヲ誤リ犯罪ナラサルモノヲ以テ犯罪ト稱シ公訴ヲ起シ公判ニ於テ之ヲ受理スルコトハ共ニ違法タルヲ免レス或ハ本件ハ密賣淫ヲ遂行シ居ル故公訴事實ヲ超越シテ審理判決シタルハ當然ナリト曰ハンモ之媒合若ハ容止ノ行爲ヲ密賣淫ノ共犯(就中幫助犯)ナル時正犯ノ成立ヲ以テ處罰條件トナシタル時ノコ

トニ屬シ警察犯處罰令第一條ノ二ノ犯罪ノ如ク密賣淫アルヲ構成要素トナシタルモノト同一視スルヲ得サルモノトス故ニ本件公訴事實ハ不法ニシテ之ヲ受理セラレタルハ刑事訴訟法第四百十條第一項六ノ前段ニ該當シ上告ノ理由アリト思料スト云フニ在リ

仍テ記錄ヲ查閱スルニ即決言渡概要ト題スル書面ニハ所論ノ如キ事實ノ記載アリ又第一審公判調書ニハ檢事カ所論ノ如キ事實ノ陳述ヲ爲シタル旨記載シアルコト明白ナルモ右各事實ノ趣旨トスルところハ彼此同一ニシテ結局本件公訴ニ係ル事實ノ要旨ハ被告人ハ昭和七年六月七日午後十一時頃喜多郡大洲村大字中村所在ノ料理店梅鉢ニ於テ藝妓君奴事砂田クマヨカ木下鶴男ニ密賣淫ヲ爲シタル際其ノ媒合容止ヲ爲シタルモノナリト云フニ外ナラス從テ所論ノ如ク被告人カ單ニ右クマヨヲシテ密賣淫ヲ爲サシムヘク媒合容止ヲ爲シタルモ未タ密賣淫ナカリシ事實ヲ起訴シタルモノト解スルハ當ラス而シテ右公訴ニ係ル事實ハ内務省令警察犯處罰令第一條第二號所定ノ犯罪ニ該ルコト疑ナキトコロナルヲ以テ第一、二審裁判所カ右公訴ニ係ル事實ニ付進ムテ審判ヲ爲シタルハ正當ニシテ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ

第四點第二審判決ニ密賣淫ヲ爲シタル際房屋ヲ提供シト斷定セラレアルモ密賣淫ト云フハ單ニ名稱ニ過キスシテ具體的ノ事實ニアラス隨テ密賣淫ト認定シタル理由缺如セリ警察署ニ於テ前記(二)ノ(1)即決第一審公判廷ノ檢事陳述ノ公訴事實中ニ「砂田ニ對シ線香代十四本ニテ木下ニ密賣淫ヲ爲

密賣淫媒合容止被告事件ニ付容止ノ事實ノミヲ認定シタル場合ト媒合ニ付テノ判
斷違背罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後司法警察官作成ノ聽取書ノ證據力

スヘク」トアリテ其ノ代償ヲ約シタル情交ノ意味ヲ明ニシテ審理ヲ求メアルニ拘ハラヌ此ノ判斷ニ對シ證據ニ依ル理由ノ説明ナク右判決ノ證據説明ニ(二)藝妓君奴事砂田クマヨカ判示ヲ夜判示料亭梅鉢ノ離レ座敷ニ於テ遊興客木下鶴男ニ密賣淫ヲ爲シタルコトニ關シ前記第二審公判廷ニ於ケル證人武智杉江ノ供述ニ木下カ若イ妓ヲ世話シテ吳レト云フタ際私ハ線香代十四本ナラ宜カラウト云ヒタルニ木下ハ其ノ線香代ヲ出スト申スノテ世話シタル旨ノ供述アルニ不拘同シ證據説明中ニ司法警察官作成砂田クマヨニ對スル第二回聽取書ニ判示ノ夜梅鉢ヲ女將サンカラ御客様カ五時間別ニ線香ヲヤルト云ハレルカラ御客サント御寢ナト云ハレタノテ私ハ黙ツテ承知シタル旨ノ供述記載トアリテ之レニヨリ判斷セラレ居ルモ線香代十四本及五時間別ニ線香トシテ何程價值アリヤ五時間ハ線香代幾何ニ相當スルヤ線香十四本ト云フハ俗稱立チ線香増線香詰線香明線香ノ何レヲ意味スルヤ何レモ説明ナク五時間(第二審公判廷被告人ノ供述ニ一時間二本線香一時間金九拾七錢ナル旨)ト線香十四本代ト數字竝ニ計算上相違アルニ雙方ヲ有償情交ノ表價ニ採用スルハ不當ノコトナルヲ以テ結局密賣淫ト認定シタル證據ト理由トヲ缺クモノナリト云フニ在レトモ

密賣淫トハ對價ヲ約シテ密ニ淫ヲ鬻クノ所爲ヲ意味スルモノナルコト論ヲ俟タサルトコロナルヲ以テ原判決ニ藝妓君奴事砂田クマヨカ木下鶴男ニ密賣淫ヲ爲シタル旨判示セル以上之ヲ以テ具體的事實ヲ示シタルモノト爲スニ妨ケナク又右クマヨカ密賣淫即對價ヲ約シテ密ニ淫ヲ鬻キタル際其ノ情ヲ知り

ナカラ房室ヲ提供シタリトノ判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ認メ得ルヲ以テ原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨ハ理由ナシ

第五點本件公訴事實密賣淫ヲ爲スヘク媒合容止シタリト云フニ在ルニ容止ノミヲ認定シ媒合ノ行爲アリヤ否ヤヲ判決ニ明記セサルハ判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルモノナリ警察ニ於ケル即決第一審ノ檢事ノ公訴事實ノ陳述等ニヨレハ密賣淫ヲ爲スヘク媒合容止シタルコトヲ明ニセリ媒合ノ一事又ハ容止ノ一事アルモ各有罪ニシテ右媒合容止ノ兩行爲アルモ又犯罪ナルコト言ヲ俟タス然ルニ第二審判決ハ容止ノミヲ認メ媒合ノ行爲アリヤ否ヤニ言及セサルハ刑事訴訟法第四百十條ノ第二十「判決ニ示スヘキ判斷ヲ遺脱シタルトキ」ニ該當シ上告ノ理由アルモノト信スト云フニ在レトモ

密賣淫ノ媒合及容止ハ孰レモ正犯タル密賣淫ヲ幫助スルノ行爲ニシテ只其ノ體様ヲ異ニスルニ過キサルモノナレハ媒合容止ヲ爲シタリト云フモ又單ニ容止ヲ爲シタリト云フモ究極スルトコロハ密賣淫幫助ナル一事實ヲ指稱スルニ外ナラスシテ基本タル事實關係ニ於テハ兩者同一ナリト云フヲ妨ケス故ニ原審カ媒合容止ヲ爲シタリトノ本件公訴事實ニ付審理ヲ遂ケタル結果單ニ容止ノ罪ヲ構成スルモノト認定シタルハ結局公訴ニ係ル右事實關係ノ全般ニ付爲シタル判斷ナルヲ以テ媒合ノ點ニ付特ニ判斷ヲ示スコトヲ要セス從テ原判決カ其ノ判斷ヲ示ササリシハ違法ニ非ス原判決ニハ所論ノ如キ違法ナク論旨理由ナシ

【要旨第一】

密賣淫媒合容止被告事件ニ付容止ノ事實ノミヲ認定シタル場合ト媒合ニ付テノ判
斷 違背罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後司法警察官作成ノ聽取書ノ證據力

第六點第二審判決ハ不適法ニ作成セラレタル砂田クマヨノ第二回聽取書ヲ證據ト認メテナサレタルモノニシテ違法也事件ハ昭和七年六月八日大洲警察署ニ於テ同署長ヨリ即決ヲ受ケ同月十日正式裁判ヲ請求シタリ然ルニ右即決ニ至ルマテハ同署長竝ニ其ノ部下官吏ハ一方ニ於テ檢察官ノ補助トナリ犯罪ヲ捜査シ十分ノ證據ヲ蒐集シタルトキ他方ニ於テ審判官トシテ右證據十分ナリトシテ犯罪ヲ認メ有罪ノ即決ヲナサレタリ違警罪即決例ハ警察者ハ即決ニ對シ正式裁判ノ請求ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時間内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ送致スヘシト規定シアリテ此ノ法條ヨリ觀ルモ已ニ捜査終リ其ノ證據ニテ犯罪ト認メ即決シタル後ハ該被告事件ニ關シテ捜査ノ權限終了シ更ニ之レカ證據ノ不十分ナルヲ補充スルカ如キ職權行動ヲナスヲ得サルコト明ナリ若シ第一審裁判所(違警罪裁判所ト同意)ニ證據ヲ送致シテ後尙ホ捜査シ得ルモノトセハ檢察ト審判トノ區別立タス裁判ノ原理ヲ沒却スルニ至ルヘシ大洲警察署ニ於テハ本件即決ニ對スル正式裁判請求ノ申立ヲ昭和七年六月十日被告人ヨリ受理シタル翌十一日ニ於テモ證人ノ取調ヲ續行シ砂田クマヨノ第二回聽取書同日作成セラレタルモノナル事記録ニ徴シ明ナリ之ノ理由ニヨリ第二審カ證據トナシタル前記砂田クマヨ第二回聽取書ハ不適法ニ作成セラレタルモノナルカ故ニ第二審判決ハ此ノ點ニ於テ又破毀セラルヘキモノト信ス加之原審ニ於テ被告人側ヨリ申請シタル證人ハ木下鶴男 武智杉江ニテ職權ニヨリ取調ヘラレタル證人ハ砂田クマヨ後藤宇三雄ノ兩名ナリ併シテ原審判決ニ當リ右砂田クマヨノ原審公判廷ニ於ケル證言ハ之ヲ採用スルコトナク曩ニ警察署ニ於テ違法ニ作成セラレタル前述砂田クマヨノ第二回聽取書ノ記載ヲ採用シ以テ有罪ト認定シタル事實アリ證據ノ證明力ハ判事ノ自由ノ判斷ニ任セラレ且其ノ取捨モトヨリ同斷ナリト雖證據書類カ違法ニ作成セラレタルトキ之ヲ證據トナスコトヲ得サルハ自明ノ理ニシテ之敢テ論ヲ俟タス果シテ然ラハ之即チ刑事訴訟法第四百九條後段ニ該當シ此ノ點ニ於テ原判決ハ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

【要旨第二】

仍テ記錄ヲ調査スルニ本件ハ昭和七年六月八日大洲警察署ノ爲シタル即決處分ニ對シ同月十日被告人ヨリ正式裁判ノ請求アリテ裁判所ニ繫屬シタル事案ナルコト所論ノ如シト雖原判決援用ノ砂田クマヨニ對スル司法警察官ノ第二回聽取書ハ同月九日ニ作成セラレタルモノニシテ所論ノ如ク同月十一日ノ作成ニ係ルモノニ非ルコト同聽取書ニ徴シ明白ナルノミナラス縱シ右聽取書カ正式裁判請求後ニ作成セラレタルモノトスルモノ司法警察官ノ適法ナル捜査權ノ行使ニ外ナラサルヲ以テ右聽取書ハ證據力ヲ有シ之ヲ罪證ニ供シ得ルコト勿論ナリトス然ラハ同聽取書ヲ以テ不適法ニ作成セラレ證據力ナシトノ所論ハ當ラズ尙論旨後段ハ畢竟原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷ニ付原審ト見解ヲ異ニシ延テ事實認定ヲ非難スルニ歸スルモノニシテ採ルニ足ラス論旨ハ孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

密賣淫容止被告事件ニ付容止ノ事實ノミナ認定シタル場合ト組合ニ付テノ判斷 違警罪即決處分ニ對スル正式裁判請求後司法警察官作成ノ聽取書ノ證據力

○爆發物取締罰則違反及同幫助被告事件

(昭和八年(九)第四四九號 一部棄自判)
同年六月五日第一刑事部判決

【上告人】 被告人 高畑 正

外二名 辯護人 (角岡 知良
林 逸 郎)

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

爆發物取締罰則第八條ニ依ル告知義務者ノ範圍

○判決要旨

爆發物取締罰則第一條乃至第五條ノ犯罪者ハ共同正犯タルト教唆
犯タルト從犯タルトヲ問ハス同法第八條ノ告知義務者中ニ含まレ
ス

【參照】 爆發物取締罰則第一條 治安ニ妨ケ又

人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的
ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期
若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

同第八條 第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ

危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
刑法第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人高畑正ヲ懲役五年ニ同大澤米吉ヲ懲役三年
ニ同松林亮ヲ懲役二年ニ處シ訴訟費用ハ全部被告人高畑正ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人大澤米吉ハ皇室中心主義ヲ奉スル愛國社同人被告人松林亮ハ雜誌「日本及日本人」ノ發行ヲ業
トスル政教社ノ同人被告人高畑正ハ常ニ右松林ノ同志トシテ行動ヲ共ニシ來レル者ニシテ孰レモ所謂
大陸積極政策ヲ主張シロンドン條約絶對反對ヲ唱へ民政黨内閣ノ外交政策ヲ軟弱外交ナリトシテ之ニ
對シ反對運動ヲ爲シ來レルカ右ロンドン條約ニヨル軍縮ニ基ク減稅案カ第五十九回帝國議會ニ提出セ
ラルルヤ之ヲ阻止セント企圖シ其ノ開會中ナル昭和六年二月十一日他ノ同志ト共ニ減稅案ヲ阻止スル
ニハ内閣ノ倒壞ヲ期スルニ惹カスト爲シ倒閣維持新聯盟ナルモノ組織シ極力民政黨内閣倒壞ノ氣勢ヲ
舉ケタルモ議會ハ無事終了シ被告人ノ期待ハ其ノ效ヲ奏セサリシヲ以テ益々民政黨内閣ニ對シ不滿ノ

爆發物取締罰則第八條ニ依ル告知義務者ノ範圍

念ヲ高メ居タルトコロ

七二八 (三)

第一 被告人高畑正ハ昭和六年三月下旬東京市芝區櫻田久保町櫻田館内白王社ニ於テ被告人大澤ト會シ時事ヲ談シタル際右ノ如ク民政黨内閣ニ對シ不滿ノ念禁スル能ハサリシトコロヨリ大澤ニ對シ何カドカントスルモノナキヤト問ヒ之ニヨリ内閣ニ對シ一大衝動ヲ與フルト同時ニ社會的ニモ反響ヲ及ホサントノ意圖アルコトヲ洩ラシ同年四月十一日頃同被告人ヨリダイナマイト及雷管各二本竝導火線一本ノ讓與ヲ受ケ同月中旬頃ヨリ同月下旬頃ニ至ル間被告人松林亮ヨリ右ダイナマイトノ使用法ニ付其ノ教示ヲ受ケ機會ヲ待チ居タルカ同年五月一日メーデーノ示威運動ヲ見物シ愈々其ノ決意ヲ固メ之カ爲ニハ閣僚中最モ世人注視ノ的トナレル當時ノ大藏大臣井上準之助ニ對シ脅威ヲ加フルカ最モ效果アリト思惟シ同日東京市芝區南佐久間町政教社ニ於テ被告人松林亮ニ對シ井上大藏大臣私邸ニ右ダイナマイトヲ裝置爆發セシムルノ企圖ヲ洩シ同月二日同區櫻田久保町櫻田館三階白王社ニ於テ右ダイナマイト二本ニ爆發裝置ヲ施シタル上同日午後五時頃右政教社ニ被告人松林亮ヲ訪レ同人ニ對シ右爆發裝置ノ完全ナルコトヲ確メ同日午後十時十分治安ヲ妨クル目的ヲ以テ同市麻布區三河臺町三十一番地大藏大臣井上準之助方正門附屬右側物置ノ土臺下屋内ヨリ外部溝渠ニ通スル溝穴ニ右爆發裝置ヲ施セルダイナマイト二本ヲ裝置シテ之ヲ爆發セシメ同物置土臺ノ一部外壁羽目板幅三尺高サ一尺五寸ヲ破壞シ同物置内ノ硝子戸竝ニ道路ヲ隔テタル久彌宮別邸門脇番屋ノ窓硝子

等ヲ破壞シ以テ治安ヲ妨ケ

第二 被告人大澤米吉ハ前記ノ如ク被告人高畑正カ内閣ニ對シ衝動ヲ與フルト同時ニ社會ニ之カ反響ヲ及ホサン爲閣僚中何人カノ邸宅等ニ爆發物ヲ裝置爆發セシメ以テ治安ヲ妨ケントノ企圖アルコトヲ知リナカラ昭和六年四月十一日頃前記白王社ニ於テ同人ニ對シダイナマイト及雷管各二本竝ニ導火線一本ヲ讓與シ

第三 被告人松林亮ハ昭和六年四月中旬頃ヨリ同月下旬頃ニ至ル間被告人高畑正カ前記ノ如クダイナマイトノ使用方法ニ付教示ヲ求ムルヤ同人カ治安ヲ妨クル目的ヲ以テダイナマイトヲ所持シ居ルコトヲ知リナカラ前記白王社外數個所ニ於テ同人ニ對シ數回ニ互リ其ノ使用方法ヲ教示シタルノミナラス同年五月二日前記ノ如ク右政教社ニ於テ被告人高畑正ヨリ該ダイナマイトノ爆發裝置ノ可否ニ付訊サルルヤ其ノ完全ナル旨答ヘ以テ被告人高畑正ノ前記犯行ヲ容易ナラシメタル外同年五月一日前記ノ如ク政教社ニ於テ被告人高畑正カ翌二日大藏大臣井上準之助宅ニ該ダイナマイトヲ裝置爆發セシムルノ企圖アルコトヲ認知シタルニ拘ラス直ニ警察官吏若クハ危害ヲ蒙ラントスル井上準之助ニ告知セサリシモノナリ

尙被告人大澤米吉ハ昭和五年四月十日東京地方裁判所ニ於テ傷害罪ニ因リ懲役一年(但シ未決拘留六十日通算)ニ處セラレ當時右刑ノ執行ヲ終リタルモノニシテ該事實ハ同被告人ノ當公廷ニ於ケル其ノ

旨ノ供述ニ據リ明瞭ナルトコロナリ

七三〇 (一五)

法律ニ照スニ被告人高畑正ノ判示所爲ハ爆發物取締罰則第一條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ刑法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ依リ酌量減輕ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役五年ニ處シ被被告人大澤米吉ノ判示所爲ハ爆發物取締罰則第五條第一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ尙前示前科アルヲ以テ刑法第五十六條第五十七條ニ依リ再犯ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役三年ニ處シ被告人松林亮ノ判示所爲中被告人高畑正ノ所爲ヲ幫助シタル點ハ爆發物取締罰則第一條刑法第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ刑法第六十三條第六十八條第三號ニ依リ從犯ノ減輕ヲ爲スヘク告知義務違反ノ點ハ爆發物取締罰則第八條第一條ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇スヘク右ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルニヨリ同法第四十七條第十條ヲ適用シ其ノ重キ前者ノ罪ニ付定メタル刑ニ併合罪ノ加重ヲ爲シ尙犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ依リ酌量減輕ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役二年ニ處シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人高畑正ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

原判決中被告人亮ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人亮ヲ懲役一年十月ニ處ス

被告人亮カ昭和六年五月一日被告人正ニ於テ翌二日井上準之助宅ニダイナマイトヲ裝置爆發セシムルノ企圖アルコトヲ認知シタルニ拘ラス直ニ警察官吏若クハ井上準之助ニ告知セサリシ公訴事實ニ付テハ被告人亮ハ無罪

被告人正 米吉ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

各被告人辯護人角岡知良上告趣意書原審判決ハ事實理由ニ於テ「……被告人高畑正ハ……治安ヲ妨クル目的ヲ以テ……大藏大臣井上準之助方……物置ノ土臺下……溝穴ニ右爆發裝置ヲ施セルダイナマイト二本ヲ裝置シテ爆發セシメ……以テ治安ヲ妨ケ」ト判示シ右被告人ノ行爲ニ對シ爆發物取締罰則第一條ヲ以テ問擬セリ然レ共「治安ヲ妨クル目的」トハ前示罰則第一條ニ明記セララルル條文文句ニシテ一個ノ抽象的概念ニ過キス故ニ事實ニ即シテ具體的ニ之ヲ表示スルニ非スンハ治安ヲ妨クル目的ノ有無ヲ知ルコトヲ得サルヲ以テ原審判決ハ理由不盡ノ違法アリト云ハサルヲ得ス尤モ右判決ノ他ノ部分ニ於テ右被告人カ大澤米吉ニ對シ不穩ノ意圖アルコトヲ洩シ又ハ井上大藏大臣ニ脅迫ヲ加フルカ最モ效果的ナリト思惟シタリトノ判示記載アレト前者ハ被告人ト大澤米吉間ノ會話ノ内容ニシテ又後者ハ被告人獨自ノ考察ニ過キス本件ノダイナマイト使用ニ關スル直接ノ目的ニ非サルナリ故ニ原判決ハ罰

則第一條ノ犯罪構成要件タル「治安ヲ妨クル目的ノ存在」ニ對スル具體的説明ヲ缺クカ故ニ結局判決ニ理由ヲ附セサルノ批難ヲ免レスト信スト謂ヒ「被告人亮辯護人角岡知良上告趣意書第一點原判決ハ事實理由ニ於テ……被告人松林亮ハ昭和六年四月中旬頃ヨリ同月下旬頃ニ至ル間被告人高畑正カ……ダイナマイトノ使用方法ニ付教示ヲ求ムルヤ同人カ治安ヲ妨クル目的ヲ以テダイナマイトヲ所持シ居ルコトヲ知リナカラ……同人ニ對シ數回ニ互リ其ノ使用方法ヲ教示シ……犯行ヲ容易ナラシメ」云々ト判示シ爆發物取締罰則第一條及ヒ刑法第六十二條第一項ヲ以テ問擬シタリ然レ共「治安ヲ妨クル目的ヲ以テ」云々トハ前示罰則第一條ニ明記セラレタル條文文句ヲ其ノ儘援用シタルモノ右ハ一個ノ抽象的概念ニシテ具體的事實ニ非ス故ニ犯罪事實ニ即シテ具體的表示ヲ爲スニ非サレハ未タ判決理由ヲ盡シタルモノト云フヲ得ス結局原判決ハ理由不盡ノ違法アリト思料スト謂フニアレトモ

原判決ノ確定シタル事實ハ被告人等ハ大陸積極政策ヲ主張シ民政黨内閣ノ外交政策ヲ軟弱外交ナリトシテ反對シ第五十九議會ノ開期中内閣倒壊ノ氣勢ヲ擧ケタルモ終ニ其ノ效ヲ奏セサリシ爲益民政黨内閣ニ對スル不滿ノ念ヲ高メタル折柄被告人正ハ昭和六年三月下旬被告人米吉ト會シタル際同被告人ニ對シ何かドカントスルモノナキヤト問ヒ之ニヨリ内閣ニ一大衝動ヲ與フルト同時ニ社會的ニモ反響ヲ及ホサントノ意圖アルコトヲ洩シ同年四月十一日頃同被告人ヨリダイナマイト及雷管各二本竝導火線一本ノ讓與ヲ受ケ更ニ被告人亮ヨリ右ダイナマイトノ使用方法ニ付教示ヲ受ケ機會ヲ待チ居タルカ同

年五月一日ノメモデ示威運動ヲ見テ愈其ノ決意ヲ固メ之カ爲メニハ關係中最世人注視ノ的トナレル大藏大臣井上準之助ニ對シ脅威ヲ加フルカ最效果アリト思惟シ被告人亮ニ對シ井上邸ニダイナマイトヲ裝置爆發セシムル企圖ヲ洩シ同月二日前示ダイナマイト二本ニ爆發裝置ヲ施シタル上被告人亮ニ其ノ裝置ノ完全ナルヲ確メ同夜東京市麻布區三河臺町ナル井上準之助正門附屬物置下部ニ右ダイナマイトヲ裝置シ爆發セシメタリト謂フニアリテ被告人正等ノ意圖タル單ニ井上準之助個人ニ對シ脅威ヲ加ヘントスルニアラスシテダイナマイトノ如キ爆發物ヲ帝都ニ於ケル大藏大臣ノ私邸ニ裝置爆發セシムルコトニヨリ社會ヲ驚カシ人心ニ不安ヲ惹起セシメ仍テ以テ倒閣運動ニ資セントスルニアリタリト做セルモノナレハ原判決ハ被告人正等ノ行爲カ治安ヲ妨クル目的ノ下ニ爲サレタルコトヲ具體的ニ説明シテ餘アリ所論被告人正 米吉間ノ會談ノ内容及被告人正ノ思惟ノ内容ノ如キハ正シク右ダイナマイト使用ノ意圖ヲ示スモノニシテ之ニ反スル所論見解ヲ容ルルノ餘地アルコトナシ從テ原判決ニハ治安ヲ妨クル目的ヲ具體的ニ説明セサル失當存スルコトナク論旨孰レモ理由ナシ

各被告人辯護人角岡知良 林逸郎上告趣意書第四點原判決ハ被告人松林亮ハ被告人正カ治安ヲ妨クル目的ヲ以テダイナマイトヲ使用スルノ情ヲ知リナカラ之カ使用方法ヲ教示シテ被告人正ノ犯行ヲ容易ナラシメタル外同年五月一日被告人正カ翌二日大藏大臣井上準之助宅ニ該ダイナマイトヲ裝置爆發セシムルノ企圖アルコトヲ認知シタルニ拘ラス直ニ警察官吏若クハ危害ヲ蒙ラントスル井上準之助ニ告

知セサリシモノナリト認定シ被告人亮ヲ爆發物取締罰則第一條刑法第六十二條第一項爆發物取締罰則第八條ニ問擬シ併合罪トシテ處斷シタリ然レトモ爆發物取締罰則第八條ノ告知義務違反罪ハ該犯罪ニ關係ナキ者カ該犯罪ヲ認知シタル場合之カ告知ヲ爲ササルニ因リテ成立スヘキモノニシテ被告人亮ノ如ク該犯罪ヲ幫助シタル該犯人即チ該犯罪ノ一種ノ共犯者ニ適用スヘキモノニアラサルナリ然ルニ原判決ハ被告人亮ハ被告人正カ判示犯行ヲ爲スノ情ヲ知リテ之ヲ幫助シタリト認定シ之ヲ幫助犯トシテ處斷シ乍ラ該事實ヲ告知セストシテ告知義務違反罪ニモ問擬處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レサルモノト信スト謂フニアリ

【要旨】
案スルニ爆發物取締罰則第八條ハ同法第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル者ニ對シ直ニ之ヲ警察官吏又ハ危害ヲ被ラントスル人ニ告知スヘキ義務アルコトヲ認ムルモ右ノ義務者中ニハ同法第一乃至第五條ノ犯罪者自身ヲ含マサルモノト解スヘキモノナルコトハ同條ノ文理上之ヲ肯定スルヲ妥當トスルノミナラス犯人ニ對シ自己ノ犯シタル罪ヲ他人ニ告知スヘキ義務ヲ科シ其ノ義務違反ニ對シ刑罰ヲ以テ臨ムノ失當ナルハ一般條理上明白ナルトコロナルカ故ニ法ノ精神ハ犯人以外ノ者ニ右ノ告知義務ヲ認メタルモノト解スルヲ正當ナリトス而シテ數人カ共同シテ同法第一條乃至第五條ノ犯罪ヲ行ヒタルトキハ各共犯者ハ共同正犯タルト教唆犯タルト從犯タルトヲ問ハス互ニ共同一體ノ關係ニ在ルモノニシテ共犯者ノ犯罪ヲ告知スルコトハ結局自己ノ犯罪ヲ告知スルコトニ歸スルモノナルカ故ニ

共犯者ノ犯罪ニ付テモ亦告知義務ヲ認メサルコト法ノ精神ナリト解セサルヘカラス原判決カ被告人亮ノ犯罪トシテ認定シタルトコロハ被告人亮ハ昭和六年四月中旬頃ヨリ同月下旬頃ニ至ル間被告人正カダイナマイトノ使用法ニ付教示ヲ求ムルヤ同被告人カ治安ヲ妨クル目的ヲ以テダイナマイトヲ所持シ居ルコトヲ知りナカラ白王社外數個所ニ於テ同被告人ニ對シ數回ニ互リ其ノ使用法ヲ教示シタルノミナラス同年五月二日政教社ニ於テ同被告人ヨリダイナマイトノ爆發裝置ノ可否ニ付訊サルルヤ其ノ完全ナル旨ヲ答ヘ以テ被告人正ノ治安妨害ノ目的ヲ以テスル爆發物ノ使用ヲ容易ナラシメタル外同年五月一日前記ノ如ク政教社ニ於テ被告人正カ翌二日大藏大臣井上準之助邸ニ該ダイナマイトヲ裝置爆發セシムル企圖ヲ抱クコトヲ認知シタルニ拘ラス直ニ警察官吏若クハ危害ヲ蒙ラントスル井上準之助ニ告知セサリシモノナリト謂フニアレトモ右後段ニ所謂告知スヘキ行爲ハ被告人亮カ幫助シ被告人正ヲシテ敢行セシメタル行爲ニ外ナラサルカ故ニ上敍ノ理ニ依リ被告人亮ニ於テ之ヲ告知セサルモ義務違反ニ非スト謂フヘク從テ被告人亮ノ前示後段ノ行爲ハ本來罪ト爲ルヘキ行爲ニアラス然ルニ原判決カ右行爲ヲ爆發物取締罰則第八條ニ問擬シ前段ニ認ムル同罰則第一條ノ幫助罪トノ間ニ併合罪ノ關係アリトシテ處斷シタルハ擬律錯誤ノ不法アリト謂フヘク而シテ該不法ハ判決ニ影響ヲ及ホスヘキコト勿論ナルヲ以テ論旨ハ理由アリ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノトス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

以上説明スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ被告人正米吉ノ上告ハ孰レモ之ヲ棄却スヘク同法第四百四十七條第四百四十八條ニ則リ原判決中被告人亮ニ關スル部分ハ之ヲ破毀シ原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ同人ノ行爲中被告人正ノ行爲ヲ幫助シタル點ハ爆發物取締罰則第一條刑法第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ刑法第六十三條第六十八條第三號ニ依リ從犯ノ減輕ヲ爲シ尙犯情憫諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第七十一條第六十八條第三號ニ依リ酌量減輕ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人亮ヲ懲役一年十月ニ處シ被告人亮ニ對スル主文第三項揭記ノ公訴事實ハ罪ト爲ラサルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ニ則リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事大原井關與

○飲料淨水毒物混入致傷被告事件 (昭和八年(九)第五四一號 同年六月五日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 伊藤傳右衛門 辯護人 鈴木喜三郎
 【第一審】 仙臺區裁判所 【第二審】 仙臺地方裁判所

○判示事項

人ノ飲料ニ供スル淨水ノ意義——飲料淨水ニ毒物ヲ混入シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ擬律

○判決要旨

一 炊事用ニ供セララルル水壺内ノ飲料水ハ刑法ニ所謂飲料淨水ニ該當ス【要旨第一】

二 飲料ノ淨水ニ毒物硫酸ニコチンヲ混入シ因テ他人ヲシテ該淨水ヲ使用シテ炊事シタル食物ノ爲中毒症狀ニ陥ラシメタルトキハ刑法第四百四十五條ヲ適用シ同第四百四十四條ノ法定刑ト同第二百四條ノ法定刑トヲ比較シテ其ノ重キニ從テ處斷スヘキモノトス

【要旨第二】

【參照】 刑法第四百四十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

同法第四百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較

人ノ飲料ニ供スル淨水ノ意義 飲料淨水ニ毒物ヲ混入シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ擬律

シ重キニ從テ處斷ス
同法第二百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金
若クハ科料ニ處ス

○事實

原審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役六月ニ處シ訴訟費用ハ被告人ノ負擔ト
スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ約八年前ヨリ居宅向側ナル宮城郡利府村加瀬三十六番地鈴木よねト情交關係ヲ繼續シ居リタ
ルトコロ近時よねニハ他ニ情夫アルモノト邪推シ居リタルカ偶々昭和七年九月二十四日被告人ノ嫉妬
心ヨリ些細ノ事ニ端ヲ發シ口論トナリ同人ヨリ甚シク罵詈セラレタル結果憤懣ノ情抑ヘ難ク茲ニ同人
等ノ飲料等ニ供スル水甕ノ水ニ毒物硫酸「ニコチン」ヲ混入センコトヲ決意シ同月二十六日午前三時頃
同人方ニ到リ戶外ヨリ臺所ノ竹箆ヲ「ナイフ」ヲ以テ切破リ同所ヨリ水甕ノ中ニ毒物硫酸「ニコチン」ヲ
流シ込ミ因テ同日朝該毒物ヲ混入セル水ヲ以テ炊事セル飯及汁ヲ喫食シタル同人ノ養子胞次郎ヲシテ
間モナク中毒現象ノ發現ニ基ク眩暈ヲ覺エ且數回嘔吐ヲ爲スニ至ラシメ以テ傷害シタルモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第四百四十五條第四百四十四條ニ該當スルヲ以テ同法第十條ニ則リ
傷害ノ罪ト比較シ重キ同法第二百四條ノ有期懲役刑ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處斷スヘク訴

訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シ被告人ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鈴木喜三郎上告趣意書第二點原判決ハ法律ヲ誤解シソノ適用ヲ誤リタル違法アルモノニシテ到
底破毀ヲ免レサルモノナリト信ス即チ原裁判所ハ本件被告人ノ行爲ニ對シ刑法第四百四十四條ヲ適用處
斷セラレタリ然レトモ刑法第四百四十四條ハ公衆ノ衛生ニ關スル犯罪ニシテ個人法益保護ヲ目的トシタ
ル規定ニ非サルコト殆ント疑ナキ處ナリ故ニ同條ノ適用アル人ノ飲料ニ供スル淨水トハ一般人即チ不
定多數ノ人カ飲料ニ供スル水ニ限ラルルモノニシテ假令人ノ飲料ニ供スル淨水ナリト雖本件ノ如ク特
定ノ人カ飲ム爲ニ特定ノ器ニ盛ラレタル水ニ就イテハ之カ適用アルヘカラサルモノナリト信ス此ノ事
ハ法律カ酒ビール其ノ他ノ嗜好物ヲ除外シタル法意ニ徵スルモ之ヲ窺フニ充分ナリト言ハサルヘカラ
ス按スルニ刑罰法規ハ類推適用ヲ許ササルヲ以テ水甕ノ中ニ盛リタル酒中ニ毒物ヲ混入シタル場合ニ
於テ何ヲ以テ處斷スヘキカ器物毀棄罪ノ成立ヲ肯定シ事情ニヨリ殺人未遂殺人豫備罪ノ成立ヲ認ムル
ハ格別人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物ヲ混入シタルモノト爲シ又ハ之ヲ類推適用シテ罰スルコト能ハサ
ルハ蓋シ當然ナリト言ハサルヘカラス而モ水甕ノ中ノ水ニ毒物ヲ混入シタル場合ト同上甕ノ中ノ酒中

人ノ飲料ニ供スル淨水ノ意義 飲料淨水ニ毒物ヲ混入シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル
場合ノ擬律

ニ毒物ヲ混入シタル場合トニ於テ兩者ノ間ニ區別ヲ設クヘキ事由アルコトナシ譬ハ婚禮ノ爲多數人ノ飲ムヘキ酒中ニ毒物ヲ混入シタルカ如キ場合ニ於テハ特定ノ一人又ハ數人ノ飲ムヘキ器ニ盛リタル水ニ對スルヨリ其ノ情重シトスルモ輕キ理由ナケレハナリ然ルニ法律カ酒其ノ他ノ嗜好物ヲ除外シタル所以ハ何ンヤ所謂人ノ飲料ニ供スル淨水トハ公衆ノ衛生ニ關スル罪ナルヲ以テ不定多數人ノ飲料ニ供スヘキ關係ニアル淨水ノミニ限定スル趣旨ナルヲ以テナリ即チ知ル特定ノ人ノ飲料ニ供スル爲茶椀桶、水甕等ノ器ニ盛リタル水ニ對シテハ刑法第四百四條ノ適用ナキコトヲ(學說泉二博士刑法各論二百十五頁二百十六頁大場博士刑法各論下卷一九〇頁特定人カ飲料ノ爲汲ミトリタル一椀ノ水又ハ一桶ノ水ノ如キハ法律ニ所謂飲料ノ淨水ニ非ス云々猶同博士援用ノ勝本岡田小崎牧野諸氏ノ諸說山岡博士刑法原理五七〇頁器ニ盛リタル水ノ如キハ本罪ノ物體タラス云々)然ルニ原裁判所ハ刑法第四百四條ヲ誤解シ本件被告人ノ行爲ニ付同條ヲ適用處斷セラレタルハ全ク法律ヲ誤解シタルモノナリト言ハサルヘカラス即チ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在リ

【要旨第一】

按スルニ飲料水ニ關スル罪ナルモノハ公共衛生ノ見地ニ於テ人ノ健康ヲ保持スル爲設ケラレタル罰則ニ外ナラサルカ故ニ法ニ所謂人ノ飲料ニ供スル淨水トハ不定又ハ多數ノ人ノ飲料ニ供セラルルモノタルコトヲ必要トスト解スヘク而シテ苟モ不定多數人ノ飲料ニ供セラルル淨水タル以上其ノ淨水カ或ハ井戸ノ如ク自然ニ湧出スルモノタルト又水道ノ如ク一定ノ設備ヲ有シ水源ヨリ水路ニ由リテ之ヲ引用

スルモノタルトヲ問ハス又或ハ水甕等ニ貯藏セラレ一家族其ノ他多數人ノ使用ニ供セラルヘキ場合ナルトヲ區別スキヘモノニ非ス何トナレハ此等ノ場合ニ在リテハ孰レモ多數人ノ健康ニ危害ヲ及ホスノ虞アレハナリ特定人ニ對シ飲用セシムル目的ヲ以テ茶椀等ニ淨水ヲ盛リタル場合ノ如キハ之ト趣ヲ異ニスルハ勿論ニシテ彼此混同スヘキモノニ非ス本件ニ於テ原判決ノ確定シタルトコロハ被告人ハ鈴木よね方臺所炊事場ニ備付ニ係ル飲料水在中ノ水甕内ニ毒物硫酸ニコチンヲ流シ込ミタリト云フニ在レハ其ノ行爲ノ客體カ法律ニ所謂人ノ飲料ニ供スル淨水ニ該當スヘキヤ辯ヲ須タス然ラハ原判決ニハ所論ノ如ク法律ノ解釋ヲ誤マリタル違法アリト爲スヲ得ス論旨理由ナシ

同第三點原裁判所ハ本件被告人ノ行爲ヲ以テ傷害罪ニ該當スルモノナリト爲シ刑法第二百四條ヲ適用處斷セラレタリ然レトモ第一點ニ於テ論シタルカ如ク被告人ハ問題ノ甕ノ水ハ専ラ雜用ニノミ使用スルモノニシテ飲料其ノ他炊事用ニ供スル水ナリトハ思料シ居ラサリシモノナリコレ獨リ被告人ノ主觀ニ於テ然リシノミナラス被害者鈴木家ニ於テハ右甕水ヲ以テハ常ニハ飲料ニ供シ炊事用ト爲ササリシモノニシテ飲用炊事用トシテハ被害者宅ニ在ル水道ノ水ヲ以テ爲シツツアリタルモノナリ偶當日ノ朝ニ限リ鈴木よねカ右甕水ヲ用イテ炊事用ニ供シタル爲胞次郎カ中毒スルニ至リタルモノナレハ被告人ニ對シテハ普通ノ傷害罪ヲ以テ問擬スルコト能ハサル所ナリト言ハサルヘカラス蓋シ胞次郎傷害ノ結果ニツキ認識ナキハ勿論胞次郎ニ對スル傷害ノ原因タル暴行ニ付テモ亦認識ナカリシモノナルヲ以テ

人ノ飲料ニ供スル淨水ノ意義 飲料淨水ニ毒物ヲ混入シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル
場合ノ擬罪

ナリ凡ソ傷害罪ニ結果ノ認識ヲ要スルヤ否ヤニ付争アリト雖我邦學者ノ通説竝ニ判例ハ暴行ノ認識アルヲ以テ足り結果ノ認識ヲ要セスト解セリ辯護人モ亦此ノ通説竝ニ判例ニ從フ然レトモ判例竝ニ通説ニ據ルモ傷害罪ニ付故意ノ責任ヲ負フニハ尠クモ原因タル暴行ニ付認識アルコトヲ要ス之ヲ本件ニ付テ論スレハ被告人傳右衛門カ胞次郎カ被リタル中毒テフ傷害ニ付故意ノ責任ヲ負擔スルニハ其ノ原因タル暴行詳言スレハ胞次郎ニ於テ(具體的ニ胞次郎ト特定セサルモ可ナラン何人カニ於テ)甕中ノ水ヲ飲ミ其ノ他炊事用ニ供スルナラントノ認識ナカルヘカラス此ノ認識ヲ缺クニ於テハ結局暴行ノ認識ヲ缺如スルヲ以テ故意ニヨル傷害罪ヲ以テ問擬スルコト能ハサルモノト解セサルヘカラス換言スレハ當該甕水ヲ以テ炊事ヲ爲ストノ認識アレハ之ヲ食シタル結果中毒スヘシトノ結果ノ認識ナクトモ故意ニヨル傷害罪ノ成立ヲ肯定スルニ足ルヘシ然レトモ其ノ原因タル炊事ニ供スルコトヲ認識セサルトキハ結局結果ニ對スル原因タル暴行ノ認識ヲ缺クモノト爲ササルヘカラス而シテ本件被告人カ認識シタル範圍ハ甕中ノ水ハ顔ヲ洗ヒ其ノ他ノ雜用ニノミ供セラルルモノニシテ炊事用ニ用ヒラルルコトナシト思料シ居リタルモノナレハ偶當日ニ限り炊事用ニ用ヒタリトテ斯カル出來事ハ全ク異常ノ事項ト云フヘク此ノ事ニ付認識ナカリシ被告人ニ對シ故意ニヨル傷害罪ニ問擬シタル原判決ハ到底違法タルヲ免レサルモノナリト言ハサルヘカラス或ハ既ニ水甕中ニ毒物ヲ混入シタル以上暴行ノ認識アルニアラスヤト論スル者アランモ右暴行ノ認識ハ其ノ認識シタル普通ノ經過ニヨル結果ニ對シテハ縱令結果ノ

認識ナクトモ故意ニヨル傷害罪ノ責アルニ過キスト言フヘシ例ヘハ顔ヲ洗ヒタル爲ニ顔害ヲ被リタリト言フカ如シ要之原判決カ被告人ニ對シ普通故意ニヨル傷害罪ノ成立ヲ肯定シ刑法第二百四條ヲ適用處斷シタルハ甚タ違法ニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨第二】

原判決ニハ事實ノ認定ニ重大ナル誤認ナキコト第一點ノ論旨ニ對シ説明シタル所ノ如シ而シテ其ノ認定ニ從ヘハ被告人ハ鈴木よねニ對スル嫉妬憤懣ノ情抑エ難ク同人方家族數名ノ飲料ニ供スル淨水在中ノ水甕内ニ毒物硫酸ニコチンヲ流シ込ミ置キタルトコロ翌朝該飲料水ヲ使用シテ炊事セル飯及汁ヲ喫食シタル同人ノ養子胞次郎ハ間モナク中毒症狀ヲ惹起シ且眩暈嘔吐ヲ爲スニ至リタリト云フニ在レハ被告人ハ其ノ中毒症狀等ヲ惹起シタル傷害ノ結果ニ付認識アリタルト否トヲ問ハス刑法第四百十五條ノ適用ニ依リ同法第二百四條ノ刑ト第四百十四條ノ刑トヲ比較シ重キニ從ツテ處斷スヘキモノナルカ故ニ所論暴行ノ認識アリタルヤ否ヤニ付キ論議スルノ餘地アルモノニ非ス所論ハ原判示ニ副ハス換言スレハ原判決ニ認メサル事實ヲ前提トシテ法律上ノ議論ヲ試ムルモノニシテ上告論旨トシテ適法ナラス

同第四點本件ニ付被害者ナリト認定セラレタル胞次郎ノ被リタリト言フ傷害ナルモノハ如何ナル程度ノモノナリヤ胞次郎ハ返食スルニ至リタリト言フモ醫師ニモ掛ラスシテ直チニ回復シ勞働ニ從事シタル程ナルヲ以テ醫學上之ヲ以テ猶傷害ナリト目スルコトヲ得トスルモ法律上傷害ト爲スニハ未タ不充

人ノ飲料ニ供スル淨水ノ意義 飲料淨水ニ毒物ヲ混入シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル
場合ノ擬律

分ナリト爲ササルヘカラス即チ本件ノ如キ程度ニ於テハ暴行ナリト解スヲ正當ナリト信ス(大場博士
 刑法各論上卷一九六頁猶同博士援用ノ同趣旨ノ諸學說御參照)而シテ本件ニ於テ既ニ被害者ヨリ告訴
 ノ取下(原審仙臺地方裁判所ニ於テ)アリタルモノナレハ被告人ニ對シテ言渡サレタル普通傷害罪ニ
 ヨル判決ハ到底不當タルヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ
 原判決ノ認定スルトコロハ被告人ノ判示行爲ニ因リ毒物ノ混入セラレタル飲料水ヲ使用シテ炊事シタ
 ル飯及汁ヲ喫食シタル胞次郎ヲシテ中毒症狀ヲ惹起シ且眩暈嘔吐ヲ爲スニ至ラシメタリト云フニ在リ
 而シテ中毒症狀ヲ惹起シ且眩暈嘔吐ヲ爲スカ如キハ人ノ健康狀態ヲ不良ニ病的ニ變更スルモノニシテ
 刑法上人ノ身體ヲ傷害シタルモノニ外ナラサルモノトス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由
 ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事岩松玄十關與

○衆議院議員選舉法違反被告事件(昭和八年(九)第五八六號
 同年六月五日第二刑事部判決 棄却)

〔上告人〕 被告人 平田鐵太郎 辯護人 小野喜作

〔第一審〕 大分地方裁判所 〔第二審〕 長崎控訴院

○判示事項

刑事訴訟法第四百十四條ノ上告理由ト新證據

○判決要旨

上告審ニ新ナル證據ヲ提出シ之ニ依リ刑事訴訟法第四百十四條ニ
 所謂重大ナル事實ノ誤認ヲ主張スルコトハ之ヲ許スヘカラス

〔參照〕 刑事訴訟法第四百十四條 重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯
 著ナル事由アルトキハ之ヲ上告ノ理由ト爲スコトヲ得
 同法第四百二十五條第三項 第四百十二條及第四百十四條ノ場合ニ於テハ訴訟記錄
 及原裁判所ニ於テ取調ヘタル證據ニ現ハレサル事實ヲ援用スルコトヲ得ス

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ衆議院議員選舉法第一百十二條第一號刑法第二十一條ニ依リ被告人鐵太郎
 ヲ禁錮二月十五日ニ處ス未決勾留日數中十五日ヲ右本刑ニ算入ストノ判決ヲ言渡タリ

刑事訴訟法第四百十四條ノ上告理由ト新證據

第二 被告人平田鐵太郎ハ立憲政友會大分部部會ノ評議員ニシテ昭和七年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ付テハ昭和七年二月十一日以來金光候補者ノ選舉委員ト爲リ同候補者ノ選舉事務所タル大分市南新町大國屋旅館ニ於テ殆ト連日詰切リ其ノ選舉運動ニ從事シ居リタルカ相被告人大久保龜鶴等ヲシテ同候補者ノ爲前記南庄内村ニ於ケル選舉人ノ投票ヲ買收セシメシコトヲ企テ同月十七日右事務所ニ於テ相被告人大久保龜鶴及同土屋久雄兩名ニ對シ各相被告人等ノ投票報酬及投票買收費トシテ金四百圓ヲ供與シタリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人鐵太郎辯護人小野喜作上告趣意書第一點原審ハ刑事訴訟法第四百十四條ニ所謂重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノナリ原審ハ其ノ事實說明ノ第一事實記載中ノ(一)ノ(ロ)ノ部ニ於テ「被告人龜鶴及同久雄ノ兩名ハ同月十七日相伴ヒテ大分市南新町大國屋旅館ニ設ケラレタル金光候補者ノ選舉事務所ニ赴キ同所ニ於テ同候補者ノ選舉委員タル相被告平田鐵太郎ヨリ後記第二記載ノ趣旨ニ於テ金四百圓ノ供與ヲ受ケ」云々又其ノ第二事實記載ノ末尾ノ部ニ於テ「昭和七年二月十七日金光候補者ノ選舉事務所ニ於テ相被告人大久保龜鶴及同土屋久雄兩名ニ對シ

各同人等ノ投票報酬及投票買收費トシテ金四百圓ヲ供與シ」云々ト說示シタリ而シテ原審カ其ノ第二事實ニ對スル證據說明ノ部ニ「被告人平田鐵太郎ハ當公廷ニ於テ判示金圓供與ノ事實ヲ否認」云々ト說示セル如ク上告人ハ其ノ犯罪行爲ヲ絕對ニ否認スルモノナルモ原審裁判所ハ一ニ相被告人大久保龜鶴及同土屋久雄兩人ノ供述ヲ其ノ事實證明ノ材料トナシ以テ主文ノ如ク上告人ヲ處斷シタリ然レトモ相被告人大久保龜鶴及同土屋久雄兩人ノ原審裁判所ニ於ケル供述ハ全然虛偽ノ供述ニシテ原審カ其ノ證據說明ノ(一)ノ(ロ)ノ部ニ於テ「被告人大久保龜鶴ノ當公廷ニ於ケル判示日場所ニ於テ平田鐵太郎ヨリ金四百圓ノ交付ヲ受ケタルコトハ相違無ク云々」ノ供述アリトシ又右證據說明(一)ノ(ロ)ノ部ノ中段ニ於テ「被告人土屋久雄ノ當公廷ニ於ケル判示日場所ニ於テ金四百圓ノ交付ヲ受ケタルコトハ相違無ク云々」ノ供述アリトシタルハ事實ノ正當ノ認定ヲナスニ疑フヘキ顯著ナル事由存スルモノニシテ更ニ審判ヲ爲スニ非ラサレハ裁判ノ公正ヲ維持スル能ハサルモノナリ即チ上告人ハ本上告趣意書ニ附屬シテ表示セル二通ノ尺素ヲ以テ其ノ理由ヲ明カニセントスルモノナリ一通ハ相被告人大久保龜鶴カ第二審判決言渡後本年二月二十日第三者ヲ通シ他ノ一通ハ相被告人土屋久雄カ本年四月十九日郵便消印ヲ以テ上告人ニ各々謝罪シ來レルモノナリ須ラク以テ此ノ事實ハ本件ノ上告ノ理由トナスニ足ルモノアルヘク裁判ノ公正ヲ保ツノ上法律違反ト同シク破毀ノ原因トナルニ當然ナルモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

論旨ニ援用シタル大久保龜鶴及土屋久雄ノ書狀ハ第二審判決言渡後ニ作成セラレタルモノニ係リ原裁判所ノ取調ヘタル證據ニ非サルコト論旨自體ニ於テ明白ナルヲ以テ斯カル證據ニ依據シテ刑事訴訟法第四百十四條ニ所謂重大ナル事實ノ誤認ヲ主張シ上告ノ理由ト爲スコトハ刑事訴訟法第四百二十五條第三項ノ規定ニ依リ之ヲ許スヘカラサルモノトス依テ此ノ點ニ關スル論旨ハ之ヲ採用シ難ク記錄ニ徵スルニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナキヲ以テ論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松井和義關與

○收賄贈賄被告事件 (昭和八年(九)三三二七號 棄却)
(昭和八年六月七日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 栃内吉兵衛 辯護人 (和田金藏 外四名)

【第一審】 仙臺地方裁判所 【第二審】 宮城控訴院

○判示事項

町村ノ耕地整理共同施行委員ノ職務ト公務員——町村委員選定ノ告知及承諾ノ方法

○判決要旨

一 町村ニ於ケル耕地整理共同施行委員ハ同町村耕地整理施行ニ關スル事項ヲ協議決定スヘキ職務ヲ有スル公務員ナリトス【要旨第一】

二 町村制第六十九條第三項第六十三條第三項第四項ノ委員選定ノ告知及承諾ノ方法ハ必スシモ書面ニ依ルコトヲ要セス【要旨第二】

【參照】 町村制第六十九條 町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス町村會議員又ハ町村民中選舉權ヲ有スル者ヨリ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム但シ委員長ハ町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ之ニ充ツ

第六十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ委員ニ之ヲ準用ス

委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

同制第六十三條 町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス

町村ノ耕地整理共同施行委員ノ職務ト公務員 町村委員選定ノ告知及承諾ノ方法

町村長ノ在職中ニ於テ行フ後任町村長ノ選舉ハ現在町村長ノ任期滿了ノ日前二十日以内又ハ現任町村長ノ退職ノ申立アリタル場合ニ於テ其ノ退職スベキ日前二十日以内ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第一項ノ選舉ニ於テ當選者定マリタルトキハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スベシ町村長ニ當選シタル者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ當選ニ應ズルヤ否ヲ申立ツベシ其ノ期間内ニ當選ニ應ズル旨ノ申立ヲ爲サザルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第二十九條第三項ノ規定ハ町村長ニ當選シタル者ニ之ヲ準用ス
助役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ定ム町村長職ニ在ラザルトキハ第一項ノ例ニ依ル

第二項乃至第五項ノ規定ハ助役ニ之ヲ準用ス

名譽職町村長及名譽職助役ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル

有給町村長及有給助役ハ第七條第一項ノ規定ニ拘ラズ在職ノ間其ノ町村ノ公民トス

刑法第七條

本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏公吏法令ニ依リ公務ニ従事スル議員委員其ノ他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人塚本準之助 清水龜一ヲ各懲役四月

ニ處シ被告人龜一ニ對シ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人栃内吉兵衛ヲ罰金二百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人吉兵衛ヲ勞役場ニ留置ス被告人吉兵衛ヨリ金千圓ヲ被告人準之助ヨリ金六百五十圓ヲ各追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

宮城縣登米郡登米町及同郡吉田村ニ於テハ兩町村共同シテ耕地整理ヲ施行スルコト爲リ右耕地整理共同施行ニ關スル事項ヲ協議決定セシムル爲臨時委員ヲ設置スルコトシテ昭和四年十一月中其ノ町村會ニ於テ夫々町會議員及村會議員ノ全部ヲ該委員ト爲スヘキコトヲ議決シタルカ被告人清水龜一ハ吉田村村會議員被告人塚本準之助ハ登米町町會議員トシテ夫々其ノ町村會ニ於テ選定セラレタル右耕地整理共同施行ノ委員被告人栃内吉兵衛ハ土木建築請負業者被告人川村安五郎ハ右吉兵衛ノ甥ニシテ栃内組仙臺出張所ノ主任ナル所

第一 被告人吉兵衛ハ右耕地整理工事ノ請負カ指名入札ニ付セラレタル場合ニハ岩手縣黑澤尻町土木建築請負業東北コンクリート工業株式會社ト共ニ右入札ニ加入シテ落札人トナリ該工事ヲ請負ハント欲シ被告人安五郎ト工事關係者ニ贈賄シテ以テ其ノ目的ヲ達成センコトヲ相謀リ昭和四年十二月中旬頃仙臺市立町通料理店福樂同市北二番丁通貸座敷昌平樓等ニ於テ直接或ハ原審共同被告人西條繁三郎 武藤清作等ヲ介シテ被告人龜一準之助等ニ對シ右工事ニ付自己ノ指定セル請負人ヲ指名入札者ニ指名セラルル様斡旋セラレ度旨請託シ其ノ報酬ノ趣旨ニテ賄賂トシテ

町村ノ耕地整理共同施行委員ノ職務ト公務員 町村委員選定 告知及承諾ノ方法

(イ) 其ノ頃右昌平樓ニ於テ前記會社技師長中村建二ノ醸出セル金五百圓ニ自己ノ出金セル金千圓ヲ加ヘ之ヲ原審共同被告人繁三郎 清作等ニ交付シ其ノ翌日同人等ノ手ヲ經テ同市南町通中村旅館ニ於テ被告人龜一ニ金千圓ヲ被告人準之助ニ金二百五十圓ヲ

(ロ) 同年十二月末頃更ニ右繁三郎 清作ノ手ヲ經テ被告人準之助ノ肩書住宅ニ於テ同人ニ對シ金四百圓ヲ

夫々交付シ

第二 被告人龜一 準之助ハ前示ノ如ク公務員ナル處賄賂タルノ情ヲ知リナカラ

(イ) 被告人龜一ハ前掲第一ノ(イ)記載ノ如ク被告人吉兵衛ヨリ原審共同被告人繁三郎 清作ノ手ヲ經テ金千圓ヲ

(ロ) 被告人準之助ハ前掲第一ノ(イ)及(ロ)記載ノ如ク被告人吉兵衛等ヨリ右繁三郎 清作ノ手ヲ經テ二回ニ合計金六百五十圓ヲ

夫々受取り以テ其ノ職務ニ關シテ收賄シタルモノナリ而シテ被告人安五郎 吉兵衛準之助ノ各同種ノ所爲ハ夫々繼續ノ犯意ニ出テタルモノトス

法律ニ照スニ被告人吉兵衛ノ判示賄賂ノ所爲ハ刑法第九十八條第一項第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ又被告人龜一 準之助ノ判示收賄ノ所爲ハ同法第九十七條第

一項前段ニ各該當スル處被告人準之助ノ所爲ハ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シテ一罪トシ夫々其ノ所定刑ノ範圍内ニ於テ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク尙被告人龜一ニ對シテハ犯罪ノ情狀刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認ムヘキヲ以テ同法第二十五條ニ則リ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク被告人吉兵衛ノ罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置ニ付同法第十八條第一項第四項ヲ適用シ被告人龜一ノ收受シタル現金千圓ハ其ノ後被告人吉兵衛ニ返還セラレ而モ之ヲ沒收スルコト能ハス又被告人準之助ノ收受シタル現金計六百五十圓モ亦沒收スルコト能ハサルヲ以テ各刑法第九十七條第二項後段ニ則リ主文掲記ノ如ク夫々其ノ價格ヲ追徵スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ主文掲記ノ如ク被告人等ヲシテ連帶負擔セシムヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人塚本準之助上告趣意書第一點塚本準之助ハ公務員ニアラス登米町吉田村耕地整理共同施行ノ主體ハ耕地整理組合ニアラス又町村組合ニモアラス單純ナル兩町村ノ共同事業ニシテ開墾助成法ニヨリ國庫補助ヲ受ケ得ル干拓事業ニ過キスシテ町村固有ノ事務ニアラス而シテ事業ノ施行ハ登米町長ト吉田村長ト協議上豫算ノ範圍内ニ於テ自由ニ行ヒ得ルモ多額ノ經費ヲ要スル大事業ナルト豫算關係及監

町村ノ耕地整理共同施行委員ノ職初ト公務員 町村委員選定ノ告知及承諾ノ方法

督官廳ニ對スル認可申請等町村會ノ議決ヲ必要トスル幾多ノ事項アルヲ以テ便宜上兩町村會議員ヲ相談相手トスル意味ニ於テ委員ヲ設ケタルニ過キス一、耕地整理共同施行委員ハ便宜上ノ理由ニ基キ設置セルモノニシテ公的資格ナシ耕地整理共同施行委員ハ町村長等カ事業實行上便宜ノタメ單純ナル相談相手トシテ設ケタルモノニシテ事業ノ事務所ヲ登米町役場内ニ置キタルヲ以テ會合ノ都度吉田村會議員カ登米町迄出張スルニ旅費ヲ支給セサルハ氣ノ毒ナルヲ以テ之カ支給ヲ爲スタメ町村會ニ於テ正式議決ヲ爲ス必要上委員設置ノ規定トナリタルモノニシテ委員設置カ主目的ニアラス旅費ノ支給カ主目的ナリ此ノ點ニ關シ當時ノ登米町長菊地長七カ宮城控訴院ニ於テ供述セル證言ニヨリテ明ナリ二、委員ハ町村制第六十九條ノ規定ニヨリ設ケタルモノニアラス其ノ性質資格ヲ異ニス町村制第六十九條ニ町村ハ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得云々ト規定シアリ之固ヨリ町村事務ノ一部ヲ擔任セシムル目的ナルヤ明ナリ然ルニ耕地整理共同施行委員ハ其ノ設置規定ニ其ノ職務權限ヲ明記セス町村長ノ相談相手タルニ過キスシテ事業其ノモノモ亦町村固有ノ事務ニアラス旅費支給ノ手續トシテ町村會ノ議決ヲ經タルノミ町村ト云フ公法人カ或一私人ト共同事業ヲ營ミタル場合ヲ考フレハ委員カ公務員ニ非サルノ理ハ簡單ニ首肯シ得ヘシ三、登米町ニ於テ委員設置ヲ決議セルハ委員ノ數十名ニシテ町會議員全員即チ十八名ト變更シタル場合ハ正式町會ノ議決ヲ經ス委員ハ兩町村十名宛選任ノ正式町村會ノ議決ヲ經タルモ登米町ニ於テハ吉田村ノ希望ニヨリ町村會議員全部ヲ委員ニ選任スルコト即チ登米町

十八名ノ委員ヲ置クコトニ改メタルモ協議會ニ於テ話合ヒタルノミニシテ正式町會ノ決議ヲ經ス裁判所ニ押收シアル登米町會議錄ニモ其ノ記載ナク登米町長山田寛吾カ豫審廷ニ於ケル證言ニモ正式町會ヲ開催セサル旨ノ陳述アリ宮城控訴院ニ於ケル證人元登米町長菊地長七ノ陳述モ正式町會ノ議決ヲ經タルヤ否ヤ明瞭ニ記憶セサル旨申立テ居レリ四、委員選任ニ關シ町村長ヨリ告知ヲ爲サス且委員ヨリ承諾書ヲ徵セス從ツテ委員タル資格カ法律上發生セス昭和四年四月法律第五十七號ヲ以テ追加セラレタル町村制第六十九條第三項ニヨリ同法第六十三條第二項乃至第五項ノ規定カ委員ニ準用セラレタルヲ以テ從來明瞭ヲ缺キタル委員選任ニ關スル告知及承諾ハ其ノ選任ニ就テ絕對的必要條件タルヲ明示サレタリ即チ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ其ノ選任ニ應スル旨ノ申立ヲ爲ササル時ハ當選ヲ辭シタルモノト見做サル然ルニ登米町吉田村共ニ此ノ重大ナル手續ヲ履踐セス此ノ點ニ關シ元登米町長菊地長七元吉田村長鈴木久兵衛二名ノ宮城控訴院ニ於ケル證言ニ此ノ告知ヲ爲シ承諾書ヲ徵スル手續ヲ履マスト明確ニ供述セリ從テ法的ニ委員タル資格發生セス宮城控訴院ニ於テ立會ノ檢察官カ此ノ手續ヲ履踐セサルハ事實ナルモ各委員カ委員ニ選任セラレタル心算ニテ其ノ會合ニ出席シ議事ニ參與セルヲ以テ委員ノ資格ヲ獲得セリト認ムヘシト主張サレタルモ委員ト爲リタリト信セルヲ以テ委員ノ資格ヲ得トノ結論ニ到著セサル可シ殊ニ第一回ノ委員會ニ出席セサル委員ハ法定ノ期間内ニ委員トナリタト信セリト認メ得サルヲ以テ委員ノ資格ナシト云フ結果ニ至ル可シ之ヲ要スルニ委員ハ町村制第

六十九條ノ委員ニアラス非公式ナル町村長ノ單純ナル事業上ノ相談相手ニ過キス事業施行ニ關シ何等ノ職務權限ヲ有セス委員十名設置ノ場合ハ町會ノ決議ヲ經タルモ十八名ニ變更ノ時ハ町會ノ決議ヲ經ス且委員ニ對シ告知ヲ爲サス又承諾書ヲ徵セス何レノ點ヨリ考察スルモ此ノ委員ハ公務員ニアラサルヤ明ナリ從テ刑法第九十七條ノ公務員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ云々ノ法條ニヨリ被告人塚本準之助ニ對スル宮城控訴院カ宣告シタル判決ハ失當ナリト信ス依テ原審判決ヲ破毀シ無罪ノ判決ヲ求ムト云フニ在リ

仍テ按スルニ原判決ノ冒頭ニ於テ認定シタルトコロハ判示登米町及吉田村ニ於テハ共同シテ耕地整理ヲ施行シ其ノ共同施行ニ關スル事項ヲ協議決定セシムル爲臨時委員ヲ設クルコトトシ判示日時ニ其ノ町村會ニ於テ夫々町村會議員全部ヲ同委員ト爲スヘキコトヲ議決シ被告人塚本準之助ハ登米町町會議員被告人清水龜一ハ吉田村村會議員トシテ夫々其ノ町村會ニ於テ選定セラレタル右耕地整理共同施行ノ委員ナリト云フニ在リテ其ノ事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ認め得ヘク其ノ所謂耕地整理ノ施行トハ耕地整理法(明治四十二年四月法律第三十號)ニ從ヒ施行スルトコロノ事業ヲ指稱スルモノナルコト原判決ノ全趣旨ニ徵シ明白ナリトス而シテ町村ハ其ノ事務トシテ同法ニ依ル耕地整理ヲ共同シテ施行シ得ヘク右施行ニ關スル事項ヲ協議決定セシムルカ爲町村制第六十九條ノ定ムルトコロニ依リ臨時委員ヲ設ケ得ルコト勿論ナルヲ以テ右認定ノ如ク被告人準之助同龜一カ夫々判示町村會ニ於テ判

【要旨第一】

示耕地整理共同施行ニ關スル事項ヲ協議決定スルカ爲ニ選定セラレテ判示委員ト爲リタルハ即チ法令ニ依リ公務ニ從事スル委員ト爲リタルモノニシテ同被告人等カ刑法第七條ニ所謂公務員タルコトハ論ヲ俟タサルトコロトス本件耕地整理事業ハ單ナル町村ノ干拓事業ニシテ其ノ固有事務ニ非ス委員ハ町村長ノ相談相手ニシテ其ノ職務權限ナルモノ無キノミナラス登米町町會ニ於テ其ノ議員全部ヲ右委員ト爲スコトノ決議ヲ爲シタルコトナシトノ所論ノ事實ハ原判決ノ認めサルトコロナルノミナラス記録ニ徵スルモ之ヲ認め難シ尙原判決舉示ノ證據ニ依レハ判示町村會ニ於テ敘上ノ如ク町村會議員ノ全員ヲ夫々判示共同施行委員ト爲スコトヲ可決シタル際被告人準之助同龜一モ他ノ議員ト共ニ其ノ町村會ニ夫々出席シ町村長ヨリ判示耕地整理共同施行委員ニ推薦セラレ同被告人等ハ他ノ出席議員ト共ニ何等異議ナク各議員全部カ同委員ト爲ルコトヲ夫々可決シタルコト並被告人準之助ハ登米町町會議員トシテ昭和四年十一月十七日ノ同町會ニ於テ被告人龜一ハ吉田村村會議員トシテ同月十八日ノ同村會ニ於テ夫々右委員ニ選任セラレ同被告人等ハ右選任ノ告知ヲ受ケテ之ヲ承諾シ同月十九日兩町村委員カ登米町役場ニ招集セラレ登米町委員トシテ被告人準之助吉田村委員トシテ被告人龜一カ其ノ他ノ委員ト共ニ夫々之ニ出席シタルコト明白ナリ而シテ町村制第六十九條第三項第六十三條第三項第四項ニ依レハ委員ノ選任ニ關スル告知及承諾ヲ爲スノ方法ニ付テハ何等定ムルトコロナキヲ以テ同被告人等ニ對スル委員選定ノ告知及其ノ承諾カ書面ニ依ラサリトスルモ毫モ違法ニ非ス然ラハ原判示ノ如ク同

【要旨第二】

町村ノ耕地整理共同施行委員ノ職務ト公務員 町村委員選定ノ告知及承諾ノ方法

被告人等カ判示耕地整理工事ニ付枋内吉兵衛等ヨリ判示請託ヲ受ケ賄賂タル情ヲ知リナカラ判示金員ノ交付ヲ受ケタルモノナル以上同被告人等ハ公務員タル耕地整理共同施行委員ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタルモノニシテ被告人等ノ所爲ハ刑法第九十七條第一項前段ノ罪ヲ構成シ原判決カ同法條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ擬律錯誤ノ違法アルモノニ非ス尙原判決舉示ノ證據ヲ綜合スレハ判示收賄事實ヲ證明スルニ足り記録ヲ精査スルモ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アルコトナシ論旨ハ理由ナシ

被告人清水龜一辯護人田口織之助上告趣意書第一點原判決ハ登米町吉田村耕地整理共同施行委員トシテノ被告人清水龜一カ刑法ニ所謂公務員ナリヤ含ヤノ點ニ付町村制第六十九條ヲ誤解シ之ニ違反シテ公務員ナラサル被告人清水龜一ヲ公務員ナリトノ重大ナル誤認ヲナシタル不法アルモノト信ス抑モ町村制第六十九條第三項ノ規定ハ委員ノ就職關係ヲ明ニスルタメ特ニ追加セラレタル強行規定ナリ昭和五年十月三十一日法曹會ニ於テ「町村名譽職吏員ハ當選ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ就職關係ヲ生スヘキモノトス」ト決議シタル所以モ此處ニアリ更ニ町村制ニ於テ當選又ハ選定ト夫等ノ告知トノ間ニハ觀念上ニモ手續上ニモ明確ニ差異アルヘシ或選舉又ハ選定ニ關與シタル者自身カ當選シ又推薦セラレタリトテ直チニ其ノ選舉又ハ選定カ告知トナリ當選者ノ關與カ承諾トナルノ理ナシ選舉又ハ選定ニハ法定ノ手續アリ告知竝ニ承諾ニハ夫々別個ノ手續アラン其等ノ手續ノ一ヲ缺カハ就職關係成立セス原判

決カ清水龜一ノ就職關係ノ成立ヲ昭和四年十月十日トスルカ同年十一月十八日トスルカ稍明瞭ヲ缺クモ其ノ援用セル各證據及原審證人鈴木久兵衛ノ供述ニ依レハ昭和四年十月十日召集ノ吉田村村會ニ於テ決議セラレタル臨時委員設置規定第一條ニ依ル委員定數十名中ニ清水龜一モ推薦セラレタルコトヲ知ルニ足ル而シテ同年十一月十八日召集ノ村會ニ於テ右規定ノ第一條ヲ改正シ定員十名ヲ村會議員全部トスル旨議決セラレタルモ前記證人ノ證言ニ依レハ此ノ改正ニ依リ清水龜一外九名ノ委員タルニ變更ナク只委員外ノ議員カ新タニ委員トナリタルニ止ル趣意ナリシモノナルコトヲ認メ得ヘシ但其ノ二回ノ村會ハ何レモ全員出席セルニ非スシテ一名乃至三名ノ不參者アリシモノナリ右ノ如ク不參者サヘアル村會ニ於テ推薦選定アリシノミニテ其ノ告知ヲ爲サス從テ又承諾ノ意思表示ナクシテ其ノ儘トナリシ關係ナルニ原判決ノ如ク之ヲ無視シテ只單ニ其ノ後委員會ノ召集ニ應シタルノ一事ヲ以テ告知承諾ノ手續完了セルモノトシテ公務員ナリト認定スヘキモノニ非ス若シ原判決ノ認定ヲ正當ナリトセンカ町村制第六十九條三項ヲ特ニ追加セル立法趣旨ハ蹂躪セラレ再ヒ昭和四年以前ノ紛争ヲ繰返スノ結果トナリ本件ニ於テ有罪判決ヲ爲サンカ爲ニ法ヲ曲解シ角ヲ矯メテ牛ヲ殺スノ愚ニ陥ルノ結果トナルヘシ更ニ證人鈴木久兵衛ノ證言ニ依レハ同證人ハ村長トシテ又村會議長トシテ前述法律ノ追加ヲ知ラス從テ告知ノ必要ナル所以ヲモ知ラサリシモノナリ然ラハ同人ニ村會ノ議決ヲ以テ告知ニ代フルノ意思更ニ無カリシモノト認ムヘキナリ即チ本件ニ於テハ此ノ意味ニ於テモ町村制第六十九條三項ノ手續

ハナサレサリシモノト認定スヘキモノト確信ス以上ノ理由ナルニ依リ清水龜一ノ委員就職ハ成立セサ
 リシモノニシテ同人ハ公務員ニ非ス清水龜一ノ委員推薦カ昭和四年十一月十八日ナリトスルモ前同斷
 ノ理由ニ依リ同人ハ公務員ニ非ス辯護人ハ原判決破毀セラルヘキモノト信スト云ヒ」第二點假リニ清
 水龜一カ公務員ナリトスルモ同人ニ收賄ノ意思ナク金錢收受ノ行爲ハ罪トナラサルモノナルヲ有罪ト
 認定シタル原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルモノト信ス即チ記録一四八三丁(清水龜一ノ供述中)「私
 トシテハ塚本カ枅内ヲ輸入シタル本尊テアルト思ツテ居リマシタソレテ同人ニ返シマシタ」同一四八
 五丁(同上)「問其ノ時被告人ハ塚本カ債權者ニナルナレハ貸借名義テ二三千圓借用シテモヨイト云
 ツタカ答ソノ通り申シマシタソレハ私カ塚本カラ金ヲ借りテ恩ヲ着テ置ケハ例ヘ塚本カ請負人カラ金
 ヲ貰ヒ私カ貰ハナクテモ塚本ハ安心シテ私カ金ヲ貰ハヌコトニ付テ怒ラナイテアロウト思ヒ左様ニ申
 シタノテスソレニ對シテ塚本ハ宜シイト云ヒマシタ」同一四八六丁(同上)「問ソノトキ證書ヲ入レ
 ヤウト云ツタカ答其ノ際私ハ武藤ニ借用證書ヲ差入レヤウト云ヒマシタ問何故ソウ云ツタノカ答ソノ
 前日ノ話テ私ハソノ金ヲ借りル積リテシタカラ借用證書ヲ入レヤウト云ツタノテス處カ證書ハ要ラナ
 イト云ハレ受取ラサルヲ得ナイ立場トナツタノテ紳士ノ儀禮トシテ一應受取ツタノテス」同一四九五
 丁(塚本準之助ノ供述中)「云々西條カラ清水ハ運動費ヲ欲シクナイタロウカト聞カレ私ハ清水ハ金
 ハ多分要ラナイタロウト答ヘ西條カ清水ヲ呼ヒ相談シタ處同人ハ私ニ對シ君カ貸シテクレルナラ格別

テアルカ金ヲ貰フコトハ出來ナイト申シマシタ」更ニ原審公判調書中清水龜一供述「問昭和四年十一
 月ニ西條繁三郎カ被告人宅ヲ訪レテ只今請負師ヲ連レテ來タカラ一寸逢ツテ吳レト云ツタカ答塚本君
 ノ依頼ニ依テ來タカ請負師ヲ連レテ來タト云フ様ナコトヲ云ヒ酒造店ノ前ニテ塚本君ニ逢ツテクレ
 ト云ヒマシタソノトキ私ハ枅内組ヲ輸入シテ來タノハ塚本テ西條ハソノ下働ヲ爲スモノト直感シマシ
 タ」……「問被告人ハ千圓ノ金ヲ受取り借用證書ヲ差入レルト云ツタノカ答前晚借用證書ヲ差入レテ塚
 本君カ債權者トナルナラハ借リルト云ツタ關係上借用證書ヲ差入レルト申シマシタ處武藤ハ斯様ノ金
 ニ付テハ證書ヲ差入ルル要ハナイカラ金タケ受取レト申シマシタカラソノトキ私ハ證文ヲ差入レヌト
 賄賂ト看做サレルト思ヒマシタカ遂々金ヲ受取ツタノテス問賄賂ト見ラレルト思フ程ナラハ何故金ヲ
 受取ツタカ答ソノ工事ニハ私ハ主トシテ關係シテヨリ是迄ノ投資分モ拂ハレヌノミナラス登米町ニモ
 關係アリテ登米町ノ有力者タル塚本町會議員モ關與シテ居ルノ場テ直チニ拒絕シテハ紳士ニ對
 スル禮ヲ缺ク故ニ後日理由ヲ付テソノ金ヲ返戻スル考テ一時受取マシタ」トアル點及ヒ其ノ他調書ノ
 各所ニ表ハレタル清水龜一ノ意思ハ初メヨリ收賄ヲナス積リナク過去ニ於ケル自己ノ立替投資ノ回收
 ヲ心配シ事業ノ共同者トナリタル登米町ノ有力者塚本準之助ノ反感ヲ買ハサラントシ塚本ノ輸入セル
 枅内組ニ對シテ相當ノ返事ヲシ己ニ金圓ヲ收賄スルノ意思ナキモ明ニ之ヲ拒絕スレハ塚本ノ怒ヲ招ク
 恐アリサリトテ收賄ヲナスヘキモノニ非ルヲ以テ止ムナク一時塚本ヨリ借リルコトトシ其ノ金ノ何人

ヨリ出テタルニ關セス一旦塚本ノ所有ニ歸シタルモノヲ借用スルモ犯罪ニ非サルコトヲ確信シテ受取リタルモノナリ斯ノ如キ意思ナレハコソ間モナク之ヲ塚本ニ返送シタルモノナリ以上ノ事情ナルヲ以テ清水龜一ノ行爲ハ犯意ナク又實際上枅内ヨリ直接金錢ヲ收受セス塚本ノ所有金ヲ借用シタルモノト確信シタル關係ナルヲ以テ罪ナキモノナリ原判決ハ此ノ點ヲ誤認シテ被告人ノ行爲ヲ收賄ナリトナシタルモノナリ破毀サルヘキモノト信スト云フニ在レトモ

公務員タル判示耕地整理共同施行委員ノ地位ニ在リタル被告人龜一カ判示ノ如ク賄賂タル情ヲ知りナカラ其ノ職務ニ關シ枅内吉兵衛ヨリ西條繁三郎武藤清作等ノ手ヲ經テ判示金員ノ交付ヲ受ケタル事實ハ原判決學示ノ證據ヲ綜合シ優ニ之ヲ認定シ得ヘク從テ被告人龜一ノ判示所爲ヲ以テ收賄罪ニ間擬シタル原判決ハ正當ニシテ縱令所論ノ如ク被告人龜一カ枅内吉兵衛ヨリ直接金員ノ交付ヲ受ケタルモノニ非ス又金員ノ交付ヲ受ケタル後直ニ之ヲ返還シタリトスルモ毫モ收賄罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス記録ヲ調査スルモ原判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由ナク又爾餘ノ論旨ノ理由ナキコトハ被告人塚本準之助上告趣意書第一點ニ對スル説明ニ依リ之ヲ了解スヘシ被告人枅内吉兵衛辯護人と田金藏上告趣意書第一點原判決ハ收受者ヲ公務員ト認定シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルカ又ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フルニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ原判決ハ本件金員ヲ收受シタル清水龜一塚本準之助ノ公務員タル身分資格ニ付「宮城縣登米郡登米町及同郡吉田村

ニ於テハ兩町村共同シ耕地整理ヲ施行スルコト爲リ右耕地整理共同施行ニ關スル事項ヲ協議決定セシムル爲メ臨時委員ヲ設置スルコトトシテ昭和四年十一月中共ノ町村會ニ於テ夫々町會議員及村會議員ノ全部ヲ該委員ト爲スヘキコトヲ議決シタルカ被告人清水龜一ハ吉田村村會議員被告人塚本準之助ハ登米町町會議員トシテ夫々其ノ町村會ニ於テ選定セラレタル右耕地整理共同施行ノ委員云々ト判示シ而シテ右判示ハ原判決援用ノ證據理由竝ニ原審公判調書ノ全般ヲ通覽シテ右收受者清水龜本ノ兩名ハ町村制第六十九條ニ依リ設置セラレタル公務員ナリト認定シタルモノナルコト洵ニ明ナリ然レトモ同人等ハ該法規ニ依リ委員トシテ設置セラレタルモノニ非ス又同法規ニ依リ設置セラレタルモノトスルモ適法ナル町村會ノ決議ナク且適法ナル決議アリタリト假定スルモ其ノ決議ノ執行ナシ從テ同人等ハ公務員タル身分資格換言セハ該耕地整理共同施行委員タル身分資格ヲ獲得シタルモノニ非ス左ニ逐次其ノ理由ヲ述ヘン(イ)町村制第六十九條ニ依ル委員ナリトセハ第一ニ提案者タル町村長ハ該法規ノ存在スルコトヲ知り且之ニ基キ委員ヲ設置スヘキモノナルコトノ意識ヲ以テ原案ヲ作成シ之ヲ町村會ニ附議シ其ノ決議アリテ茲ニ始メテ委員タル資格獲得ノ根本カ樹立セラレタルモノト謂ハサルヘカラス然ルニ提案者タル登米町長菊地長七及之ニ關與シタル同町役場書記佐々木善助吉田村長鈴木久兵衛等何レモ原審ニ於テ證人トシテ供述スル如ク(原審第二回公判調書)町村制上委員設置ノ規定アルコトヲ知ラス從テ該法規ニ基ク委員タルコトヲ意識セス提案決議ヲ爲シタルモノ却テ其ノ工事

タル工事施行代表者登米町長及副代表者吉田村長ノ權限ニ於テ施行スルモノナルモ重大ナル工事ナル爲ソレヲ行フ前ニ相談役ト云フ様ナモノヲ欲シタルタメ單ニ相談相手ト云フ意味ニテ取極メタルモノニシテ嚴格ナル意味ニ於ケル委員ニ非サルカ別段名稱ノ附ケ様ナキ爲臨時委員ト名附ケ決議シタルモノナリ尙町村會ニ掛ケタル所以ハ其ノ人々ニ對シ旅費日當支給ノ關係又ハ後日苦情出來タ時分ニ困ルト思ヒ掛ケタル旨ノ供述ニ依レハ其ノ選任決議ハ町村制第六十九條ニ根據ヲ措キ爲サレタルモノニ非ス從テ其ノ決議ニ基ク被選者ハ同條ノ委員ニ非サルコト甚タ明瞭ナリ(ロ)町村會ノ決議アリ其ノ決議ノ效果ヲ發生スルニハ町村會議錄ニ基カサルヘカラサルコト論ナキトコロナリ然ルニ本件昭和六年(ち)第十號ノ證第三號昭和四年登米町會議錄第五號議案ニハ實行委員十名ヲ置ク旨記載アリ之ヲ原判決援用ノ證人ノ證言ニ町會議員全部十八名ヲ之ニ充ツルコトノ證言ニ比照セハ適正ナル決議録ハ未タ作成セス最初町長ノ提案シタルモノヲ其ノ儘トナシ置キタルモノナルヲ以テ決議ノ效果ヲ發生スルモノニ非ス從テ收受者塚本ハ此ノ點ニ於テ公務員タル資格ナシ(ハ)假ニ提案者タル町村長カ根據法規ノ存在ヲ知ラス從テ町村制第六十九條ノ委員選任ノ決議タルコトヲ意識セスシテナシタル決議カ有效ノモノナリトスルモ其ノ決議カ效果ヲ發生シ被選者カ委員タル身分ヲ取得スルニハ前記法條ニ準用セラルル同法第六十三條ノ執行ノ手續ヲ履踐スルヲ要ス即チ被選者ニ對シ其ノ旨ノ告知ヲナシ被選者ハ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ニ應スルヤ否ヤヲ申立ツヘク若シ其ノ期間内申立ヲナサ

サルトキハ被選者ハ其ノ選任ヲ辭シタルモノト看做サルヘキモノナリ本件收受者タル清水塚本其ノ他全員ノ委員ニ對シ如上ノ執行手續ヲ全然爲サス從テ同人等ハ諾否ノ申立ヲナサリシコト前記各町村長等ノ證言ニ徴シ洵ニ明白ナルヲ以テ右鈴木及塚本等ハ此點ニ於テモ委員タル身分資格ヲ取得シタルモノニ非ス敍上ノ次第ナルヲ以テ收受者タル清水一及塚本準之助ハ法令ニ根據ヲ措ク所謂委員ニ非ス從テ公務員ニ非サルコト極メテ明瞭ナリサレハ假ニ被告吉兵衛カ金員ヲ供與シタル事實アリトスルモ贈賄罪ヲ構成スルモノニ非スト云ヒ「第二點原判決ハ事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アリ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「云々第一被告人吉兵衛ハ右耕地整理工事ノ請負カ指名入札ニ付セラレタル場合ニハ岩手縣黑澤尻町土木建築請負業東北コンクリート工業株式會社ト共ニ右入札ニ加入シテ落札人トナリ該工事ヲ請負ハント欲シ被告人安五郎ト工事關係者ニ贈賄シ以テ其ノ目的ヲ達成センコトヲ相謀リ昭和四年十二月中旬仙臺市立町通料理店福樂同市北二番町通貸座敷昌平樓等ニ於テ直接或ハ原審共同被告人西條繁三郎 武藤清作等ヲ介シテ被告人龜一準之助等ニ對シ右工事ニ付自己ノ指定セシ請負人ヲ指名入札者ニ指定セラル様斡旋セラレ度旨請託シ其ノ報酬ノ趣旨ニテ賄賂トシテ(イ)其ノ頃右昌平樓ニ於テ前記會社技師長中村健二ノ醸出セル金五百圓ニ自己ノ出金セル金千圓ヲ加ヘ之ヲ原審被告人繁三郎 清作等ニ交付シ其ノ翌日同人等ノ手ヲ經テ同市南町通中村旅館ニ於テ被告人龜一ニ金千圓被告人準之助ニ金二百五十圓ヲ(ロ)同年十二月末頃更ニ右繁三郎 清作ノ手ヲ

經テ被告人準之助ノ肩書居室ニ於テ同人ニ對シ金四百圓ヲ夫々交付シ云々ト判示シ被告人吉兵衛安五郎ヲ共謀ノ共犯ト認定シタリ然レトモ原審公判調書及第一審公判調書ノ同人等取調ヲ綜合考覈シテ窺知シ得ル如ク抑モ本件工事ハ枋内組仙臺出張所主任タル川村安五郎カ武藤清作ヨリ聞キ工事ノアルコトヲ知リタルヲ以テ盛岡ニ歸リタル序ニ吉兵衛ニ告ケ同人ハ工事金ノ支拂ヒヲ受ケ得ル様ナレハ請負フモ可ナルカ何レ一應調査スヘシト云ヒタルニ其ノ後安五郎ヨリ吉兵衛ニ對シ電話ニテ仙臺へ來ルヘキ旨通知ヲ受ケ出張シタルニ料亭ニ於テ清水塚本等ト會合スルコトトナリ席上ニ於テ一應ノ挨拶ヲ爲シ會飲シタルニ止マル其ノ前後ノ狀況ヨリシテ安五郎ハ入札ノ運動ヲナシ居ルコトハ覺知シタルモ其ノ方法ハ一切同人カ擔任シ居リタルモノナレハ仔細ナルコトヲ知ラス勿論不正ノ方法ニ依テ迄該工事ノ請負ヲ入手セントハ毛頭想及ハス供與シタリト云フ金員モ別途ノ關係ニテ安五郎ノ手ニ在リシヲ同人ハ武藤ヨリ云ハレタルタメ其ノ費途ヲ確メス漠然武藤ニ交付シ同人ハ其ノ金員ヲ清水又ハ塚本ニ交付シタルコト其ノ後暫ク經過シテ始メテ知リタルモノナルコト明瞭ナリ然レハ被告人吉兵衛ハ本件罪責ヲ負フヘキモノニ非ス以上ノ次第ナルニ依リ本件事實ノ御審理相仰度候ト云フニ在レトモ被告人枋内吉兵衛カ判示工事ヲ請負ハント欲シ川村安五郎ト該工事關係者ニ贈賄シテ其ノ目的ヲ達セシコトヲ相謀リ直接或ハ西條繁三郎武藤清作等ヲ介シ公務員タル判示耕地整理共同施行委員ノ地位ニ在リシ被告人塚本準之助同清水龜一ニ對シ判示請託ヲ爲シ判示日時場所ニ於テ賄賂トシテ同人等ニ

判示金員ヲ夫々交付シタリトノ判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リ之ヲ認メ得ヘク右事實ニ依レハ賄賂罪ヲ構成スルコト明白ナリトス記録ニ徵スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル事由ナク爾餘ノ論旨ノ理由ナキコトハ被告人塚本準之助上告趣意書第一點ニ對スル說明ニ依リ之ヲ了解スヘシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○名譽毀損被告事件並附帶私訴事件

(昭和八年(九)第五四五號 一部棄却)
同年六月八日第一刑事部決定 一部移送)

【公私訴上告人】 (民事被告) 溝口武吉

【私訴上告人】 (民事原告) 溝口友藏 訴訟代理人 (堤村善太郎)

【第一審】 武雄區裁判所 【第二審】 佐賀地方裁判所

○判示事項

刑事訴訟法第六百十二條ニ所謂上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合

刑事訴訟法第六百十二條ニ所謂上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合

○決定要旨

被告人カ公私訴判決ニ對シ上告ヲ申立テ私訴原告カ私訴判決ニ對シ上告ヲ申立テタルモ被告人カ法定期間内ニ上告趣意書ヲ提出セサル爲其ノ公私訴上告ヲ棄却スル場合ニ於テハ私訴原告ノ上告事件ヲ民事部ニ移送スヘキモノトス

【参照】 刑事訴訟法第四百二十七條

上告申立人期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルト

キハ上告裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ上告ヲ棄却スヘシ

同法第六百一條 公訴ノ判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ私訴ニ付上告ヲ爲シタルトキハ上告趣意書ヲ差出ササルコトヲ得

同法第六百十二條 上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ決定ヲ以テ事件ヲ其ノ裁判所ノ民事部ニ移送スヘシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

○事實

佐賀地方裁判所ハ被告人溝口武吉ニ對スル名譽毀損被告事件ニ付昭和八年三月二十三日第二審トシテ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス

但右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ三十日間勞役場ニ留置ス

訴訟費用ハ被告人ノ負擔トス

トノ判決ヲ言渡シ尙右被告事件ニ付附帶スル民事原告溝口友藏民事被告溝口武吉間ノ私訴事件ニ付同日第二審トシテ

一 審被告ハ一審原告ニ對シ金三十圓ヲ支拂フヘシ

一 審原告其ノ餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス

私訴訴訟費用ハ一、二審共一審被告ノ負擔トス

トノ判決ヲ言渡シタル

○主 文

公私訴上告人溝口武吉ノ公私訴上告ハ之ヲ棄却ス

私訴上告人溝口友藏ノ私訴上告ニ係ル事件ヲ本院民事部ニ移送ス

○理 由

【要旨】

右公訴上告人ニ對スル名譽毀損被告事件ニ付昭和八年三月二十三日佐賀地方裁判所ノ言渡シタル第二審判決ニ對シ公訴上告人ハ上告ヲ申立テ該事件ニ附帶スル私訴事件ニ付同日同裁判所ノ言渡シタル私訴第二審判決ニ對シ私訴上告人溝口武吉及私訴上告人溝口友藏代理人堤政一ハ孰レモ上告ヲ申立テタ

刑事訴訟法第六百十二條ニ所謂上訴裁判所私訴ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合

ルモ公私訴上告人ハ法定ノ期間内ニ上告趣意書ヲ差出ササルニ依リ刑事訴訟法第四百二十七條ニ則リ公私訴上告人ノ公私訴上告ハ之ヲ棄却スヘク然レハ本件ハ私訴上告人溝口友藏ノ私訴上告ノミニ付審判ヲ爲スヘキ場合ナルヲ以テ同法第六百十二條ニ則リ事件ヲ本院ノ民事部ニ移送スヘク仍テ檢事柴碩文ノ意見ヲ聽キ主文ノ如ク決定ス

○詐欺公正證書原本不實記載行使被告事件並附帶私訴請求事件

(昭和七年(一八二九號)同八年六月八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 川村儀三治 辯護人 (足立義平) 外三名
【被上告人】 私訴原告 岡村富太郎 訴訟代理人 (岡崎源一) 長山直樹 千坂虎五郎
【第一審】 中村區裁判所 【第二審】 高知地方裁判所

○判示事項

財物騙取罪ノ成立 刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ律意 財物騙取ノ不法行為ト慰藉料請求權 法律行為ノ要素ノ錯誤

○判決要旨

一 數名共謀シテ他人ヨリ金員ヲ騙取セムコトヲ企テ偽計詐術ヲ弄

財物騙取罪ノ成立 刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ律意 財物騙取ノ不法行為ト慰藉料請求權 法律行為ノ要素ノ錯誤

シ名ヲ山林ノ賣買ニ藉リ轉賣ニ依リ多額ノ利益アルモノノ如ク
 誤信セシメタル上契約履行名義ノ下ニ金員ヲ交付セシメタルト
 キハ該契約カ法律上有效ナリヤ否又其ノ賣買價格カ相當ナリヤ
 否ハ詐欺罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスモノニ非スシテ其ノ交付セシ
 メタル金員ノ全部ニ付財物騙取罪成立スルモノトス【要旨第一】

二再審ノ原由ヲ規定スル刑事訴訟法第四百八十五條第二號ニ原判
 決ノ憑據ト爲リタル證言鑑定通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虚偽
 ナリシコト證明セラレタルトキトハ再審ノ對象ト爲ルヘキ判決
 ニ於テ事實確定ノ基礎ト爲リタル證言鑑定等カ他ノ確定判決ニ
 因リテ虚偽ナリシコト證明セラレタル場合ヲ指稱スルノ義ニシ
 テ原判決カ其ノ證言鑑定等ヲ事實確定ノ資料ト爲ササリシトキ
 ノ如キハ之ヲ以テ再審ノ事由ト爲スコトヲ得サルモノトス【要旨
 第二】

三財物騙取ノ不法行爲ヲ實行シタル場合ニ於テ被害者カ財産權ヲ
 侵害セラレ損害ヲ生シタル外意思決定ノ自由ヲモ害セラレタル

爲特ニ精神上ノ苦痛ヲモ被リタル事實アルトキハ被害者ハ財産
 上ノ損害賠償ノ外精神上ノ苦痛ニ對スル慰藉料ヲ請求シ得ヘキ
 モノトス【要旨第三】

四法律行爲ノ要素トハ各個ノ法律行爲ニ於テ表意者カ意思表示ノ
 目的ノ主要部分ト爲シタル事項ヲ云ヒ要素ノ錯誤ハ若此ノ點ニ
 付錯誤ナカリセハ其ノ意思表示ヲ爲ササルヘク且其ノ之ヲ表示
 セサルコトカ一般取引上ノ通念ニ照シ相當ナリト認めラルル場
 合ニ存在スヘキモノトス【要旨第四】

【參照】刑法第二百四十六條第一項 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ
 懲役ニ處ス

刑事訴訟法第四百八十五條 再審ノ請求ハ左ノ場合ニ於テ有罪ノ言渡ヲ爲シタル確
 定判決ニ對シテ其ノ言渡ヲ受ケタル者ノ利益ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得

- 一 原判決ノ憑據ト爲リタル證據書類又ハ證據物確定判決ニ因リ偽造又ハ變造ナ
 リシコト證明セラレタルトキ
- 二 原判決ノ憑據ト爲リタル證言鑑定通譯又ハ翻譯確定判決ニ因リ虚偽ナリシコ
 ト證明セラレタルトキ
- 三 有罪ノ言渡シテ受ケタル者ヲ誣告シタル罪確定判決ニ因リ證明セラレタルト

財物騙取罪ノ成立 刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ律意 財物騙取ノ不法行
 爲ト慰藉料請求權 法律行爲ノ要素ノ錯誤

キ但シ誣告ニ因リ有罪ノ言渡ヲ受ケタルトキニ限ル

四 原判決ノ懸據ト爲リタル通常裁判所又ハ特別裁判所ノ裁判確定裁判ニ因リ變更セラレタルトキ

五 特許權、實用新案權、意匠權又ハ商標權ヲ害シタル罪ニ因リ有罪ノ言渡シヲ爲シタル事件ニ付其ノ權利ノ無効ノ審決確定シタルトキ又ハ無効ノ判決アリタルトキ

六 有罪ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ無罪若ハ免訴ヲ言渡シ、刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ對シテ刑ノ免除ヲ言渡シ又ハ原判決ニ於テ認メタル罪ヨリ輕キ罪ヲ認ムヘキ明確ナル證據ヲ新ニ發見シタルトキ

七 原判決若ハ前審ノ判決若ハ其ノ判決ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事豫審終結決定若ハ其ノ基礎ト爲リタル取調ニ關與シタル判事公訴ノ提起若ハ其ノ基礎ト爲リタル捜査ニ關與シタル檢事又ハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ公訴ノ提起ノ基礎ト爲リタル處分ヲ爲シタル判事被告事件ニ付職務ニ關スル罪ヲ犯シタルコト確定判決ニ因リ證明セラレタルトキ但シ原判決ヲ爲ス前判事又ハ檢事ニ對シテ公訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ原判決ヲ爲シタル裁判所其ノ事實ヲ知ラサリシトキニ限ル

民法第七百九條 故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

同法第七百十條 他人ノ身體自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合

トチ間ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

同法第九十五條 意思表示ハ法律行爲ノ要素ニ錯誤アリタルトキハ無効トス但表意者ニ重大ナル過失アリタルトキハ表意者自ラ其無効ヲ主張スルコトヲ得ス

○事實

第二審ハ本件公訴ニ付左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人川村儀三治 尾崎重馬ヲ各懲役一年六月ニ被告人松田隆ヲ懲役八月ニ被告人稻田勇次郎ヲ懲役六月ニ處シ被告人稻田勇次郎ニ對シテハ裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人川村儀三治 尾崎重馬 松田隆ニ對シテハ各未決勾留日數中四十日ヲ其ノ本刑ニ算入スヘキ旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人川村儀三治ハ土豫銀行其ノ他ヨリ合計金三千餘圓ノ負債アリタルヲ以テ債權者ヨリ所有財産ノ差押等ノ處分アルヘキヲ豫想シ之ヲ免ルル爲所谷榮ト相謀リ昭和六年七月十七日高知縣幡多郡中村町(以下中村町ト略稱ス)ニ於テ昭和六年七月十日所谷榮ヨリ金千五百圓ヲ借受ケタル旨ノ虛偽ノ金員借用證書(證第四號)ヲ作成シタル上同日中村區裁判所登記官吏ニ對シ右債權ノ擔保トシテ自己及父安之丞所有ノ同縣同郡大河筋村惡瀬々ヨコボキ山三千二百二十五番ノ四山林四反歩外二十一筆及宅地建物不動産上ニ抵當權ヲ設定シタル旨ノ虛偽ノ登記申請ヲ爲シ同登記官吏ヲシテ同裁判所備付ノ登記簿原本ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ且之ヲ同裁判所ニ備付ケシメテ行使シ

財物騙取罪ノ成立 刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ律意 財物騙取ノ不法行爲ト認爲テ法律行爲ノ要素ノ錯誤

第二 被告人川村儀三治ハ渡邊祐次郎ニ對シ金錢債務ノ辨濟トシテ山林等ヲ引渡スコトト爲リタルカ右祐次郎カ寧ロ金員ヲ希望シ居レルヲ奇貨トシ被告人尾崎重馬 松田隆ト共謀ノ上右祐次郎ヨリ金圓ヲ騙取センコトヲ企テ昭和六年十二月頃中村町等ニ於テ被告人尾崎重馬及川村儀三治ヨリ交々祐次郎ニ對シ横山馬次カ山林買入ノ希望ヲ有スルモ川村儀三治ハ信用ナキ故同人ヨリ直接買受ケテ望マサルニ付川村儀三治所有ノ大川筋村惡瀬々ヨコボキ山林三千二百二十五番ノ四外三筆ヲ一應貴殿ノ所有トシ更ニ之ヲ貴殿ヘ引渡スヘキ山林等ト共ニ横山馬次ニ賣却シ吳レ度ク同人ハ必ス買受クヘキ趣旨ノ詐言ヲ弄シテ承諾セシメ他面其ノ頃被告人松田隆ヨリ山林買受ノ意思ナキ横山馬次ニ對シ其ノ情ヲ明カシテ祐次郎ニ對シ前示山林ヲ買取ルカ如ク裝ヒ吳レ度キ旨申含メ同年十二月十九日中村町山岡代書人方ニ於テ祐次郎ヲシテ右横山馬次トノ間ニ前示山林等ヲ之ニ設定セラレタル抵當權抹消ノ上代金三千六百圓ニテ賣渡スヘキ旨ノ契約(證第六號)ヲ締結セシメタル上同月二十二日頃中村町小橋代書人方ニ於テ右賣買山林ノ一部ニ設定セラレタル抵當權抹消名義ノ下ニ同日同所ニ於テ渡邊祐次郎ヲシテ抵當權者ト稱スル所谷榮ニ金千二百圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ

第三 被告人川村儀三治及尾崎重馬ハ共謀ノ上前同様ノ方法ニ依リ川村儀三治所有ノ高知縣幡多郡大川筋村惡瀬々字アマケ谷三千二十八番外一筆ノ山林賣買ニ藉口シテ岡村富太郎ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和六年十二月中被告人尾崎重馬ヨリ中村町等ニ於テ右岡村富太郎ニ對シ川村儀三治ノ

山林ヲ稻葉勇次郎カ金四千圓ニテ買受ノ希望ナルモ川村儀三治ハ信用ナク同人トノ直接取引ヲ好マサル故其ノ許カ一應川村儀三治ヨリ右山林ヲ買受ケタル上之ヲ右稻葉勇次郎ニ賣却シ吳レ度川村儀三治ハ三千三百圓ニテ満足スヘキ故相當利益アル趣旨ノ詐言ヲ構ヘテ富太郎ヲシテ承諾セシメ他方該山林買受ケノ意思ナキ被告人稻葉勇次郎ニ對シ被告人尾崎重馬ヨリ其ノ情ヲ明カシ同人ヲシテ恰モ前示山林ヲ買受ケルモノノ如ク裝ハンコトヲ申シ含メタル上同月三十一日中村町ニ於テ岡村富太郎ヲシテ被告人勇次郎ニ前記山林ヲ金四千圓ニテ賣渡スヘキ旨ノ契約(證第一號)ヲ締結セシメ且同日更ニ同町ニ於テ富太郎ヲシテ被告人儀三治ヨリ三千三百圓ニテ右山林ヲ買受クヘキ旨ノ契約ヲ締結セシメタル上附金又ハ代金ノ内入等ノ名義ニテ昭和七年一月十二日金四百圓同月十九日金千五百圓同月二十日金十五圓ヲ何レモ中村町ニテ被告人儀三治ニ交付セシメ之ヲ騙取シ
尚富太郎及被告人勇次郎間ノ前示賣買契約書ニ山林ノ地番ヲ誤記セシメ置キタル上富太郎ヲシテ右契約ヲ解除スルノ已ムナキニ至ラシメ手附金倍額償還名義ノ下ニ同月十六、七日頃中村町ニテ金四百圓ヲ被告人勇次郎ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ

被告人勇次郎ハ敍上ノ如ク其ノ情ヲ知リナカラ被告人川村儀三治 尾崎重馬ノ依頼ヲ受ケ假裝買受人ト爲リテ同人等ノ前示犯行ヲ容易ナラシメ之ヲ幫助シ

第四 被告人松田隆ハ眞實抵當權設定ノ事實ナキニ拘ラス被告人川村儀三治ト共謀ノ上昭和七年一月

二十一日被告人隆カ昭和六年六月十日其ノ所有ニ係ル中村町千五百四十七番地ノ宅地及建物ヲ抵當トシ所谷榮ヨリ金三千圓ヲ借受ケタル旨ノ借用證書ニ基キ中村區裁判所登記官吏ニ對シ抵當權設定登記申請ヲ爲シ仍テ同登記官吏ヲシテ同裁判所備付ケノ登記簿ニ其ノ旨不實ノ記載ヲ爲サシメ且之ヲ同所ニ備付ケシメテ行使シタルモノナリ

而シテ前示被告人川村儀三治及尾崎重馬ノ各詐欺被告人川村儀三治ノ公正證書不實記載同行使ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノニシテ尙被告人尾崎重馬ハ昭和四年四月二十七日大阪控訴院ニ於テ詐欺横領罪ニ因リ懲役一年ニ處セラレ當時其ノ刑ノ執行ヲ受ケ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人川村儀三治ノ判示第一及第四ノ所爲中公正證書原本不實記載ノ點ハ刑法第五百十七條第一項第六十條第五十五條ニ同行使ノ點ハ同法第五百十八條第一項第五百十七條第一項第六十條第五十五條ニ各該當スルトコロ公正證書原本不實記載ト同行使トハ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ從ヒ重キ行使ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ懲役刑ヲ選擇シ判示第二第三ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第六十條第五十五條ニ該當スルトコロ右詐欺罪竝前段不實記載ノ爲サレタル公正證書原本行使ノ各罪ハ併合罪ノ關係アルヲ以テ同法第四十五條第四十七條本文第十條ニ則リ重キ詐欺ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ同法第四十七條但書ノ制限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處スヘキモノトシ被告人尾崎重馬ノ判示第二第三ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一

項第六十條第五十五條ニ該當スルヲ以テ詐欺ノ一罪トシ被告人ニハ判示前科アルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ從ヒ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年六月ニ處シ被告人松田隆ノ判示第二ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第六十條ニ第四ノ所爲中公正證書原本不實記載ノ點ハ同法第五百十七條第一項第六十條ニ同行使ノ點ハ同法第五百十八條第一項第五百十七條第一項第六十條ニ各該當スルトコロ右公正證書原本不實記載ト同行使トハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ從ヒ重キ行使ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ且懲役刑ヲ選擇シ尙前記詐欺ノ罪トハ併合罪ノ關係アルヲ以テ同法第四十五條第四十七條本文第十條ニ從ヒ重キ詐欺ノ罪ニ付定メタル刑ニ法定ノ加重ヲ爲シ同法第四十七條但書ノ制限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役八月ニ處シ被告人稻葉勇次郎ノ判示第三ノ所爲ハ同法第二百四十六條第一項第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ同法第六十三條第六十八條第三號ニ從ヒ減輕シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役六月ニ處シ尙右被告人ニ付テハ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認メ同法第二十五條ニ從ヒ三年間右刑ノ執行ヲ猶豫シ被告人川村儀三治 尾崎重馬 松田隆ニ對シテハ同法第二十一條ニ從ヒ各自未決勾留日數四十日ヲ其ノ本刑ニ算入スヘキモノトス(以下略ス)

第二審私判決ノ主文事實並理由ハ左ノ如シ

主 文

財物騙取罪ノ成立 刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ律意 財物騙取ノ不法行
爲ト慰藉料請求權 法律行爲ノ要素ノ錯誤

民事被告儀三治 重治 勇次郎ノ三名ハ連帶シテ原告ニ對シ金二千四百十五圓ヲ支拂フヘシ民事原告其ノ餘ノ請求ハ之ヲ棄却ス私訴ニ付生シタル訴訟費用ハ被告等ノ連帶負擔トス

事實

原告訴訟代理人ハ被告儀三治 重治 勇次郎ノ三名ハ連帶シテ原告ニ對シ金二千八百十五圓ヲ支拂フヘシ私訴ニ付生シタル訴訟費用ハ被告三名ノ連帶負擔トストノ判決ヲ求メ其ノ請求ノ原因トシテ被告三名ハ共謀ノ上被告川村儀三治ノ所有ニシテ其ノ父川村安之丞名義ナル原告居村惡瀬々字アマケ谷三千二十八番山林一町七反三畝十二步同所三千三十五番山林一反四畝歩ニ付名ヲ賣買ニ藉リ原告ヲ欺罔シ金錢ヲ騙取センコトヲ企テ原告ニ對シ該山林ハ被告稻葉勇次郎ニ於テ代金四千圓ニテ買受クルコトニ爲リ居レルモ川村如キ多額ノ負債アルモノト直接取引ヲ好マス相當ノモノヲ仲間ニ入レ取引シタシトノ事ナレハ形式上該山林ハ代金三千圓ニテ買受ケ更ニ之ヲ稻葉勇次郎ニ代金四千圓ニテ賣渡シ吳レ度シト申込ミタルヲ以テ原告ハ之ヲ信シ昭和六年十二月三十一日中村町ニ於テ原告ヲ賣主被告稻葉勇次郎ヲ買主トセル前示山林ヲ代金四千圓ニテ賣買スヘキ旨ノ契約書ニ署名捺印シ更ニ同日被告川村儀三治ヲ賣主トセル賣買契約書ニ署名捺印シ被告川村儀三治ノ云フカ儘ニ昭和七年一月十三日迄ニ手附金名義ノ下ニ金六百圓ヲ又被告稻葉勇次郎トノ間ニ於ケル賣買契約書ニ記載シアル地番ハ全然他人所有ノ不動産ニシテ詐欺行爲ナルカ故ニ手附金倍戻トシテ金四百圓ヲ支拂フヘシト要求セラレ其ノ爲金四

百圓ヲ又原告ニ於テ買受ノ意思ナキニ拘ラス被告川村儀三治トノ間ニ賣買契約ヲ締結シタルハ詐欺ナリト申込ミ原告ヲシテ止ムナク賣買ノ契約ヲ履行スルニ至ラシメ金千五百十五圓ヲ被告ニ交付セシメ被告等ハ原告ヨリ合計二千五百十五圓ヲ詐取スルニ至リタリ而シテ原告ハ右損害以外ニ詐欺ニ因リ意思決定ノ自由ヲ侵害セラレ精神上ノ苦痛ヲ受ケ又被告川村儀三治ニ對シ賣買代金ヲ支拂フカ爲夫婦老後ノ生活資料トシテ所有スル全財産ヲ擔保ト爲シ土豫銀行ヨリ金借スル等尠カラズ悲哀ヲ感シ精神的損害ヲ受ケタルニ付慰藉料トシテ金三百圓ノ要求ヲ爲スヘク依テ以上合計金二千八百十五圓ヲ支拂ヲ求ムル爲本訴ニ及ヒタリト陳述シ被告等ノ抗辯事實ヲ否認シ立證トシテ本件公訴記録竝證據物全部ヲ利益ニ援用シタリ

被告川村儀三治訴訟代理人及被告稻葉勇次郎訴訟代理人ハ何レモ原告ノ私訴ヲ却下ストノ判決及原告ノ請求棄却ノ判決ヲ求メ被告尾崎重馬ハ原告ノ請求棄却ノ判決ヲ求メ其ノ答辯トシテ被告川村儀三治訴訟代理人ハ原審裁判所カ公訴ト分離シテ時ヲ異ニシ私訴ノ審理及判決ノ言渡ヲ爲シタルハ失當ナリト述ヘ本案ニ付原告主張事實ハ全部之ヲ否認ス假ニ欺罔ノ事實アリトスルモ原告ハ原被告間ノ賣買契約ニ因リ山林ヲ取得シ居レルカ故ニ何等ノ損害ヲ蒙リ居ラスト述ヘ被告稻葉勇次郎訴訟代理人ハ原審裁判所カ公訴ト分離シ時ヲ異ニシテ私訴ノ審理及判決ノ言渡ヲ爲シタルハ失當ナリト述ヘ本案ニ付被告カ原告トノ間ニ其ノ主張ノ如キ山林ニ付賣買契約ヲ締結シタルコト及原告ヨリ契約解除ノ通知ヲ受

財物騙取罪ノ成立 刑事訴訟法第四百八十五條第二號ノ律意 財物騙取ノ不法行爲ト慰藉料請求權 法律行爲ノ要素ノ錯誤

クルト同時ニ金四百圓ノ交付ヲ受ケタルコハ相違ナキモ其ノ餘ノ原告ノ主張事實ハ被告勇次郎ノ關與セサル處ナリ假ニ欺罔ノ事實アリトスルモ原告ハ被告川村儀三治ヨリ賣買ニ因リ山林ヲ取得シ居レルカ故ニ何等ノ損害ヲ蒙リ居ラス又右賣買ニ付テハ原告ニ重大ナル過失アルヲ以テ詐欺ノ事實アリトスルモ原告ニ對シ慰藉料ノ支拂ヲ爲スヘキ謂レナシト述ヘ被告尾崎重馬ハ原告主張事實ヲ否認シ假ニ右事實アリトスルモ被告ハ金百二十五圓ヲ得タルニ過キス右金員以外ノ支拂ヲ爲スヘキ義務ナシト述ヘ被告等ハ何レモ立證トシテ本件公訴記録及證據物ヲ利益ニ援用シタリ

理由

先形式上ノ抗辯ニ付案スルニ本件記録ニ依レハ原審ニ於テハ公訴公判及判決言渡後ニ私訴ニ付審理及判決言渡アリタルコト明ナルモ右ハ刑事訴訟法上私訴ヲ却下スヘキ何レノ場合ニモ該當セサルノミナラス我刑事訴訟法ハ私訴ニ付テモ亦公訴ニ於ケルト同シク覆審主義ヲ採用セルモノト解スヘキカ故ニ控訴審ノ手續違法ナラサル限リ原審手續ニ敍上ノ如キ瑕疵アルモ原告ノ私訴ヲ却下スルノ理由ト爲ラス被告等ノ抗辯ハ理由ナシ進ンテ本案ニ付按スルニ被告川村儀三治及尾崎重馬ハ共謀ノ上原告主張ノ山林賣買ニ藉口シテ原告ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ昭和六年十二月中被告重馬ヨリ高知縣幡多郡中村町等ニ於テ原告ニ對シ川村儀三治ノ山林ヲ被告稻葉勇次郎ニ於テ金四千圓ニテ買受ケノ希望ナルモ川村儀三治ハ信用ナク同人トノ直接取引ヲ好マサル故其ノ許カ一應川村儀三治ヨリ右山林ヲ買受ケ

タル上之ヲ右稻葉勇次郎ニ賣却シ吳レ度川村儀三治ハ三千三百圓ニテ満足スヘキ故相當ノ利益アル趣旨ノ詐言ヲ構ヘテ之ヲ承諾セシメ他方該山林買受ケノ意思ナキ被告勇次郎ニ對シ被告重馬ヨリ其ノ情ヲ明シ同人ヲシテ恰モ前示山林ヲ買受クルモノナルカ如ク裝フヘキコトヲ申含メ置キタル上同年十二月三十一日中村町被告勇次郎方ニ於テ原告ヲシテ同人ヨリ被告勇次郎ニ前記山林ヲ金四千圓ニテ賣渡スヘキ旨ノ契約ヲ締結セシメ同日更ニ中村町小野代書人方ニ於テ原告ヲシテ同人カ被告儀三治ヨリ三千三百圓ニテ前示山林ヲ買受クヘキ旨ノ契約ヲ締結セシメタル上手附金又ハ代金ノ内入金ノ名義ヲ以テ昭和七年一月十二日以降同月二十日迄ノ間ニ被告儀三治ニ合計金千九百十五圓ヲ交付セシメテ之ヲ騙取シ尙原告及被告勇次郎間ノ前記賣買契約書ニ山林ノ地番ノ記載方相違セシメ置キタル上原告ヲシテ右契約ヲ解除スルノ止ムナキニ至ラシメ手附金倍額償還名義ノ下ニ同月十六、七日頃中村町ニ於テ金四百圓ヲ被告勇次郎ニ交付セシメテ之ヲ騙取シ被告勇次郎ハ敍上ノ如ク其ノ情ヲ知り乍ラ被告人儀三治重馬ノ依頼ヲ受ケテ假裝買受人ト爲リ同人等ノ前示犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルモノナルコト公訴判決ニ掲ケタル各證據ニ依リ之ヲ認ムルニ十分ナルヲ以テ被告三名ハ共同ノ不法行爲ニ因リ原告ヲシテ合計金二千三百十五圓ノ損害ヲ蒙ラシメタルモノト謂ハサルヘカラス而シテ被告等ハ原告ハ被告儀三治トノ間ノ賣買ニ因リ山林取得シ居レルカ故ニ何等損害ヲ蒙ラサル旨抗辯スレトモ原告ト被告儀三治間ノ右賣買ニ於テハ被告勇次郎カ更ニ原告ヨリ眞實右山林ヲ買受クヘキコトヲ契約